# 文明開化

## 裁判篇

四

166
321

166-321
*1200901389291*

# 文明開化

## 裁判篇

四

166
321

30. 8. 15

# 文明開化

四

大正
15. 9. 17
内交

# 自序

本書は明治維新後の過渡期に於ける奇裁判集である、刑法は姑く幕府の舊に據るとせし慶應三年十月、其舊法に改訂を加へしは明治元年十月、初めて新律綱領を公布されしは三年十二月、改定律令が六年七月、舶來法律の燒直したる新刑法が十五年一月よりの實施であつた、此新舊混沌未開蠻習の時代に於て、幼稚な警官の檢擧、無識な判官の裁決であるから、事々件々奇ならざるを得ない、梟首、永預け、閉門、笞杖、庶人に下す除族、懲役代りの贖罪金等現代人には不可解の刑名があり、又

父の妾と私通せしが爲めに準流十年の刑を受けし者

發狂人又は五六歳の童兒を捕へて刑を科せし事

夫の喪に居て坊主と私通せし後家が懲役一年

死者に對して存命なれば徒罪三年可申付者なりとの言渡

チヨボクレを作りしとて罰せられた巡査

金圓借用證書に官名を記載せしとて罰金二十五錢

大道にて放尿せし者を捕へて科料五錢に處するに違警罪裁判所として裁判官書記等連署の正式言渡書を作製せし事

などは再び見ることを得ない奇裁判ではないか

刑罰は犯罪人に對して國家が統治權を行使する惡報であると云ふが、未開蠻習の時代に於ける缺陷の多い法律制度では、罪の輕きに罰の重きもあり、罪の重きに罰の輕きもあつて、惡に惡報の不釣合な事實が多かつた、されば今日此過渡期の奇裁判を集めて見ることは、啻に自己回顧として最も興味の多い奇談珍聞であるばかりでなく、文化史、法制史、刑罰史の一部分として亦も有益なものであらう

## 例言

○本書は『文明開化』の第四「裁判篇」である、明治元年より新刑法實施の十四年末迄の間に於ける奇裁判、犯罪事實の奇、刑罰の奇、判決文形式の奇等を撰拔して年代順に列擧し、十五年より二十二年までは毎年一件以上四五件までの判例を擧げて、裁判の變遷を知らしめるのである、之を一時『表裏叢書』の一部とし『明治珍奇裁判史』と題して發行せんとした事もあつたが、舊に復して豫定の如く『文明開化』に收めたのである

○本書に收めた外に奇裁判はマダ多くあるが、發行豫定の著書に入るべきものは採集しない（筆禍史、舌禍史などの資料には數十の奇裁判がある）又既刊の『明治奇聞』や『明治演說史』、『明治密偵史』などにも多くの奇裁判を出してあるが、一二件の外はそれを取らない

○裁判には民事刑事の二があるに、本書には刑事裁判の事ばかりで、民事裁判の事は一つも採らない、これは編纂者の性癖で、民事には興味を持たなかつた爲めであるが、一方に偏するのは不可であり、又民事にも面白い裁判のある事を知つたから、追つては『珍訴訟集』を發行する

○判決文は年代の月日順に列擧したのであるが、同一人の初審と終審、同一人の再犯事件などは、年代に拘らず連續に掲載してある、又紙面の體裁上、月日順でなく前後せしめた所も二三ある

○初期の判決文には、それを言渡した官廳の名を署してないが、元年には刑法事務局の斷獄掛、刑法官中の判官事、二年七月後は刑部省の大中小判事、四年九月後は府縣廳の聽訟課に於ける縣令又は判事が言渡し、五年九月後は東京裁判所、各府縣裁判所の名で言渡したものである、司法省裁判所は五年五月に出來、それを改稱した大審院は八年四月に出來、各地の上等裁判所は同年五月に出來た

○裁判言渡書の形式が變遷した事は、本書を通讀すれば明瞭に諒解し得るであらう、五年十月には「其方儀云々ノ條ニ依テ懲役何年申付ル」といふ申渡罰文が定まり、同年十一月よりは「左ノ通リ相違不申上候以上」といふ口供書を徵し、それに罰文を附記する事も行はれたのである

○本書に採錄する判決文は、それが悉く確定裁判ではない上告制度が出來た明治五年後の裁判には、本人が上告して輕く濟み、檢事が上告して重く刑せられたのがあるかも知れない

# 目次


緒言……一
外人傷害の暴徒……（三枝蓊等……明治元年）二
官軍に敵對せし者……（松平容保等……明治元年）二
藩主不行屆の罪……（有馬氏弘……明治二年）四
大村益二郎戕害者……（五十嵐伊織等……明治二年）四
幕府を再興せんとせし者……（雲井龍雄等……明治三年）五
神奈川縣屬官の犯罪……（栗原貢輔等……明治四年）六
朝鮮征伐の陰謀露顯……（丸山作樂……明治五年）七
貸金請求の僞訴……（朝倉景宣……明治五年）七
父の妾と奸通せし罪……（落合吉郎等……明治六年）八
皇城失火の責任者……（下婢榮枝等……明治六年）八
棄兒を拾つて棄つ……（畑野源吉……明治六年）八
建白書を新聞紙上に……（井上馨等……明治六年）九
請願狂者の越訴……（清水吉兵衛……明治六年）九
英人を傷けし發狂人……（内田百之……明治六年）九
空米賣買の科……（磯野小右衛門……明治六年）一〇
居喪犯姦と二等親告訴罪……（最上日孝等……明治六年）一〇
大參事の財盜犯……（江良元善等……明治六年）一一
虛僞の相續願……（鷲尾林藏……明治六年）一二
掲示札を取外せし者……（村瀨一……明治六年）一三
妻を遊女に賣りし件……（船橋良助等……明治六年）一三
徒黨癖ある水戸藩士……（姓名不詳……明治七年）一三
盲人の奸淫未遂罪……（宮田房野……明治七年）一三
遊女の袷を着逃せし文學生（藤本一……明治七年）一四
世界國盡の僞版者……（廣瀨爲政等……明治七年）一四
新橋鐵道局構内に放尿……（齋藤仙助……明治七年）一五
自儘にて宮參りせし官吏……（間宮時行……明治七年）一五
奸夫奸婦を殺せし者……（石毛周助……明治七年）一五
隱賣女を打擲せし客……（德岡國之助等……明治七年）一六
猥褻行爲の巡査……（石田義治……明治七年）一六
チヨボクレを作りし巡査……（神知英……明治七年）一七
駈落せんとせし男女……（松井金次郎等……明治七年）一七
小娘を川中に取落せし傳兒（川井喜助……明治七年）一八
電信線に紙鳶を掛けし童……（平林忠藏……明治七年）一八
暴擧陰謀の惡僧……（井上心學等……明治七年）一八
梟首されし江藤新平……（江藤新平等……明治七年）一九
手棒を切斷せし巡査……（廣瀨明敎等……明治七年）一九
火札を貼りし借金男……（林吉藏……明治七年）一九
巡査を嘲弄せし若者……（福田豐吉等……明治七年）一九
同性を奸せんとせし懲役者（櫻井佐吉……明治七年）二〇
岩倉右大臣暗殺未遂の犯人（武市態吉等……明治七年）二〇
隱し置きたる短刀……（三上山三郎……明治七年）二〇
藝妓鑑札を落せし科……（たね等……明治七年）二〇
横着なる郵便役所員……（皆川常三郎……明治七年）二一
阿片喫烟罪の清國人……（陳四……明治七年）二一
乞食旅行の僞醫者……（杉本義嗣……明治七年）二一
官等姓名誤寫の上申書……（石黑忠悳……明治七年）二三
未練男の髮切り……（三田村銀次郎……明治七年）二三
警保掛の逮捕狀僞造……（井上貴志郎……明治八年）二三
縊死體を轉移せし科……（野中又吉……明治八年）二三
郵便規則違反の信書依託罪（阿部五郎右衛門明治八年）二三
私印盜用金借證書僞造……（北澤金吾等……明治八年）二四
堤防を破壞せし農民の巨魁（富山榮吉等……明治八年）二五
廣澤參議暗殺の嫌疑者……（起田正一等……明治八年）二五
許可を得ずして外國人雇入（本田貞次郎……明治八年）二六
隱賣女の客引婆……（鈴木りん……明治八年）二六
裁判官の暴行……（佐久間恪……明治八年）二七
藩名を詐稱して蒸氣船買入（原源次郎等……明治八年）二七
稻荷の託宣と詐稱せし狐婆（宮崎しげ……明治八年）二八
イケナイ誤認のジャウダン（小林萬吉……明治八年）二八
僞の明治政府顚覆盟約書……（山科生幹等……明治八年）二九
坊主と密通の子おろし……（奥山こう等……明治八年）三〇
自家用酒密釀者の處刑……（前島利右衛門……明治八年）三〇
裁判圖會……（一）……三一
尾去澤銅山事件……（井上馨等……明治九年）三二
奇藥を服用せしめし醫者……（護岡豐武齋……明治十年）三四
妻を貰はん爲めに僞籍……（橘日琢……明治十年）三四
華族の證劵印紙稅則違反……（松前修廣等……明治十年）三四
借用證書に官名記載の科……（齋藤時之……明治十年）三四
西鄕隆盛方の一大將……（池部吉十郎……明治十年）三五
石川舜台の毆打罪……（石川舜台……明治十一年）三五
大久保利通暗殺共犯者……（島田一郎等……明治十一年）三六
高知の明治政府顚覆黨……（林有造等……明治十一年）三九
伊藤博文暗殺未遂者……（山本寅吉……明治十一年）四四
毆打致死の自首者……（三浦喜太郎……明治十二年）四四
毒婦高橋お傳の罪狀……（高橋でん……明治十二年）四五
婦女の失火延燒罪……（やよ……明治十三年）四九
日報社探訪員の窃盜罪……（關根良弼……明治十三年）五〇

他人の妻を挑みし男……（前田松太郎…明治十三年）五〇
愚人を眩惑せし科……（長山樹……明治十三年）五〇
裁判圖會……（二）……五一
父の仇を討ちし謀殺奇談…（臼井六郎……明治十四年）五三
板垣退助謀殺未遂犯人……（相原尙褧……明治十五年）五七
放尿の科料金五錢……（上田鹿三……明治十五年）五八
紙幣僞造行使者……（熊坂長庵……明治十五年）五九
裁判圖會……（三）……六一
明治天一坊……（松平良七……明治十六年）六三
一回代金四錢の賣淫……（賣女鶴……明治十六年）六六
福島國事犯事件……（河野廣中等…明治十六年）六七
同事件の穩密探偵……（鎌田猶三……明治十六年）七五
裁判圖會……（四）……七七
天誅黨の主謀者……（赤井景韶……明治十六年）八一
破獄逃走殺人犯……（松田克之等…明治十八年）八七
裁判圖會……（五）……八九
支那人を殺せし巡査……（峰進……明治十七年）九二
代言人試驗問題竊盜事件…（佐藤丑三等…明治十八年）九四
米商會所頭取の賭博犯……（米倉一平……明治十九年）九六
藝妓の箱屋殺し……（花井ムメ……明治二十年）九六
伊藤博文井上馨を誹議す…（井上角五郎…明治廿一年）九八
暗殺者を故殺せし者……（座田秀重……明治廿二年）一〇〇
刺客のハダカ屍體……（丸山浪吉等…明治廿二年）一〇三
（追補）古褌を祝物として…（池月眞澄……明治八年）一〇三
自殺……一〇四

此裁判篇は明治初期の刑罰奇史なり未開時代の法律的制裁史なり又專制政府の苛察判決例なり

# 文明開化　四　裁判篇

編纂者　廢姓外骨

## 緒言

犯罪事實の奇は、時勢の弊習を語るものとして、明治世相史の一斑と見るべく、刑罰寬嚴の奇は、新舊混沌未開政治の狀態として、法制史刑罰史の斷片と見るべく、判決文形式の奇も亦同樣であつて、共に文明開化の歷程と見るものである

尙又これを委細に觀察すれば、種々の研究資料にも利用し得るであらう、試みに人名に就ての考證だけを擧げていへば、後に云々の功過ありし者に此犯罪事實があつたか、舊官吏にして此再犯を敢てするに至つたのは何故であるか、後年何某を裁判せし者は此暴行判事であつたか、毒婦として天下に著名なりしも其事實は斯く單純であつたか、此犯人は現存者何某の父なり、此犯人は近年まで某地に住して何業に從事し居たりなど、讀者各位に於ても各種の發見を遂げ得るであらう

一部の裁判篇に過ぎないものではあるが、斯くの如き注意と批判眼とを以て通讀したならば、單に好奇性の興趣を得るのみでなく、世態の變遷、人情の機微をも窺ひ知ることを得て、自己を利し社會を益し、所謂實生活改善策の動機と成るかも知れない

## ●外人傷害の暴徒

鎖國攘夷黨の暴徒が慶應四年(明治元年)二月三十日、京都の宮廷へ召された英國公使パークス一行の參内を途中に要擊した一件に就ての判決文が、同年三月下旬出版の英國敎師ベーリー編の『萬國新聞紙』に出て居る、其全文

英公使え手向ひせし者えの刑罪言渡し左の如し

二月晦日英國公使參内の砌り於途中同類申合せ白刄を以て公使に隨ふ英兵え爲手負候に付參内をも被差延御交際を妨げ亂行の始末重疊の不屆者に付帶刀を奪ひ士籍を削り來る四日顯戮斬罪の上三日の間令梟首事

當時暴漢の同類であつた林田定堅は護衞者後藤象二郎に斬殺されたのであるから、左の判決文は三枝蓊、朱雀操の兩人に對しての言渡であらう

これは明治新政府の當初に於ける國際的事件に對する判決文の一であるが、未だ刑律の制定もなく「刑法は姑く幕府の舊制に據る」とせし時に於ける舊形式の判決文であるから、最も珍とせねばならぬ、加之、判決文中に刑の執行日を豫定せし事などは、幕府時代にも無い異例である

さて、右の判決文は何處に於て何日に言渡したものかは不詳であるが、察するに此年二月三日太政官内に新設した刑法事務局に於て、國際上の緊急大問題とし、督輔參與の連中が寄集つて裁決したのであらう、舊曆二月三十日の出來事であり、判決文に來る四日とあるのは三月四日(此日刑を執行せり)であるから、言渡しの日は三月一日か二日であらう、英國公使パークスの參内は三日に差延ばされ、其參内前に暴徒の處刑を決定して謝意を表さねばならぬとしたので、急速に審判會議を開いたらしい、政府の側では最初暴徒に舊式の切腹を命ずる事に決定したのであるが、パークスはそれを聽いて「日本の武士は切腹を名譽として居るのであるから、自裁は刑罰の主旨に適しない、斬罪として其首を獄門に梟すべしである」とイキマイタので、政府は其意見に服從して、終に右の如く斬刑に處した上、三日間其首をサラシたのであると云ふ

## ●官軍に敵對せし者

(慶應四年)四月七日夜　於平岡丹波守宅申渡

小野内膳

兼て逼塞被　仰付置候其方事重罪たるに依り可被處嚴科の處格別の寛典を以て死一等可被宥　勅諚に付永御預の格揚



座敷へ被差遣もの也　(中外新聞)

### ○近藤勇死刑に被處候事

近藤勇

右は元來浮浪の者にて初め在京新撰組の頭を勤め後江戸に住居いたし大久保大和と變名し甲州并下總流山に於て官軍へ手向致し或は德川の内命を受候抔と僞り唱へ不容易企及候段上は　朝敵下は德川の名を僞り候次第其罪數るに遑あらず仍て死刑に行ひ梟首せしむるもの也

(慶應四年)四月

近藤勇は其性剛邁にして殊に文武の道に長し曾て有志の諸士を募りて新撰組と號し自ら其隊長となり數年來佐幕の志を以て四方に奔走し天下の爲に力を盡せしが此度不計　王師に抗するの罪によりて下總流山邊にて官軍の爲に捕はれ四月二十五日板橋に於て死刑に處せられたり實に惜べし此もの近來名を改めて大久保大和又時として大久保剛と變名せし由なり　(中外新聞外篇)

○今般松平容保等御處置之儀天下之衆議被　聞食候處刑典ニ於テ可被處嚴科奏聞有之候ェ共宸斷別紙之通被　仰出候就テハ　詔書之趣各篤ク奉體可有之被　仰出候事

(明治元年)十二月七日　行政官

(陸奥會津藩主)　松平容保

昨冬德川慶喜政權返上之後暴論ヲ張リ姦謀ヲ運ラシ兵ヲ擧テ　闕下ニ迫リ事敗レ遁走ス慶喜恭順スルニ及ヒ更ニ悔悟セス居城ニ據リ兇賊ノ稱首ト爲リ飽マテ　王師ニ抗衝シ天下ヲ擾亂ス其罪神人共ニ怒ル所屹度可被處嚴刑之處至仁非常之　宸斷ヲ以テ死一等ヲ減シ池田中將へ永預ケ被　仰付候事

(因幡鳥取藩主)　池田中將

松平容保儀別紙寫之通リ其藩へ永預ケ被　仰付候間嚴重取締可致旨御沙汰候事　(東京城日誌)

此後二年十二月七日、鳥取藩より和歌山藩へ預け替へに成り、五年一月六日赦免された

詔　(參照)

賞罰ハ天下ノ大典朕一人ノ私スヘキニ非ス宜ク天下ノ衆議ヲ集メ至正公平毫釐モ誤リナキニ決スヘシ今松平容保ヲ始メ伊達慶邦等ノ如キ百官將士ヲシテ議セシムルニ各小異同アリト雖モ其罪均シク逆科ニアリ宜シク嚴刑ニ處スヘシ就中容保ノ罪天人共ニ怒ル所死尚餘罪アリト奏ス朕熟ラ之ヲ案スルニ政敎世ニ洽ク名義人心ニ明ナレハ固ヨリ亂臣賊子ナカルヘシ今ヤ朕不德ニシテ敎化ノ道未タ立ス加之七百年

來紀綱不振名義乖亂弊習ノ因テ來ル所久シ抑容保ノ如キハ門閥ニ長シ人爵ヲ假有スル者今日逆謀彼一人ノ爲ス所ニ非ス必首謀ノ臣アリ朕因テ斷シテ曰其實ヲ推シテ其名ヲ恕シ其情ヲ憐ンテ其法ヲ假シ容保ノ死一等ヲ宥メ首謀ノ者ヲ誅シ以テ非常ノ寛典ニ處セン朕亦將ニ自今親ラ勵精圖治敎化ヲ國内ニ布キ德威ヲ海外ニ輝サンコトヲ欲ス汝百官將士其之ヲ體セヨ

明治元年戊辰十二月七日

## ●藩主不行届の責

明治二年八月十七日

吹上藩知事　有馬氏弘

其藩士鈴木錞次外九人申合同藩辻元宗之進外二人ヲ殺害致シ其情狀及越訴候段畢竟其方平生示方不行届ヨリ右ノ次第ニ立到リ不束ノ事ニ候依之閉門被仰付候事（太政官日誌）

右吹上藩とは下野一萬石の小藩である、暴行事件の原因は例の佐幕派と勤王派との衝突でなく、お家騷動式の紛爭であつたらしい

「閉門」は舊幕府の刑名であるが、明治新政府もそれを踏襲して新律綱領中閏刑の一に加へた

## ●大村益二郎戕害者

長州藩士州藩等の舊習武士連十九名が「兵制を更革し變法の議を立てゝ國政を紊亂する者」として大村兵部大輔を殺害せんとした事件の判決文

越後國兵居之隊中

變名齋藤習作事　五十嵐伊織

其方儀大村兵部大輔旅寓ヘ亂入ノ始末憂國ノ至情及切迫候ヨリ同志八人義ヲ以會シ右ノ所行ニオヨヒ候旨雖申國家興廢ノ見込相立候ハヾ言路洞開ノ　御政體ニ付幾重モ事情建言イタシ如何樣共取計方可有之處無其儀猥ニ　御登庸ノ重職ヲ斬殺ノ企イタシ終ニ當九月四日夜大村兵部大輔エ死ニ至リ候程ノ爲疵負加之右旅宿エ來客幷同家々來等及殺害候段不憚　朝憲致方ニテ其罪不輕候且又國家ノ御爲ト見込右ノ始末オヨヒ候儀ニ候ハヾ速ニ其筋エ屆出可待罪ノ處其場逃去終ニ被捕縛追々吟味ノ上ニテ事實及白狀候者全ク士道ヲモ失ヒ候所行ニテ重々不屆ニ付身分ヲ下シ梟首申付者也

（明治二年）巳十二月二十九日（維新秘錄）

此外、金輪五郎（佐藤武雄）園伸二郎等、七名に對する言渡書は右と略ぼ同文である



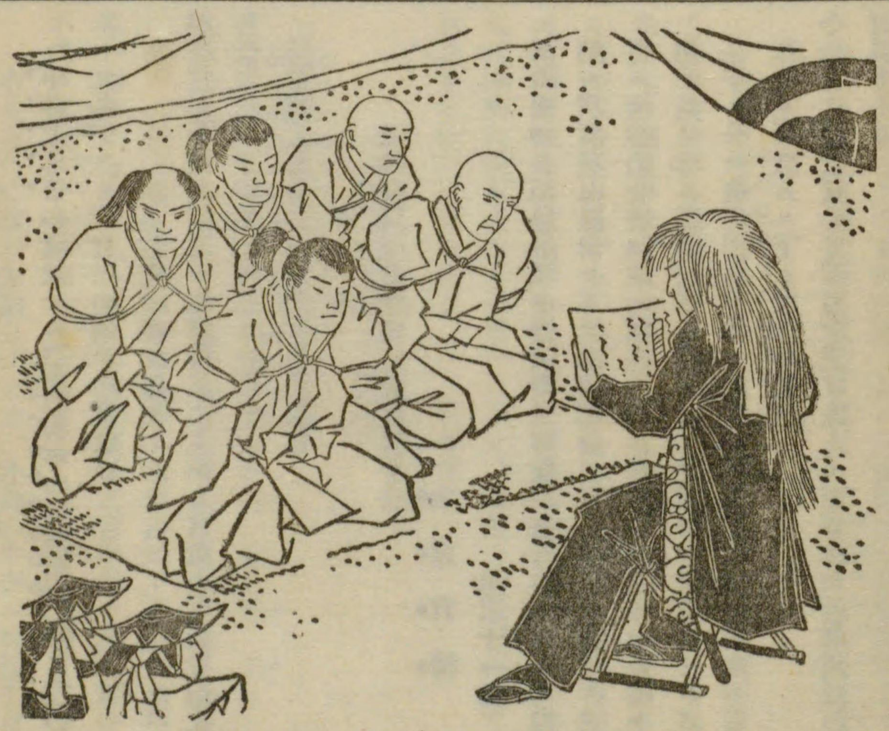
## ●幕府を再興せんとせし者

明治十六年十一月出版、秋亭實著『雲井龍雄實傳』と標せる『德川回復噂龍浪』といふ俗書に據る

此年（明治三年）十二月二十八日、千住小塚原の野邊に於て斬られにける、其時の公判書に曰く

米澤藩士族　雲井龍雄　二十七歲

其方儀去々辰年順逆ヲ誤リ官軍ニ抗シ謝罪ノ上寛典ニ被處ル上ハ速ニ自新ノ効ヲ奏シ可申處却テ宿怨ヲ抱キ挽回可致ト動靜相伺居ル折柄京攝以西騷然タル趣淨月坊ヲ以テ探求ニ及ヒ機會到來ノ秋ト躍起シ依テ兵力ヲ得ル事急務ト存シ陽ニ一昨年諸藩脫籍ノ徒其未タ反側自危罷在ルニ付鎭撫ヲ遂歸順爲致度旨出願シ右願意御差許無之以前芝二本榎上行寺圓心寺ニ於テ私ニ歸順部曲點檢所ノ札ヲ揚ケ、同志ノ藩士並浮浪輩相集、陰ニ政庭ヲ欺罔シ願意御裁可ヲ蒙リ天兵ノ員ニ加ハル上ハ公然右名稱ヲ鳴シ一舉積憤ヲ可晴ト原直鐵其外同盟ノ者共屢集會密議致シ手配相定置候處、願ノ趣御採用無之本藩ヘ預ケ相成ル身分藩邸内森三郎宅ニ於テ城野至ニ面會致シ同盟ノ徒瓦解難



處刑言渡の圖（雲井龍雄實傳、德川回復噂龍浪）

斗知、兼テ約ノ如ク何レモ確守罷在ル樣其内自在ノ身ト相成ラバ再ビ宿志ヲ遂ケ可申旨書付ヲ以テ示シ置尤無名ノ擧ハ自斃ヲ招ク處ト前顯ノ通リ事端相伺居同盟配置ノモノ一時蜂起致シ奸徒討伐ノ名義ヲ假ルナラバ私黨ノ揆暴發ト雖モ一時御追伐ヲ免レ四方自ラ響ニ可應其上當今郡縣ノ御制度ヲ說破致シ若不服ノ徒有之節ハ兵力ヲ以テ假令在朝ノ高官タリ共一ニ芟除シ　大城ヘ押迫リ御政體ヲ一變シ邦建ノ御舊制ニ復シ宿志ノ如ク王家並德川恢復可遂ト魁首ト相成不容易企相謀段右始末重々不屆至極ニ付梟首申付ル

右雲井龍雄の外、同類であつた原直鐵、三木勝、大忍坊、簗瀨勝吉等も亦同日斬刑に處せられたのである、此徒處刑の日を『明治史要』其外の年表雜書等には十二月二十六日と記してあるが、東京谷中天王寺墓地に現存する龍雄の碑文には前の實傳と同く二十八日とあるから、これが正確であらう

前の挿畫に處刑言渡をする役人の服裝を維新當初の官兵同樣に描いてあるのを奇とする、然し此時の判司事が斯樣な服裝をして居たか否かは未詳であるが、全くの繪空事でもあるまいと思ふ

## ●神奈川縣屬官の犯罪

中神天弓子の拔記せる『明治初年の新聞記事』中に左の二件がある、日附の無いのが惜い

陸奥宗光の綱紀肅正

神奈川縣令陸奥宗光が綱紀肅正の上から官吏の官金費消文書僞造犯人を絞罪に處した記事がある

（明治四年十二月、横濱每日新聞）

申渡

元神奈川縣史生東京府貫屬士族　栗原貫輔　未三十一歲

其方儀神奈川縣奉職中横濱委見町儀右衛門外一人ヨリ相納ル同所羽衣町借シ下ケ地糶代金ノ内私慾又ハ自己ノ融通ニ遣拂納金皆拂或ハ納高ニ應ル證書夫々相渡右金高ハ納不足ノ趣ニ縣廳控帳ヘ記シ置ク段假令一旦融通イタス金子ノ分ハ追テ相納ル姿ニ取計置ク儀トハ乍申始末不屆至極ニ付庶人ニ下シ絞罪申付ル

今一人は遊女買して帶刀取上げ庶人へ下された神奈川縣の官員である



神奈川縣史生　坂間鐘三郎

其方儀横濱辨天通二丁目嘉助店支配人代九郎兵衛ヨリ同所相生町吉右衛門店支配人新助並ニ武州鑓水村要右衛門ヘ相掛候生糸代金滯出入元掛ニテ取調中要右衛門其餘一件關係ノモノ共自宅ヘ爲立入又ハ要右衛門ヲ止宿爲致殊ニ同人其外ヨリ餽送ノ品受納イタシ其上要右衛門共々横濱吉原町銀太郎方ニオイテ娼妓買上遊興オヨビ右代金ハ要右衛門追テ相拂候上割合勘定可致積候迚其儘捨置又ハ同人召仕喜代八ヨリ金子借受候段職掌ニ於テ有之間敷致シ方右始末不束ニ付帶刀取上ゲ庶人ニ下ス

## ●朝鮮征伐の陰謀露顯

福地源一郎、水野寅次郎と共に三人政黨と呼ばれた帝政黨員の一人であつた明治日報忠愛社長丸山作樂は、曾て終身禁獄の刑に處せられ、後に特赦で出獄した者である

司法省に於て河野敏鎌より言渡せし落着書の寫

島原縣士族（外務權大丞）　丸山作樂

其方儀第一職掌柄ト申シ精々說諭申聞等可仕筈之處不憚朝憲諸藩士及草莽書生輩ト共ニ御交際上ニ差響候事ドモ輕議シ不容易義相企候段重々不屆に付除族ノ上終身禁獄申付ル

明治五年四月二十三日　司法省裁判所

これは當時外務權大丞の官職に居た作樂が主謀と成つて明治四年の春頃、靜野拙三、畑經世等と共に浮浪の徒を集めて征韓軍を起さんとした陰謀の科である、拙三經世の兩人は從犯として各禁獄十年の刑に處せられた、此陰謀が露顯して事前に拘留されるに至つたのは、密偵の報告が與つて有力なものであつた云々　（明治密偵史）

## ●貸金請求の僞訴

（明治五年）壬申七月十七日申渡シ

東京府貫屬士族　朝倉景宣

其方儀先達テ小島たか（本所區若宮町八十一番地住）ヘ金子貸遣シ其後入金有之所右請取書紛失致候由承リ不計惡心相發シ利分ノ内纔ニ入金致ス外請取覺無之旨申僞リ及出訴段不埒ニ付除族ノ上徒罪一ケ年申付ル　（東京日々新聞）

右景宣の詐謀が露顯したのは、小島たかが一時紛失せし請取書を探し出して提出したからである

## ●父の妾と奸通せし罪

申渡

武州幡羅郡十六軒村農喜太郎悴　落合吉郎

其方儀父の妾（テカケ）と姦通いたし加之一時出來心にて實子を殺害いたし候科をもつて犯姦律親族相姦の條によつて準流十年申付る

落合喜太郎妾　さよ

其方儀妾の身分にて主人の悴と姦通いたし候科をもつて犯姦律親族相姦の條によつて準流十年申付る

（明治六年一月十日）

（同月十二日發行『公文通誌』第十四號）

## ●皇城失火の責任者

司法省一等裁判所ニ於テ申渡

新樹典侍高倉壽子　下婢　榮枝

其方儀御場所柄別テ火ノ元念入可心付處無其義町田文吉方ヨリ藁灰持參リ當日焚拵ユルニ付火ノ氣心附吳候樣申出ルヲ承リ乍罷在外用ニ取紛ルヽトテ粗漏ノ取計致シ置ヨリ右藁灰再ヒ燃上リ終ニ皇城及災燒次第ニ至ル科失火律准流十年ニ擬斷シ收贖金十三圓五十錢申付ル

第一大區七小區疊町十六番地借地　町田文吉

其方儀新樹典侍方ヨリ藁灰アツラヘ受即日取拵ヘ持參リ火ノ氣心付吳候樣申斷ルト雖モ府廳布令ノ趣ニ背違致ス科違式律ニ依リ懲役二十日可申付處宥恕ヲ以テ贖罪金一圓五十錢申付ル

（明治六年五月發行『新聞雜誌』第百一號）

右の皇城失火は五月五日深夜の事で、全城燒失し死傷者もあり、此ため赤坂離宮が假皇居と成つた

## ●棄兒を拾つて棄つ

山梨縣裁判所審判

八代郡土塚村農　畑野源吾

其方儀棄兒見當リ候得共速ニ其筋エ可ニ申出一處無ニ其儀一竊ニ拾ヒ取海野傳右衞門方エ又々棄置終ニ死ニ到ラシメ追テ悔悟自首致セトモ右科人命律移他界內棄兒條例ニ依リ百杖可ニ申付一處宥恕ヲ以贖罪金七圓五十錢申付ル

（明治六年七月發行『新聞雜誌』第百十七號）



## ●建白書を新聞紙上に

（明治六年）七月二十日臨時裁判所申渡シ

從四位　井上馨

其方儀大藏大輔在職中兼テ御布告ノ旨ニ悖リ其方及澁澤榮一兩名ノ奏儀書各種新聞紙エ掲載致ス段右科雜犯律違令ノ重キニ擬シ懲役四十日ノ閏刑禁錮四十日ノ處特命ヲ以テ贖罪金三圓申付

大藏省六等出仕　岩橋輙輔

其方儀井上馨澁澤榮一兩名ノ奏議書新聞紙ヘ附與致スヘク旨馨儀局中ノ者エ申付ルヲ事務多端ノ折柄トハ申ナガラ掲載致シ差支ヘザル分ト見做シ各種新聞紙エ附與致ス段右科雜犯違令ノ重ニ擬シ懲役四十日官吏犯公罪例ニ依リ贖罪金六圓申付

（明治六年八月發行『新聞雜誌』第百三十四號）

右の奏議書といふのは、政府の歲出入に關する建白書である、此後八年六月改正の「新聞紙條例」第十六條に「院省使廳ノ許可ヲ經スシテ上書建白ヲ載スルコトヲ得ス犯ス者ハ罰前條（禁獄一月以上一年以下罰金百圓以上五百圓以下）ニ同シ」と制定された

## ●請願狂者の越訴

京都府下京第十八區室町通五條上ル町

商　清水吉兵衞

其方儀京都ニ於テ大嘗會被レ爲レ行度旨願書ヲ以テ町役人ヘ申出ト雖モ奧印致サズトテ願書京都府理置ヘ差入レ其後京都ヘ還幸ノ儀太政官ヘ直願可致ト東京日本橋川瀨石町善助雇人重助同道太政官中湯呑所ヘ相越同所廊下ノ許ニ投書致ス科訴訟律越訴ノ條ニ依リ懲役三十日申付　（同上）

## ●英人を傷けし發狂人

東京第四大區七小區本郷菊坂田町三十番地寄留

熊谷縣貫屬士族　內田百之

其方儀當八月以來肝症にて逆上致すに付横濱在留外國醫師の診察受度存し同月二十八日宿元立出る途中强く逆上人事を忘れ長澤松兵衞外一人方ヘ罷越及ニ强談一短刀小切等借請或は貰ひ受其上新橋ステーションヘ參リ不ニ取留一儀を種々申述右短刀を同所御雇英國人ヘ投け付疵爲負る科改正瘋癲殺人律例に依り懲役二年の收贖金拾五圓申付る

（明治六年九月二十二日『郵便報知新聞』第百四十五號）

## ●空米賣買の科

十月二十一日大阪府ニ於テ左ノ通リ公判アリタリ

大阪府下北大組第十三區堂島濱通一丁目

米油會社頭取兼總區長　磯野小右衛門　外三人

其方共儀空米商ヒノ儀ニ就テハ兼テ御布令ノ趣モ有之候處當十月限攝津米賣買合高百五十萬石餘ノ取引ニ及ビ候段一時景氣ニ乘ジ候場合モ可有之トハ乍申會社藏入其外トモ現米拾萬石餘ナラテハ確タル目的モ無之處銘々ニ於テモ賣方ノ取引ニ有之候トテ相場格外ノ騰貴ニ至候テハ買方ヨリ敷金等ニ追ヒ倒サレ候ハ必然ノ勢ヒニ付右體非常ノ石數ヲ賣立候次第ニ至リ終ニ兼テノ御布令ニ相戻リ候ノミナラズ米商共一般ノ惑亂ヲモ釀成候段頭取ノ職掌難相立右科不應爲律ニ依リ懲役七十日ノ贖罪金磯野小右衛門ハ總區長ノ儀ニ付十圓五十錢齊柏新助外二人ハ五圓二十五錢宛申附ル

外ニ北大組堂島濱通米商松本鐵次郎外三十六人東大組高麗橋詰町米商中島定次郎外八十人右一件ニ付違令律ニ依リ懲役四十日ノ贖罪金三圓宛申附ラレタリトゾ

（明治六年十一月發行『新聞雜誌』第六十二號）

## ●居喪犯姦と二等親告訴罪

（明治六年）十一月十三日公判

東京第十一大區三小區荻新田

日蓮宗上妙寺住職　最上日孝

其方儀たねハ夫ノ喪中ト乍辯同人ト度々姦通致ス科居喪犯姦律ニ依リ奪職ノ上懲役一年申付ル

同區　荻新田一番地　農　入江榮次郎孀婦　たね

其方儀夫ノ喪ニ居ル身分ニテ最上日孝ト度々姦通致ス科居喪犯姦律ニ依リ懲役一年申付ル

同所五番地組頭　入江藤左衛門

其方儀繼母たねハ喪中ノ身分ニテ最上日孝ト及密通居風聞有之心痛罷在折柄妹なかモ是亦瀧波藤兵衛ト密通致ス趣承リなかへ異見可差加ト呼寄ルト雖トモ不相越ニ付繼母別宅ニ罷越處却テたねヨリ高聲ニ申罵ルトテ立腹ノ餘リ同人手足ヲ縛シ置右始末其筋ヘ訴出段右科繼母ノ手足ヲ縛スル固ヨリ許サヾル處ト雖モ即時告訴スルヲ以テ自首ニ準シ罪ヲ免シ其二等親ノ犯姦ヲ告ルヲ以テ干名犯義律ニ依リ懲役九十日申付ル

（新聞雜誌）



## ●大參事の財盜犯（死後の斷罪）

東京府貫屬士族亡熙悴　江良元善

其方亡父熙儀別紙之通所刑相成候就テハ兼テ大藏省ヨリ佛國商人ジユバンヘ償難相成候洋銀七千枚餘ハ熙身代限リ以償ヒ可申且同人家祿ハ取上相成候條其旨可相心得候事

東京府貫屬士族　江良熙

右之者儀舊高富藩大參事在職中同藩士族加藤革作申勸ニ同意致シ藩廳ニ於テ商會取開キ相成體ニ仕成シ藩廳自己ノ商業ヲ營ムヘクト會津出生青塚金兵衛外二人ヲモ右ニ合併致サセ佛國商人ジユバンヨリ洋銀其外品々借入候其節ニ至リ金兵衛外二人ヲ借主ニ相立熙始メ家名ヲ稱ヘ又ハ藩印ヲ押用ヒシ證書ジユバン方ヘ差入追テ返濟方差滯リ右始末大藏省ニ於テ尋受ル節藩廳商會ノ資本金ニ差支ヘ借入ルノ儀ニ有之抔體能ク申僞終ニ滯高洋銀七千枚餘同省ニ於テ償却相成次第ニ至科存命ナレバ詐欺取財律ニ擬シ除族ノ上徒罪三年可申付者也

明治六年六月二十四日

（同月二十五日『東京日々新聞』第四百六號）

司法裁判所

死者に對する判決文は珍である、法學博士中田薫先生は編者のために左の法文註解を附けて呉れた

明治五年八月二十九日改正官吏犯私罪律ニ依レバ官吏徒刑以上ノ罪ヲ犯ストキハ士族犯罪法ニ依リ閏刑ヲ科ス而シテ新律綱領ノ士族閏刑條ニ依レバ「財盜及賭博等ノ罪ヲ犯シ廉耻ヲ破ル事甚シキ者笞杖ニ該ルハ廢シテ庶人ト爲スニ止メ徒以上ハ仍ホ本刑ヲ加フ」トアリ然ルニ明治六年二月八日改正閏刑律ハ右ノ「廢シテ庶人トナス」ヲ「除族トス」ニ改メタリ、死亡者科刑ハ改定律例第三百十八條ニ「凡罪ヲ斷ズルハ口供結案ニ依ル若シ甘結セズシテ死亡スル者ハ證佐アリトモ其罪ヲ論セス」トアレバ同例施行前ニ行ハレタルモノナラン

## ●虛僞の相續願

東京第四大區六小區池ノ端七軒町三十一番地

東京府貫屬士族　鷲尾林藏

其方儀長男正守ヘ家督爲致身持放埒ニ付督責イタセトモ不取用逃亡致スヲ病氣ト詐リ退身爲致其方再ヒ相續致度旨願書取拵進達致段未タ事遂サル儀ニハ有之共右科上書詐不以實律ニ依リ閉門八十日申付

（明治六年七月七日『東京日々新聞』第四百十七號）

## ●掲示札を取外せし者

審理公判　（始末書ト判決文）

肥前國彼杵郡洞戸水村農伊助弟

村瀬一

二十五年四月

自分儀明治六年一月八日東京ヘ罷出元彦根藩邸中ニ住居罷在佛人シルヒイ氏ヘ被相雇居候處當七月三日夜佛人ワンシンアン雇人善四郎同道徘徊致シ居候處同人熟醉罷在股脚ヲ露シ邏卒ニ被差押第三大區警視出張所ヘ御差送リ相成候ニ付同行致シ候儀ニテ付參リ右御門前ニ差控居候處同夜三時過ニ相成候テモ善四郎御差免シ不相成ニ付如何様ノ御處分ニ可相成哉ト心痛ノ餘リ違式註違ノ掲示板一見致度存燈明有之場所ヘ可持行ト右板取外シ一二丁持歩行候得共燈明無之ニ付元ノ場所ヘ可相戻ト御出張所ノ隣邸門前迄持歸リ候處若シ掲ヶ候節被見付候テハ不容易ト存右邸壁ノ下ヘ竊ニ差置逃歸リ候事

右ノ通相違不申上候以上

掲榜場ヲ柝毀シ及ヒ板榜ヲ毀スル者徒三年トアリト雖モ該犯ノ擧朋友犯罪ヲ憂フルノ切ナルヨリ取外スモノニシテ毀場スルニ非ス又原ノ如ク掲ヶ置ントスレトモ容易ナラサル品ト心付キテ他見ヲ憚リ竊ニ差置キ去ル者元來畏重スヘキ品ヲ輕忽ノ所業ニ及フヲ以テ不應爲輕ニ擬シ懲役三十日

明治六年七月十四日　東京裁判所

（明治六年八月四日『東京日々新聞』第四百四十二號）

## ●妻を遊女に賣りし件

明治六年八月二十二日申渡

常州茨城郡平町村農　船橋良助

其方儀得心ノ上娘はつヲ服部榮次郎ヘ妻ニ差遣ス後右はつ儀遊女奉公ニ罷出終ニ病死致ス旨承リ悲歎或ハ憤怒ニ難堪迚榮次郎ヘ差遣ス儀等押隱シ右事實取繕木村重右衞門外一人ニ相掛リ娘取戻出入出訴ニ及フ科對詔上書詐不以實律例ニ依リ懲役八十日可申付處宥恕ヲ以テ贖罪金六圓申付ル

濱松縣貫屬士族榮藏男　服部榮次郎

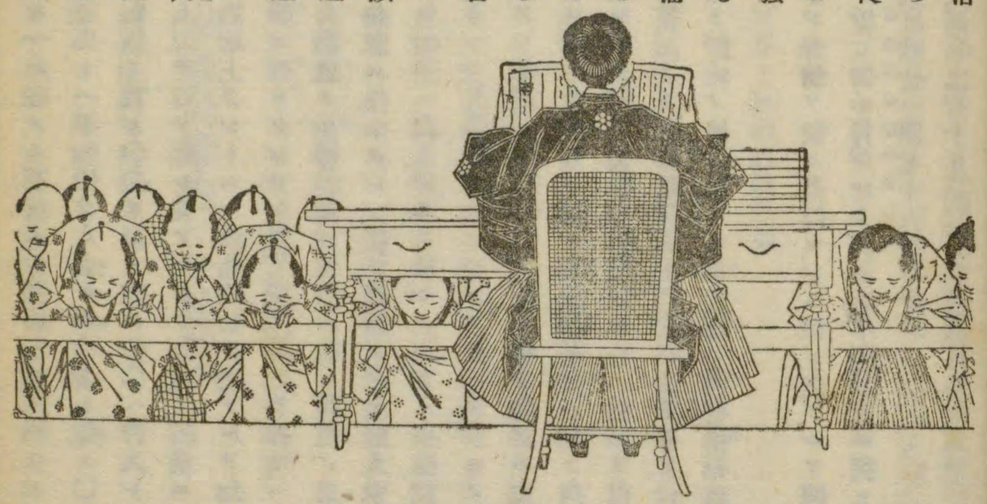
其方儀舅家得心ニアル迚其筋ヘ屆モ不致はつヲ妻ニ貰受追テ困窮ニ迫リ同人ヲ和賣シ遊女ト爲ス科略賣人律例ニ依リ破廉恥甚ヲ以テ論シ除族申付ル

（同月二十三日『東京日々新聞』第四百五十九號）



下の繪は明治十三年出版の『冠松眞土夜暴動』といふ相州の農民騷動記にあるもので、水戸藩士には關係のない繪であるが、多人數の者に裁判を言渡して居るやうな體が類似するので、茲に挿入して置くのである

明治六年八月發行の『新聞雜誌』第百三十五號に次の



## 徒黨癖ある水戸藩士

如き一節がある、人名は不詳

茨城縣貫屬士族ハ元水戸藩士ニテ今ニ忠雅ノ徒黨ヲ結ヒ互ニ反目仇視セル由ニテ本月初旬裁判アリテ二十五名ノ者禁錮申渡サレタリ其文ノ大意ニ

其方儀四海一家ノ今日ニ至リ尙從來黨派ノ情ヲ固執シ囚人三木直外十餘名ノ縛ニ就ヲ痛ンテ同黨中ノ恥辱ト爲シ某々ト周旋ノ方術ヲ求メ或ハ金子指出シ之ヲ救ハント議スル科不應爲律ニ依リ禁錮三十日申付ル

## ●盲人の奸淫未遂罪

始末書に添ふ判決文

（明治七年二月）本月五日左ノ通リ公判

東京四ッ谷傳馬町三丁目三十二番地借店

盲人　宮田房野

自分儀盲目ニテ按摩ヲ業トシ罷在候處昨年八月二十一日夜同町内三十番地借店ノ由ニテ婦人一人相越療治賴ミ度候間參リ可呉旨來リシ故承諾致シ即刻罷越候處早速取掛クレトノ事ニ付如例取掛リ先ツ肩先ヲ摩シ終テ婦人ヲ臥セシメ下モ腰臀ニ取懸リ候處婦人眠リヲ催シ遂ニ熟睡シ前後忘却ノ體ニテ隱ス所ナク衣裙ヲ明ケ開キ〇〇ニ手觸レ候テモ知覺

ナク摸索致シ候テモ一向咎メモ不致ニ付勃然春情ノ動キシニ乘ジ素ヨリ人ノ妻妾トハ不知傍ラ人ナキヲ幸トシ竊ニ○上ニ押乘リ○○ヘ割込ミ我ガ○○ヲ以テ彼ガ○○ヘ押入レ御セントスル處婦人忽チ目ヲ覺シ夫アル身ヲ如何ノ所業ニ及ブト聲ヲ發シ憤然起上ラントセシ故此時初テ夫アルヲ知リ驚愕ニ不堪先ヅ靜ニ致シクレヨト力ヲ極メ肩先ヲ押サヘ起上ラザル樣致シ其節思フニ得心爲致候得バ他ニ漏洩ノ患ヒ有之間敷ト存ジ我意ニ任セクレト絶テ相賴メドモ婦人承諾イタシ不吳兎モ角便所ヘ參リ度手ヲ放シクレトノ事故放シ遣シ候得バ豈料ランヤ近邊住居ノヨシニテ叔母ナルモノヲ呼ビ來リ夫アル身ヲ不埒ノ所業ニ及ビ此儘捨置候テハ夫金明ヘ對シ申譯不相立ト叔母共々罵リシ故彼是致シ爭フ內夫金明エモ申シ通セシヤ無程金明モ歸宅致シ右ノ次第ヲ屯所エ出訴ニ及ビ其節初メテ島根縣貫屬士族當時遲卒喜多村金明ノ妻ナルヲ知リ慚愧ノ至リ悔トモ不及遂ニ御召捕相成候事

婦女ノ睡眠ニ乘ジ春情ヲ發シ姦淫セント欲シ夫アルヲ聞ト雖トモ露顯ヲ厭ヒ仍ホ肯ゼント挑ム者不應爲重ニ問ヒ懲役七十日ノ處收贖金一圓七十五錢申付ル

（同年二月十日『新聞雜誌』第百九十九號）

## ●遊女の袷を着逃せし文學生

飾磨縣貫屬士族藤本一ナル者本月二十六年十一ケ月ナリ明治五年五月中ヨリ文學修行ノ爲メ府下濱街邊ニ寄留セシガ去月某夜友人二三名ト共ニ根津八重垣町貸座敷渡世北村藤助方エ立越遊女なかヲ雇上ゲ大ニ遊興ヲ催シ右なかヨリ木綿袷一枚借受着用セシニ翌朝ニ至リ酒食代金等拂ヒシ上不圖盜心ヲ生シ右袷着用ノ儘歸宅セント途中ニ出掛ケシヲ直ニ召捕ラレ頃日左ノ通裁判相成シトナリ

其方儀北村藤助方エ遊興ニ罷越遊女なかヨリ借受衣類着逃致ス贖金一圓

右詐欺取財物ヲ拐帶スルヲ以テ論ジ懲役六十日申付ベク處士族ノ儀ニ付除族申付ル

明治七年二月十日發行『新聞雜誌』第百九十九號）

## ●世界國盡の僞版者

明治五年九月に東京で『新聞摘要』といふのを二冊發行した事のある高田義甫といふ人が、七年二月に福澤諭吉先生編輯『世界國盡』を僞版した者の連累として罰せられた一事がある、此高田義甫は其後生國近江に歸つて九皐義塾といふを開き、又十一年頃には勸善社の名で『學事旬報』といふを發行し、後にそれを『教育週報』と改題して第十一號まで發行した、トンダ教育家

司法公判

東京府貫屬士族就之助長男　廣瀨爲政

近江國蒲原郡八幡町平民

府下第十大區一小區寺島村新田

三番地寄留　高田義甫

其方共儀編輯出版致ス地球往來ハ福澤諭吉ノ世界國盡ヲ摸擬シ僅ニ字句ヲ取替ル迄ニ付右科出板條例及不應爲律ニ依リ板木製本取揚ノ上爲政ハ右編輯擔當スルニ付首トナシ贖罪金二圓二十五錢義甫ハ落成ノ上校正致ス儀ニ付從トナシ一等ヲ減ジ贖罪金一圓五十錢申付ル

（明治七年二月二十日發行『新聞雜誌』第二百四號）

## ●新橋鐵道局構內にて放尿

東京第四大區礫川造兵司內住居

陸軍教師ルホン氏雇人　齋藤仙助

自分儀當一月十五日午後第六時新橋鐵道局エ相越候處六時ノ車ニ乘後レ不計心得違致シ右同所構內石階下ノ方便所ニアラサル場所ニ尿致シ同所番人ニ見咎メラレ候事

鐵道構內ニテ不良ノ行狀ヲ爲ス者罰則第八條ニ二十五圓以內ノ罰金トアルニ照準シ罰金二圓五十錢申付ル（同上）

## ●自儘に宮參りせし官吏

東京府貫屬士族　間宮時行

其方儀愛媛縣奉職中管下廻村ノ節同僚申合セル迄ニテ自儘ニ琴平社（讃岐の金刀比羅宮）エ參詣致ス段公務ニ欠ル義ハ無之ト雖トモ右科違式律ニ依リ懲役十日ノ贖罪金七十五錢申付ル（同上）

## ●奸夫奸婦を殺せし者

東京裁判所の判決であらうが、原新聞紙上には住所を記して無い、東京附近の者らしい

言渡　石毛周助

其方儀妻やす石毛貞藏ト姦通致シ居ヲ取押ユル處孰レモ心得違ノ段申託ルニ付以後ヲ誡メ宥恕致置候處尙戀情ヲ尋ギ田間ニ於テ姦通致シ居候ヲ見止ムルニ付可取押ト存候處兩人共逃去翌日貞藏儀右姦通ノ事ニ無頓着父甚兵衞俱々自宅

エ入湯ニ罷越候ニ付忌憚カラザル仕方ト憤リ其場エやすヲ連レ參リ兩度姦通ノ始末ヲ問ヒ糾スニ貞藏儀姦通致スニ相違無之間勝手ニ可致旨返答シ入浴致シ其罪ヲ慚悔セザルノミナラズ抗言無禮飽マデ耻辱ヲ被與候段一時義念ニ堪兼兩人共可殺ト脇差ヲ持來リ先ヅやすヲ斬捨テ貞藏ヲモ斬殺ニ臣リ候段勢ヒ然ラザルヲ得ザルノ情狀ヲ酌量シ人命律殺死姦夫條例ニ依リ無構

（明治七年二月二十二日發行『新聞雜誌』第二百五號）

## ●隱賣女を打擲せし客

公判　外四人

東京府貫屬士族　德岡國之助

二十八年八ヶ月

自分儀明治六年十二月十五日夜新富町通行ノ砌其節名前不知入船町四丁目松本仙太郎妻千代ニ行逢候ニ付此邊ニ隱賣女有之候ハヾ周旋致呉候樣相賴候處新富町三丁目齋藤仲次郎方エ案内致呉候間同人方ニ同居罷在候淺草聖天町伊藤彌助長女やそヲ買揚グ遊興致居候内狎染ノ客來リ候趣ニテ出行一時間餘リモ歸リ不來候ニ付不快ニ存居候折柄歸リ來候間酒狂ノ餘リ右ノ儀ヲ咎メ遂ニキセルヲ以テ同人ノ額ヲ一度打擲致シ候得共傷付不申候隱賣女ノ儀ニ付テハ兼テ御布告ノ趣心得罷在ナガラ相背候旁ノ始末今更後悔罷居候事

槌棒ヲ以人ヲ毆チ傷ヲ成サル、者懲役三十日可申付ノ處禁錮三十日申付ル

や　そ

二十二年七ヶ月

懲役三十日ノ處收贖金七十五錢申付ル

齋藤仲次郎

三十九年七ヶ月

無鑑札ニテ貸座敷渡世致二十五錢ノ揚代ノ内八錢三厘三毛貫受ルニ付贖罪金三圓十五錢申付ル

松本仙太郎妻　ちよ

四十一年四ヶ月

八錢三厘三毛貫受ルニ付收贖金七十五錢申付ル

（明治七年二月二十四日發行『新聞雜誌』第二百六號）

## ●猥褻行爲の巡査

東京府貫屬士族東京第六大區四小區詰

三等巡査　石田義治

二十一年



自分儀明治六年十一月四日當番ニテ區内請持ノ場所巡邏致シ午後一時過歸宅ノ處前日ハ天長節ニ付下賜候酒饌料ヲ以テ一同買入候殘酒ヲ飲ミ沈醉ノ折柄本所千歳町桑原平七娘ゐい同町山本常七娘きん同道ニテ同役平林忠經エ用向有之趣ニテ尋參リ候ヲ醉中ノ紛レ戯レニ情談申掛候處右ゐい儀屯所引續ノ土藏内エ逃込候ヲ追驅同人ヲ抱留メ居候場合同勤服部信意岩井清忠本田正房桶田正和追々馳越シ可引離ト被取支酒狂ノ折柄前後ノ辨ヘモ無之立腹ノ餘リ右清忠右ノ手指ニ嚙付彼是致候透ニ右ゐい儀ハ逃去候事

醉狂ニ乘ジ巡査屯所内ニテ猥褻ノ行ヲ爲シ其上差支ル同僚ノ手指ヲ嚙傷スル者不應爲重ニ問ヒ懲役七十日ノ處官吏私罪贖例ニ照シ贖罪金十圓五十錢申付ル

（明治七年二月二十六日發行『新聞雜誌』第二百七號）

## ●チヨボクレを作りし巡査

青森縣貫屬士族東京第六大區三小區詰

三等巡査　神知英

二十二年四ヶ月

自分儀脚氣症ニテ明治六年十月ヨリ第六大區會社病院エ入リ療養致シ居候處同四小區三等巡査石岡義治儀屯所エ婦人ヲ引入レ强淫致シ候趣同六小區三等巡査和田正盛ヨリ承リ何ノ存モ無之閑隙ノ餘リ本所千歳町山本常七娘きんヲ右義治無理ニ土藏ノ内ニ引入レ相戯レ候意ヲ俗ニちよぼくれト稱シ候雜歌ニ作爲仕候事

同僚猥褻ノ行ヲ爲スト聞キ事態ヲ雜歌ニ著作スル者不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日ノ處官吏私罪贖例ニ照シ贖罪金四圓五十錢申付ル　（同上）

## ●駈落せんとせし男女

高崎區裁判所申渡

上野國群馬郡公田村寄留商　松井金次郎

其方儀茂右衞門分村石原廉造妻せきより逃亡致度旨依頼を受け同人に戀慕し情慾を遂げずとも脫逃を敎誘致す科雜犯律不應爲條重きに依り杖罪七十申付る

茂右衞門分村農石原廉藏妻　せき

其方儀逃亡致度迚公田村寄留松井金次郎へ依頼に及び私擅に家出致すとも五十日以内に付差免す

（明治七年二月發行高崎『書拔新聞』第六號）

## ●小娘を川中に取落せし傅兒

東京第十一大區二小區柳島村五七番地木造金五郎雇人
下總國葛飾郡根本村農川井岩次郎厄介
川井喜助

其方儀雇主木造金五郎娘ふさヲ背負ヒ遊歩致シ立歸ル節帶ノ緩ミヲシメ直ス場合過テ同人ヲ川中エ取落シ水死爲致ル科過失殺傷人ノ法ニ依リ幼年ノ故ヲ以テ老幼癈疾ノ贖例ニ照シ收贖金可申付處無力ニテ贖事能ハザルニ付五等ヲ減シ懲役二年半該テ無力收贖ノ法ニ依リ收贖金三圓七十五錢追償マデ懲役申付ル

（明治七年三月八日發行『新聞雜誌』第二百十二號）

## ●電信線に紙鳶を掛けし童

東京第一大區十三小區横山町三丁目十番借地
商平林ゑい長男　平林忠藏
五年二ヶ月

自分儀當二月二十日自宅前往還ニ於テ半紙一枚ニモ不至紙鳶ヲ揚ゲ遊ビ居候處右紙鳶風ニ吹廻サレ終ニ同所電線ニカラミ候事

九十以上七歳以下ハ死罪ヲ犯スト雖トモ刑ヲ加ヘストアルニ依リ違式ノ輕懲役十日ニ該ルト雖トモ無罪

（明治七年三月二十日發行『新聞雜誌』第二百十八號）

## ●暴學陰謀の惡僧

京都裁判所ヨリ司法省エ左ノ伺書アリタリ

周防國山口禪昌寺弟子井上心學曰自分儀一新以來佛法衰微活計困苦ノ餘昨年八月以來同志ノ者ヲ語合ヒ數十人ニ至ラハ京都大ナル堂宇ニ放火シ其機ニ乘シ京都府又ハ勸業場ヘ討入金子ヲ奪ヒ取リ大和國天ノ川ヘ楯籠リ尙有志ヲ集ムベクト巧ミ當正月中旬洞仙院覺亮並太田伊助ヘ申聞尤モ伊藤力太郎ヘハ御政事不宜ニ付德川氏ノ舊ニ復シ度ニ因リ京都府ヲ屠リ官金ヲ奪ヒ取ルベクト、忍聲ヘハ商法作興ノ一策ト、辨游寛旭太郎ヘハ國家ノ爲メ兵隊ヲ組立ルト夫々ヘ申勸メ且隨心致シ其後伊助ハ與黨ヲ斷ハレトモ離盟ヲ聽サス辨游寛旭清水太七モ追々入隊相斷ルニ付覺亮伊助忍聲ト八阪境内茶店ニ集會隱謀決定ノ血判セント致シ露顯セリ

右指令アリテ井上心學ハ懲役三年奥村覺亮ハ同二年半太田伊助ハ同二年伊藤力太郎ハ同百日ノ處刑アリタリ

（明治七年三月二十六日『新聞雜誌』第二百二十一號）



## ●梟首されし江藤新平

佐賀縣暴徒處刑告標ノ寫（明治七年四月十三日）
江藤新平　島義勇

其方儀不憚朝憲名ヲ征韓憂國ニ托シ黨與ヲ募リ兵器ヲ集メ官軍ニ抗敵シ逆意ヲ逞スル科ニ依テ除族ノ上梟首申付ル

（同年五月二日『新聞雜誌』第二百三十八號）

卓を共にして政治を議せし舊同僚の者に對し、國法の重刑を加ふることは不得已とするも、蠻刑の梟首に處し、剩へ其寫眞を弘く販賣せしめたなどは、大久保利通等の冷酷無情なる殘虐性を發揮せしものであつた、『生死錄』にも「明治政府の要路に當りし者を梟首にせること、明治史の一汚點なり」とある

## ●手棒を切斷せし巡査

第二大區小六七區三等巡査廣瀨明敎同大矢正一ノ兩名兼テ御渡シノ官棒ヲ無故切斷セシ科ニ依テ左ノ公判有之タリ

定度アル手棒ヲ私擅ニ切斷シ短縮スル者違式ノ輕キヲ以テ論ジ私罪贖例ニ照シ贖金一圓五十錢　但棒ハ代價ニ計リ贖償セシムベシ　（同上）

## ●火札を貼りし借金男

東京第三大區八小區赤阪福吉町一番地商　林喜藏

其方儀藤原豐吉ヨリ借財致シ返金催促ヲ私怨ニ狹ミ威スベキ心底ニテ可燒拂旨匿名ノ書付ヲ所々エ張付置科不應爲條ニ擬シ懲役七十日申付ル

（明治七年五月六日發行『新聞雜誌』第二百四十一號）

## ●巡査を嘲弄せし若者

東京第一大區四小區新佐柄木町平民力藏養子
福田豐吉
十六年

自分儀本年五月二十八日午後七時過四大區一小區神田淡路町靴職人戸部政藏ト同行遊歩ノ折柄二等巡査澤田正房ヲ見受ケ酩酊ノ餘當時市中御取締迚見回リ有之候得共小便抔スルニハ陰莖エ金六錢二厘五毛ヲ付レハ子細無之其贖罪金ヲ以テ巡査等ノ妻子養育ノ補ケニ成セヨト彼聞ケカシニ罵リ候處捕縛相成候

違式重ニ問ヒ懲役二十日申付ル

（同年六月二十四日『新聞雜誌』第二百六十五號）

## ●同性を奸せんとせし懲役者

東京第一大區四小區神田竪大工町懲役人　櫻井佐吉

其方儀懲役三年ノ處刑相成身分尚心底不改同囚曾我助次郎ヲ得心ノ上トハ乍申鷄姦ヲ犯サント欲シ事ハ遂サルモ右科不應爲輕ニ擬シ加役三十日申付ル

（明治七年六月二十四日『新聞雜誌』第二百六十五號）

## ●岩倉右大臣暗殺未遂の犯人

武市熊吉　武市喜久萬　山崎則雄
高知縣貫族士族　島崎直方　下村義明　岩田正彦
中西茂樹　中山泰道　澤田悅彌太

其方共儀征韓ノ議行ハレサルヲ不平ニ存スルヨリ岩倉右大臣ヲ殺害シテ廟議ヲ動サント欲シ同志九人申合當一月十四日夜喰違ニ於テ刺傷スル科ニ依リ除族ノ上斬罪申付候事

（明治七年七月十二日『新聞雜誌』第二百七十四號）

一人を殺し得ずして九人が殺された、これを世間では「くひちがひ事件」と云ふ、後の西野文太郎、伊庭想太郎、中岡艮一等に比すれば、へマ連中である

## ●隱し置きたる短刀

東京神田末廣町三十八番借地商　三上山三郎

其方儀妻かつ姦夫アラント疑念ヲ抱キ及物ヲ以テ恐喝シ其證跡ヲ顯シ見ント存脇差ヲ買求ムル處同人ニ隱シ置ク場所ニ差支町内材木ノ間ニ隱シオクト雖モ未ダ其事ヲ不行且ツ他ニ兇惡念アラザルヲ以テ咎ノ沙汰ニ不及

但シ隱シオク脇差松本平次郎見出シ得ルニ付渡シ遣ス其一半ヲ右人へ給與スベシ

（明治七年八月十四日發行『新聞雜誌』第二百九十號）

## ●藝妓鑑札を落せし科

東京第三大區十一小區元鮫ケ橋南町　眞宗正見寺住職駒井離問妻　たね
同第一大區十二小區豐島町借店竹内喜七方同居　竹内鐵五郎娘　きく

其方共儀東京府ヨリ渡シ有之藝妓鑑札ヲ紛失致ス科違式輕ニ擬シ婦女ナルヲ以テ收贖金二十五錢申付ル

（明治七年八月二十日『新聞雜誌』第二百九十三號）



## ●横着なる郵便役所員

東京麴町九丁目十三番地平民　郵便假役所書記役　皆川常三郎

自分儀本年三月中麴町郵便役所書記役拜命諸扱御委任ヲ受ケ相勤候内忽然惡意ヲ生シ諸所ヨリ屆來ル封書ニ印紙貼用シテ尙檢査印ヲ押シ有之候處右檢査印ノ内墨薄キ印紙ヲ水ニ浸シ數百枚剝キ取稅金先拂ト申ス封書ハ印紙貼用無之屆ケ來ルニ付區々郵便假役所ニ於テ印紙ヲ貼シ屆先キニテ稅金受取ル規則ニ付是等ノ封書來ル時右剝キ取候印紙ヲ貼シ稅金ヲ自分ノ所有ト成シ或ハ不足ニアラサル封書ヘ不足稅ヲ取立抔致シ候合金五圓五十錢ニ相成悉皆費用致候事

右ノ通相違不申上候以上

郵便切手ヲ剝取リ又ハ不足稅ト僞リ財ヲ得ル者詐欺取財ヲ以テ論シ窃盜ニ準シ懲役六十日贓金五圓五十錢申付

但シ郵便罰則第五條犯情通貨及物品ヲ盜ム者ニ照依シ本議ノ如シ

（明治七年十月十日發行『新聞雜誌』第三百十八號）

近頃はこれ等よりも一層ヒドイ奴が多い、書留送りでない圖書雜誌類を窃取する局員は全國各地にある

## ●阿片喫烟罪の清國人

兵庫縣裁判所九月二十八日申渡　清國廣東高安縣　陳四

其方儀兼テ吐血ノ症相煩ニ付醫師ノ申ニ從ヒ阿片烟ヲ喫食スル科販賣阿片烟中引誘セラレテ吸食スルヲ以テ擬シ懲役一年ノ處老母八十有餘ニシテ家ニ侍養ノ子孫ナキニ付改定律例第三十五條ニ照シ棒鎖三日ノ上贖金五十錢申付ル

（明治七年十月十四日發行『新聞雜誌』第三百二十號）

## ●乞食旅行の僞醫者

十一月七日處刑（白川裁判所）熊本　生所不詳無籍　杉本義嗣　十八年八ケ月

其方儀生來ノ無籍ニシテ父母ノ貫跡ヲ知ラサルニヨリ罪ニ科セスト雖モ生所ヲ僞リ川越屋大吉方被雇中同所ヲ逃亡所々流寓致シ醫道巧熟ノ旨詐稱シ諸人ヲ欺キ藥劑ヲ投シ謝金ヲ貪ル右科二罪俱發ノ例ニ照シ雜犯律不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日申付　但シ原籍不分明ナルヲ以テ滿限後獨立活計相立迄懲治監入申付ル

右杉本義嗣ハ父母逃亡ノ中出生致シ父ヲ總兵衛ト云フ母ヲツクト云ヒ義嗣九歳ノ時父死亡シ十三歳ニテ母ヲ失ヒ原籍更ニ知ラサルノ由ナリ其後住所ヲ定メス東京ニテ日雇ヲ稼キ本年二月同所三河町三町目川越屋大吉方ヘ生所ヲ僞リ傭人トナリシカ讃州金毘羅神社肥後加藤廟等參詣ノ念忽然ト起リ大吉方ヘハ何ノ儀モ告スシテ四月三日東京ヲ立出所々遍歷乞食ヲ致シテ七月三十日肥後國山本郡賀村ヘ出テタリシニ同村農田中甚八ナルモノ、長女春子眼病ヲ煩ヒ居ルヲ幸トシ詐テ醫道巧熟ト申欺キ治療ヲ致シ遣スヘシト懇ニ申入シニ同家ヨリモ賴度トノ言ニ應シ藥ヲ盛リ療治ヲ施ス處僥倖ニシテ稍快氣ニ赴キ近隣傳承シテ追々ト治ヲ乞フニ任セ前同樣ノ手續ニテ諸人ヲ欺キ聊ツヽノ謝金ヲ受居タリシニ八月四日縛ニ就キ所犯ヲ公堂ニ明狀ス

（明治七年十一月二十九日發行『白川新聞』第七號）

## ●官等姓名誤寫の上申書

陸軍一等軍醫正　石黑忠悳

其方儀軍醫昇級及ひ撰擧上申の書面に其官等姓名等を誤寫上申する科に依り謹慎十日被仰付

（明治七年十二月十五日『郵便報知新聞』第五百三十五號）

## ●未練男の髪切り

東京裁判所公判

第二大區十一小區高輪臺町十九番地平民　三田村銀次郎　三十六年五ヶ月

自分儀當一月來松屋町中山忠右衛門娘いわト私通罷在同人義ハ自分次弟南八丁堀三田村鎌次郎方ヘ同居爲致候處如何ノ次第ニ候哉是迄ノ緣ヲ絶吳候樣度々申聞候ニ付然ハ外馴染ノ人モ可有之左無クハ髪毛ヲ可切取ト緣ヲ絶ザルタメ戯レニ申聞居候處十月四日前書忠右衛門方ニテ酒食致候節藝妓揚代金勘定ノ義ニ付鎌次郎方ニテ同七日種々口論及候末いわ烟管ヲ以テ自分ノ頭ヲ打擲致シ其節モ前同樣緣ヲ絶吳候樣申ニ付然ラハ髪毛可切取申聞候處可切取筋有之候ハヾ其通可然ト申候尙又深更ニ至リ意逆致候末立腹ノ餘リ翌八日朝剃刀ニテ髪毛切取申候前斷毆リ候處腫起ニハ相成不申候事

右之通相違不申上候以上

明治七年十一月十五日

私通ノ女强テ其絶念ヲ促シ烟管ヲ持テ打擲スルヲ以テ忿怒ノ餘リ頭髪ヲ切取候者不應爲重ニ擬シ懲役七十日

右　い　ね

十八年四ヶ月

鬪毆條ニ依リ懲役三十日之處婦女ノ故ヲ以テ收贖金七十五錢申付

## ●警保掛の逮捕狀僞造

上總國武射郡水深居住

千葉縣貫屬士族　正常弟　井上貴志郎

其方儀甲賀秀實養女なかト兼テ密通致シ居候處同人ヘ高田秀三郎ヲ聟養子ニ致ス由風聞承リ然ル上ハ此後密通致シ難キニ付秀三郎ニ汚名ヲ負ハセ右緣約ヲ妨ケント同人並花澤龍藏白井常敎ノ三人不埒ノ廉有之ニ付捕縛ス可キ旨千葉縣警保掛ノ逮捕狀ヲ取拵廣田彬ノ小印ヲ僞造致シ右警保掛ト認メタル下ヘ押シ千葉縣ヨリ九大區一小區扱所ヘ脚夫相越ス節扱所ノ昇降口ヘ右逮捕狀ヲ捨置脚夫ノ遺失セシ體ニ仕成シ右三人ヲ捕縛セシムル段右科ノ內詐爲官文書律ニ依リ廉耻ヲ破ル甚キヲ以テ除族申付ル

（明治八年三月二十日發行『千葉新報』第十三號）

## ●縊死體を轉移せし科

東京第一大區九小區日吉町二十一番地平民　野中又吉

自分儀新規土藏建築中の處當一月十八日朝七時頃右普請足場へ年齡三十四五歳位の平民體の男小倉帶にて首縊相果居候よし雇人加藤芳藏より報告に付新に建築する土藏へ右體の儀有之忌々敷存する餘り前後の思慮もなく早々取除候樣右芳藏へ申付同町十四番地先へ移さしめ候段奉恐入候事

地界內に死屍あるを官司に申報せす輙く他所に移す者移地界內死屍條に依り懲役七十日贖を聽し贖罪五圓廿五錢

（明治八年四月四日『郵便報知新聞』第六百三十一號）

## ●郵便規則違反の信書依託罪

信濃國水內郡富倉村平民　阿部五郎右衛門

其方儀郵便規則ヲ忘却致シ元飛脚稼罷在即今行方未知顏戶村農北澤萬平出京ノ序賃錢貳錢相添東京番場町中條吉右衛門方ヘ信書相托スル科六年郵便規則第十一條ニ照シ罰金七十五錢申シ付ル　亥五月　（長野裁判所）

（明治八年六月二十日『長野每週新聞』第五十七號）

## ●私印盗用金借證書偽造

信濃國更級郡上氷鉋村平民　北澤金吾

其方儀水内郡長野町ノ内榮町郷宿小林茂左衞門方ニテ鬼無里村平民次郎右衞門長男戸谷德十同宿致シ候節同人外出ノ透ヲ窺ヒ風呂敷包ノ中ニ有之次郎右衞門ノ印形窃ニ取出シ金百四十五圓利子壹圓ニ付一ケ月銀七分五厘ト定候次郎右衞門借用ノ偽證書ヲ作リ尚相客小縣郡本海野村平民上原德十郎ト謀リ同人妻ノ父房山村ノ内紺屋町平民町田寅藏ノ名前ヲ證書面債主ノ宛名ニ認メ加ヘ其上返濟延期書ヲモ贋作シ上野國吾妻郡大笹村平民土屋多一郎ヘ其情ヲ語リ同人ヲ町田寅藏ノ代言人ニ仕成シ戸谷次郎右衞門ヘ掛リ元利通算百八十六圓六十八錢七厘五毛ノ返濟淹滞ノ段訴ヘ出ルニ依リ被告喚ビ出シ遂審判之際追追腹心ヲ探リ動靜ニ寄尚又術策ヲ廻ラス可クトノ所存ニテ却テ被告ノ代書人トナリ差添罷出ル右科雜犯律不應爲條不應爲ノ重キニ問擬シ杖罪七十申付ル

信濃國小縣郡本海野村平民　上原德十郎

其方儀水内郡長野町ノ内榮町郷宿小林茂左衞門方止宿ノ節相客氷鉋村平民北澤金吾儀水内郡鬼無里村平民次郎右衞門長男戸谷德十同宿致シ候ニ付透ヲ窺ヒ風呂敷包ヨリ印形窃ニ取出シ金百四十五圓利子一圓ニ付一ケ月銀七分五厘ト定メ候次郎右衞門捺印ノ借用證書ヲ作リ置候ニ付追テ同人ヘ掛リ出訴金圓可欺取トノ申談ジニ同意シ其身妻ノ父房山村ノ内紺屋町平民町田寅藏ノ名前ヲ證書面債主ノ宛名ニ認メ加ヘ其上返濟延期書ヲモ贋作シ尚訴狀並代言人委任狀ニ可用界紙二枚寅藏宅ヘ持參リ同人ノ實印ヲ窃ニ捺シ上野國吾妻郡大笹村平民土屋多一郎ヘ詐欺ノ顚末相語リ寅藏代言人ニ仕成シ次郎右衞門ヘ掛リ元利通計金百八十六圓六十八錢七厘五毛返濟淹滞ノ段爲及出訴其後審判中金吾ヨリ詐術發覺可及勢ニ付當所退散可致トノ通知ニヨリ止宿先長野町ノ内東ノ門町鹽ノ入貞吉方旅籠代金一圓五十九錢二厘五毛不相拂無沙汰ニ立出逃去ノ際權堂村茶屋渡世藤吉次郎宅ニテ酒色代金一圓四十一錢持合無之トテ歸宿ノ上可相拂旨申シ詐リ吉次郎召仕同道再ビ貞吉宅ヘ立戻リ透ヲ窺ヒ塀ヲ乘越シ逃去スル右科一ノ重ニ隨ヒ雜犯律不應爲條不應爲ノ重ニ問擬シ金吾ノ從トナシテ論ジ杖罪六十申付ル

（明治八年五月二十三日『長野毎週新聞』第五十三號）



## ●堤防を破壞せし農民の巨魁

五月二十八日新治縣裁判所言渡

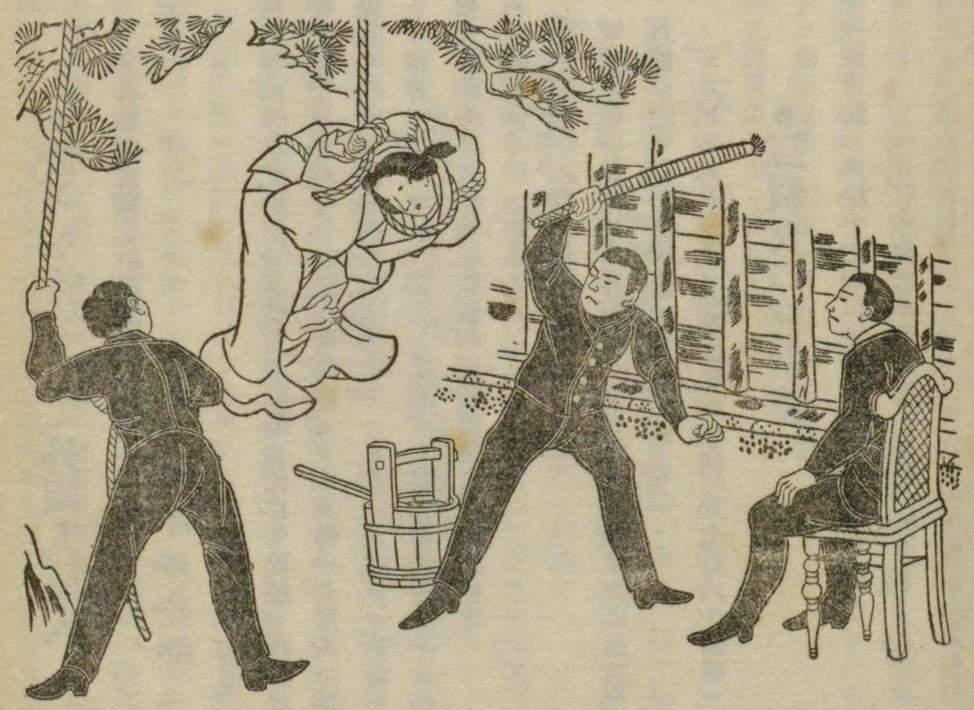
常陸國河内郡猿島新田戸長三十郎父　富山榮吉

其方儀村方外六ケ村へ角崎町ト外三ケ村ヨリ掛ル水除堤高低論所一件司法裁判所ニ於テ裁許申渡ノ趣キ不服ニヨリ猶司法省ヘ出願中原告村方ヨリ論所ヘ出張士手切落スニ付水害ヲ患フルノ情トハ申シナカラ衆力ヲ募リ差押ヘント一存ヲ以テ小前一同ヲ倡ヒ太鼓ヲ扣カセ集會ヲ促シ先達テ川村唯助等ヘ日延ノ儀强勢論判ニ及フ右擧動ニヨリ三ケ村ニ於テ鐘又ハ太鼓ヲ鳴ラシ多人數動搖集會致シ縣廳ヲ騷カスニ至ル科改定律例第二百八十七條違制ノ輕キ者ニ擬シ杖九十申付ル

（明治八年六月十二日『郵便報知新聞』第六百九十三號）

## ●廣澤參議暗殺の嫌疑者

明治四年正月九日の夜、時の參議廣澤眞臣は何者にか斬殺された、爾來其犯人嫌疑として拷問鞫訊を受けた者は八十餘名であつたが、いづれも何等の證跡なく放免されたので



ある、其中當夜眞臣と同衾して居た妾かねは、慘害の告訴もせず即時逃走したので、最も有力なる嫌疑者として囚はれ、約五年間獄に繫がれて數十回さま〳〵の拷問を受けたそれはかねが眞臣の生前より家令起田正一と密通して居たので、兩人共謀の上主人を斬殺したのであらうと見られたのであつたが、これも同じく證據不充分として放免されるに至つた、其臨時裁判所別局に於ける判決文を最近發行の尾佐竹雨花先生著『日本陪審史』に據つて左に摘錄する、此裁判言渡の當日は內務卿大久保利通も出席し、裁判官及參坐の役人十數名が列席したさうである

申渡

山口縣長門國大津郡三隅村豐原住居農　起田正一

其方儀故參議廣澤眞臣枉死一件ニ付相糺候處無罪ニ決スルヲ以テ解放候事

東京第一大區十一小區神田鍋町二十七番地
借地　福井長吉娘　かね

其方儀故參議廣澤眞臣枉死一件ニ付相糺候處無罪ニ決スルヲ以テ解放候事

明治八年七月十三日

## ●許可を得ずして外國人雇入

東京第六大區二小區深川富田町一番地
平民　本田貞次郎
四十三年七月

自分儀郵便蒸氣船會社赤龍丸長坂圓助代にて同船へ乘込本年三月十三日函港へ航海の際英國人スミス外一人雇入の御免狀外務省へ願中至急の儀有之スミス外一人乘込せ使役致させ願書の儀は會社へ相托し拔錨致し同港着船の上被差押候尤前斷願書は航海中願濟相成候儀後に承知仕候事

右の通相違不申上候以上

明治八年八月二十四日

官廳の免許を受けず外國人を雇ひ船中使役する者違式重に問ひ贖を聽し贖罪金一圓五十錢

（同年八月三十日『郵便報知新聞』第七百六十四號）

## ●隱賣女の客引婆

東京第一大區十五小區元島町拾番地
平民亡松五郎妻　鈴木りん
五十四年三ヶ月



自分儀貧窮の餘娼妓衒賣の媒合致し少々宛にても金錢貰請生計相營み度存じ格別婦女の目的無之候得共本年八月二十九日往來人を誘引可致路頭徘徊の折柄英國人ケンノン日本服着用にて通行致候に付御國人と誤認し旦那樣と喚び袖引候處同人不審に存候哉警視第一御分廳第四署へ被引連候事

右之通相違不申上候以上

明治八年九月十五日

改定律例第二百八十八條違式輕に問擬し收贖金二十五錢

（同年九月二十四日『郵便報知新聞』第七百八十五號）

## ●裁判官の暴行

長野縣士族當今東京第一大區第九小區
尾張町二丁目十五番地柳川清助方寄留
四級判事補　佐久間恪
廿五年十一ヶ月

自分儀本月十二日夜酒樓ニテ飲酒酣醉ノ上歸途中日本橋邊ニ於テ姓名不知人力車自分足上ニ車ヲ引掛候ニ付車夫ヲ捉ヒ大聲ヲ發シ差咎居候折柄同所巡行ノ巡査荒井信之罷越相宥メルヲ却テ憤リ種々暴言ヲ吐キ遂ニ交番所へ可相越旨申聞ルヲ不聽入拳ヲ以テ同人頭上ヲ毆打シ尙拘引サル、途中同巡査片岡宣德佐藤信成ニ組付揉合候際同人等ノ制服ヲ引裂キ殊ニ宣德脇腹ヲ靴ニテ蹴リタル趣ニ候得共醉中恍惚前後覺ヘ不申候處今般始末御糺問ヲ受實ニ酩酊ノ所爲トハ申乍ラ右等粗暴ノ所業ニ及候段恐入候事

右之通相違不申上候以上

明治八年九月二十三日

棄毀器物稼穡條官物ヲ棄毀シタル者竊盜ニ準シ一等ヲ加ヘ贖一圓以上懲役七十日官吏私罪贖例ニ照シ贖罪金十四圓　但餘罪ハ輕シ論セス棄毀スル代價ハ追徵ス

（同年九月二十五日『郵便報知新聞』第七百八十六號）

## ●藩名を詐稱して蒸氣船買入

舊斗南藩若松縣平民　原源次郎

其方儀舊斗南藩亡田中左內等申合薩摩屋專吉名前ヲ以テ米國商人トンブリーヨリ蒸氣船買入ル、節證書ニ斗南藩受人ト記載シ又ハ英國商人スコット及ヒキルヒーハンタヨリ物品買入ル、節自己ノ商法ナルニ證書ニ藩用ト記シ又ハ斗南藩印鑑ヲ證書ニ張付同藩商法ノ體ニ證書ヲ詐爲シタル科詐爲官文書律藩ノ文書ヲ詐爲スル者ニ問擬シ懲役二年可申付處明治八年八月十九日口供廿結ノ後同年九月二十五日マテ

滯獄セシメルニ付滯獄罪囚減役例圖ニ照シ日數八日ヲ本罪内ニ算入シ殘年ト三百五十七日申付ル

舊斗南藩青森縣士族　赤羽操

其方儀舊斗南藩原源次郎等米國商人トンブリーヨリ蒸氣船買入ル、節證書ニ役名ヲ記載シ又ハ同人等英國商人キルヒーハンタヨリ物品買入ル、節容易印判ヲ貸渡シ證書ニ連印シタル段其詐爲ノ情ヲ知ラザルヲ以テ右科不應爲輕キニ間擬シ禁獄三十日ノ贖罪金二圓二十五錢申付ル

右差添人共

右ノ通申渡候間其旨可相心得候事

明治八年九月二十四日　東京上等裁判所

（同月十七日『郵便報知新聞』第七百八十八號）

## ●稲荷の託宣と詐稱せし狐婆

東京第八大區三小區角筈村一番地借店
平民宮崎留吉繼母　宮崎しげ
四十五年九ヶ月

自分儀八九年前ヨリ瘋癲症ニ候哉精神錯亂致時々暴喰暴行ノ振舞等有之ヨリ世上ノ人狐着ト申觸ラシ候處昨七年四月中懇意ノ者共ヨリ稲荷堂ト唱ヘ建築致呉候ヨリ自然前條ノ擧動無之候哉ニ付全ク稲荷等ノ祟ニモ可有之哉ト存シ信仰罷在候處追々參詣人相增シ諸物品等奉納候族有之ヨリ不斗慾心ヲ起シ活計ノ一助ニモ可致ト存シ以前ノ姿ニ仕成シ兼テ好酒參詣人相集候節ハ酩酊ニテ自分異行ノ行ヒヲ成シ右參詣人ヘ對シ稲荷ノ託宣ト稱シ運勢吉凶等ヲ授ケ無根ノ說ヲ申觸シ候ヨリ追々參詣人共ヨリ蠟燭又ハ御酒料トシテ金錢ヲ奉納爲致來候處今般右所業相顯ハレ今更恐入候事

右之通リ相違不申上候以上

明治八年九月二十六日

稲荷ノ託宣ト稱シ運勢吉凶等無根ノ說ヲ唱ヘ諸人ヨリ金錢物品等ヲ奉納セシムル者不應爲輕ニ間ヒ懲役三十日收贖例ニ照シ收贖金七十五錢

（同年九月二十八日『郵便報知新聞』第七百八十九號）

## ●イケナイ誤認のジヤウダン

東京第五大區八小區淺草北新馬道
醫王町一番地　平民　小林萬吉
二十五年四ヶ月

自分儀五ヶ年前淺草聖天町長谷川權五郎娘とめを娶リ候處家内折合不宜依て無餘義本年四月中表向は離緣致し候得共折を見合せ再緣可致約束にて同所聖天町石鍋林藏店を借居爲住置時々相通ひ居八月十三日午後八時頃例の如く罷越候所とめは用向有之一寸近邊へ參リ候趣同人母申聞候間又候後刻可罷越旨申立歸る道山の宿町川岸通にて行違候婦人の姿とめに酷似候間全同人と心得何處へ行候哉と云ながら戲に後ろより抱き付候處小聲にてジヤウダンシテハイケナイと申候に付別人には無之夫萬吉なる旨申聞ながら陰門の邊と思敷所へ衣類の上より手を當るや否高聲を發し候故打驚き始てとめに非るを知り手を放ち候際男二人馳せ來り被差押候に付彼是詑入候所巡査の拘引に相成取調の上右婦人は山の宿町寄留栃木縣士族大沼忠順四男同忠吉妻ちよの由承知仕候事

右の通相違不申上候以上

明治八年九月二十四日

一旦離緣せし妻と私に再緣を約し相通し居り黃昏途上に於て其妻と誤認して他人の妻に抱き付き戲るゝ者不應爲輕きに問ひ聽贖し贖罪金二圓二十五錢

（同年十月五日『郵便報知新聞』第七百九十五號）

斯かる愚にもつかぬ性的些事にて東京裁判所のお役人を煩はせし警吏のあつた事も笑ふべしである

## ●僞の明治政府顚覆盟約書

京都府士族　山科生幹
二十二年

其方儀當路ノ大臣或ハ福澤諭吉等方今ノ御政體ヲ共和政治ニ變革セント企ル趣無根ノ風說ヲ誤リ信シ右大臣等ヲ貶黜スル爲メ同志ヲ募ラント曖昧ナル書面ヲ造リ彼等ノ盟約書ト詐リ小林祐勝ニ示シ同意爲致中山從一位其餘ノ華族ニ說キ遂ニハ密旨ヲ得テ右貶黜ノ策ヲ行ハント企ル科不應爲重キニ擬シ懲役七十日ノ處素憂國ノ赤心ヨリ出ルヲ以テ情ヲ量リ贖罪金五圓二十五錢申付ル

京都府士族　小林祐勝
二十四年

其方儀山科生幹ヨリ當路ノ大臣或ハ福澤諭吉等方今ノ御政體ヲ共和政治ニ變革セント企ル趣無根ノ風說ヲ聞キ同人ノ僞盟約書ヲ誤リ信シ同人ノ申勸ニ從ヒ容易ニ中山從一位其餘ノ華族ニ說キ遂ニハ密旨ヲ得テ右大臣等ヲ貶黜セント企ル科不應爲條輕キニ擬シ懲役三十日ノ贖罪金二圓二十五錢申付ル

（明治八年十月九日『郵便報知新聞』第七百九十九號）

## ●坊主と密通の子おろし

十月二十七日東京裁判所落着

東京第十大區四小區千住宿北組
百九十三番地平民奥山七藏妻
奥山こう
三十九年一月

自分儀產婆渡世罷在候處本年五月二十三日本郷村前田又兵衛姪こと墮胎ノ手當致吳候樣申聞候ニ付兼テ御禁制ノ旨モ有之ヲ以テ一應ハ相斷リ候得共强テ依賴ニ及ヒ候間夫七藏ヘハ相隱シハヤメ藥並ニ技術相用ヒ同二十五日墮胎致サセ候尤謝金トシテ三圓貰受已レ飲食等ニ費用致候

右之通相違不申上候以上

懲役百日

武藏國足立郡本郷村平民又兵衛姪
前田こと
三十年九月

自分儀昨七年一月中ヨリ同村全棟寺住職一荷緣ト密通致シ姙娠ニ及ヒ既ニ臨月間近ニ相成候處世評ヲ憚リ且ハ出產ノ上生育可致目途モ無之事情ヨリ一時心得違致シ本年五月二十三日千住宿奥山七藏妻こうヘ强テ墮胎ノ手當方相賴候處服藥並ニ技術等相施シ同二十五日墮胎致候依テ謝禮トシテ金三圓差遣シ申候尤此事右一荷緣ト談合致候義ニ無之候

右之通相違不申上候以上

明治八年十月十四日
懲役百日

一荷緣

其方儀前田こと墮胎一件ニ付相糾ス處不束ノ義無之間無構

（同年十月二十九日『郵便報知新聞』第八百十七號）

## ●自家用酒密釀者の處刑

罰文（長野裁判所）

信濃國小縣郡八木澤村平民
前島利右衛門

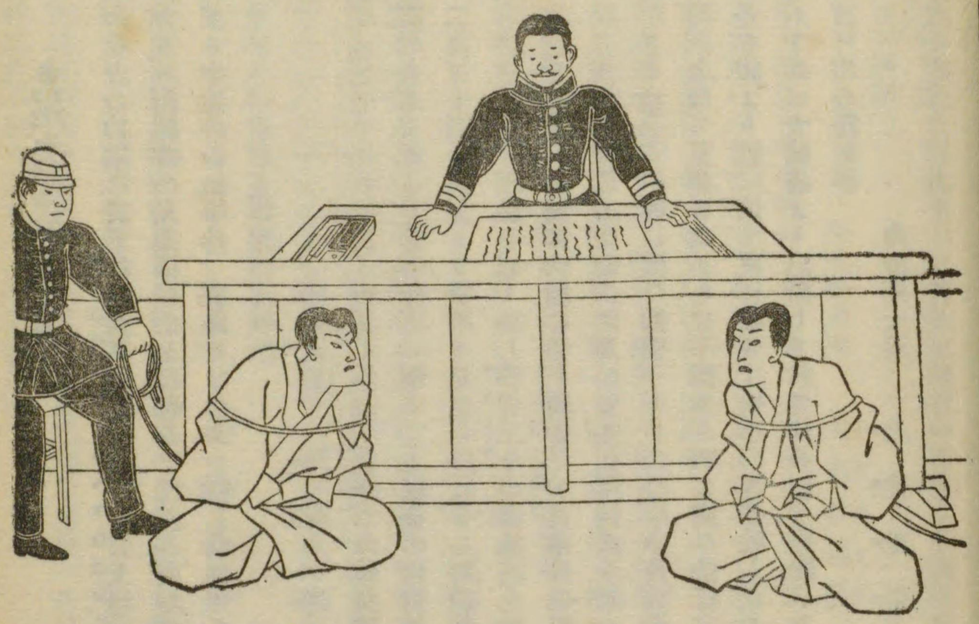
其方儀自料ニ致ス可クトテ無鑑札ニテ清酒四斗三升密造致ス科酒類稅則第三則賞罰例第一條ニ照シ現在ノ酒並ニ器械トモ取揚科料金三十二錢申付ル

乙亥十二月

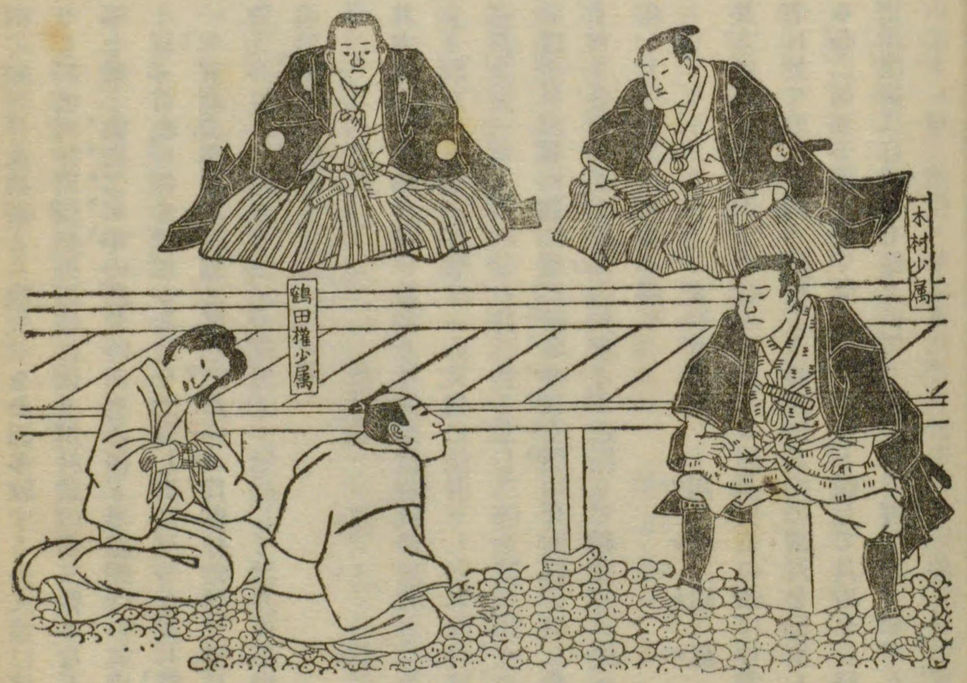
（明治八年十二月二十六日『長野毎週新聞』第八十四號）



裁判圖會（一）



（新編伊香保土產）




（夜嵐阿衣花仇夢）

## ●尾去澤銅山事件

明治政府の初期に於て奸曲貪婪の巨魁たりし井上馨が、村井茂兵衛經營の尾去澤銅山を强奪して三菱へ賣却するに至る中途の紛紜事件、表面だけのテレ隱し裁判である

東京上等裁判所申渡

紙幣大屬　川村選

其方儀大藏省十等出仕にて判理局勤役中舊藩々外國負債取調の際村井茂兵衛より舊盛岡藩へ係る貸上げ金の內償却したる二萬五千圓を同藩より貸附と見做し徵收せし科職制律出納有違條に依り坐贓を以て論し懲役三年の處過誤失錯に出るを以て官吏公罪罰俸例圖に照し罰俸三ヶ月申付候事

但し村井茂兵衛稼尾去澤鑛山附屬品買上代價同人承諾の證取置かざるは違式の輕に問ひ懲役一十日○吟味中茂兵衛の代人堀松之助へ私和を求めしは不應爲の輕に問ひ懲役三十日○各本罪より輕に依て更に論せず候事○各多收したる金二萬五千圓は大藏省より追徵して村井茂兵衛へ還附いたす間其旨可相心得候事

內務權大丞　北代正臣

其方儀大藏省六等出仕にて判理局擔當中舊藩々外國負債取調の際村井茂兵衛より取立べき金圓多收するの文案に連署せし科名例律同僚犯公罪條に依り川村選の第二從となし一等を減し懲役二年半の所當時病患に罹り事務調査の氣力乏く專ら首犯に任せ置たる情狀を酌量し更に三等を減し懲役一年官吏公罪罰俸例圖に照し罰俸一ヶ月申付候事　但し多收したる金二萬五千圓は大藏省より追徵して村井茂兵衛へ還附いたす間其旨可相心得候事

從四位　井上馨

其方儀大藏大輔在職中舊藩々外國負債取調の際村井茂兵衛より取立べき金圓多收するの文案に連署せし科名例律同僚犯公罪條に依り川村選の第三從となし二等を減し懲役二年の處平民贖罪例圖に照し贖罪金三十圓申付候事　但し多收したる金二萬五千圓は大藏省より追徵して村井茂兵衛へ還附いたす間其旨可相心得事

大坂府士族　川井清藏

其方儀舊盛岡藩大屬奉職中取扱たる同藩負債の儀に付大藏省に於て取調之砌り同藩より村井茂兵衛の舊債を抵償したる金二萬五千圓を以て同人へ貸付金と做して具申せし科改定律例第二百四十七條上に告ぐるに詐て實を以てせざる者の重きに擬し懲役一年の處已に右證書取拵一件に付禁獄一年の受斷を經るを以て二罪俱發例に照し罪等しきに依り更に論ぜず候事

茨城縣士族　大久保親彦

其方儀大藏省在職中村井茂兵衛稼尾去澤鑛山附屬品買上代價同人承諾の證書相添はざる決議の文案に連署せし科名例律同僚犯公罪條に依り所由川村選と同罪たりとも素より該件事務關係せざるを以て情狀を酌量し一等を減し無罪

東京府士族　岸本旦矩

東京府第五大區二小區神田八名川町六番地

吉川いと方同居平民　玉井半三郎

其方儀川村選より村井茂兵衛代堀松之助へ吟味中私和を求めしむるの際選の囑託を受け周旋せし科雜犯律不應爲條に依り所由川村選の從たるを以て懲役二十日の處私心なきを以て情狀を酌量し二等を減じ無罪

從五位　小野義眞

其方儀大藏省在職中村井茂兵衛より取立べき金圓川村選誤て多收せし一件且茂兵衛稼ぎ尾去澤鑛山附屬品買上代價承諾の證書不取置一件及び今田紋十郎身代解放處分一件等夫々遂吟味處不束の筋無之に付無構候事

村井茂兵衛代　堀松之助

其方儀村井茂兵衛より舊盛岡藩へ貸上金二萬五千圓大藏省に於て多收せし一件且川村選吟味中岸本旦矩を以て私和を求めし一件等相尋る所御用相濟候に付此旨可相心得事　但多收したる金二萬五千圓は大藏省より追徵して追て村井茂兵衛へ下渡候間其旨可相心得事

從五位　岡本健三郎

其方儀大藏省在職中村井茂兵衛稼ぎ尾去澤鑛山附屬品買上代價同人承諾の證書相添はざる決議の文案に連署せし科名例律同僚犯公罪條に依り所由川村選の第二從となし一等を減じ無罪

正五位　澁澤榮一

其方儀大藏省在職中(同文言)所由選の第三從となし二等を減じ無罪

(明治九年一月九日『讀賣新聞』第二百八十七號以下連載)

裁判所は井上馨の內命にて二萬五千圓の事ばかりを裁判し、銅山採掘權に就ては何等の判決を下さなかつたので、馨は自己の配下たる岡田平藏の名儀にしてあつた銅山を高價に賣つて私腹を肥やしたので、天下其奸曲を憎まぬ者はなかつた

## ●奇藥を服用せしめし醫者

下谷坂本町三丁目の護岡豐武齋と云ふ醫者がお話しに成らない事をして先ごろ召とられ昨日落着に成つた其書付は

「其方儀兼て醫業の身として治療の依頼を受るとは申しながら妄りに師の口傳と唱へ男女交合の精液を黒燒にし他の藥種を和し之を吉田金七に服用せしめ剩さへ再度之を用ひんと欲するとて右金七妻とくへ姦通申し掛候科不應爲重に問ひ懲役七十日申付る」とありました

（明治十年五月十九日發行『讀賣新聞』第六百九十八號）

## ●妻を貰はん爲めに僞籍

教導職にもこんな坊さんがありますごらんなさい

東京一大區四小區神田佐柄木町二十八番地

訓導職　橘　日　琢

其方儀妙福寺住職中前川きよを妻に貰請度も僧侶にては肯ぜざるとて歸商する趣きにて弟加田爲七へ申談じ旅行先に於て已に死亡せし兄總七復歸せし體に僞り其筋へ屆させ右名跡を以てきよと緣組し後ち小兒の生死も屆出ず殊に總七名前不用に屬するとて永岡市郎兵衛と申合せ無籍松次郎に右籍讓り渡す段右科違令重に問ひ一寺住職にて退院せし者及び訓導職なるを以て閏刑に換へ禁獄四十日申付る

（明治十年五月十九日發行『讀賣新聞』第六百九十八號）

## ●華族の證券印紙稅則違反

華族さまが御二方この通り裁判所にて申し渡されましたが少しお外聞がわるくは有るまいか

東京第十大區二小區橋場町五十四番地

東京府華族　松前修廣

東京第五大區二小區北三筋町四十番地

東京府華族　內藤正誠

其方共儀河村猶勝外一人に金高三千圓及び五百圓の約定證書に證券印紙一錢宛貼用する科證券印紙規則第四則改正第七條に照し減稅高の十倍過料金三十四圓八十錢申付る

（明治十年七月六日發行『讀賣新聞』第七百三十九號）

## ●金圓借用證書に官名記載の科

昨日東京裁判所にて申し渡された落着は

東京第二大區十二小區麻布櫻田町十六番地寄留

石川縣士族陸軍大尉　齋藤時之



其方儀吉田仁兵衛より金圓借用の節證書へ擅まゝに官名を記載し又は當裁判所の召喚を受け無屆不參する科違令輕に擬し懲役三十日の處情狀を酌量し二等を減じ懲役十日官吏私罪贖例に照し贖罪金三圓仍ほ明治十年第五號公布に依り罰金二十五錢申付る

（明治十年七月十二日發行『讀賣新聞』第七百四十四號）

## ●西郷隆盛方の一大將

九州臨時裁判所に於て左の通り處刑相成し由

熊本縣第七大區二小區橫島外平村

士族　池部吉十郎

其方儀朝憲ヲ憚ラス逆意ヲ逞フシ松浦新吉郎山崎定平等ト謀リ兵器ヲ弄シ衆ヲ聚メ隊伍ヲ編制シ諸隊長ヲ撰任スル而已ナラス自ラ其惣軍ヲ指揮シテ西郷隆盛ニ應援シ官兵ニ抵抗スル科ニ依リ除族ノ上斬罪申付ル

明治十年十月二十六日

（同年十一月六日『郵便報知新聞』第千四百三十六號）

西郷隆盛は別府晋介の手に依て死し、篠原國幹は戰死し、桐野利秋、村田新八、別府晋介等は皆自殺した、猛將連中での受刑者は、此池部一人である

## ●石川舜台の毆打罪

もと東本願寺の寺務所長たりし石川舜台は昨冬祇園町の遊所にて敎正にもあるまじき擧動を爲せしが素より酩酊の上とはいひながら犯せる罪は逃るべからず久しく其筋の吟味を受けし末遂に去る二十五日懲役三十日に處せられたり

石川縣加賀國第十大區六小區石川郡土取場永町平民

永順寺住職石川賢由養父

眞宗　石川舜台

三十六年六月

一慶應二年八月金澤藩に於て洪鐘を賣拂ひし科に依り住職差免され隱居申付らる

一自分儀前書之通隱居申付られし後明治六年二月京都表へ立越し寄留致居明治八年八月二十三日權中敎正拜命仕東本願寺々務所長相勤中明治十一年一月十日所屬役者權大講義谷了然外七名申合せ下京第十五區祇園町南側遊所席貸渡世杉浦芳太郎方に於て會宴し酒酣の折柄監正課大講義渥美契誠なる者右了然に所用のある趣にて相越其酒宴の席へ相通りしに其擧動喧雜にして歌謠樣のことを高聲に唱へ會宴衆に對し何乎批評する樣に相覺へ因て念ふに最初より彼を此

席へ誘引せさるを以て不平の意あるを思考し自分右契誠を別席へ連行て猶追て論する義も有之候得共今夕は平穩にして飲酒可致旨を以て相諭し候處一時承諾して後猶不改喧雜なること先きに彌增且自分に於ても熟醉酩酊致候へは右契誠の所爲其無禮相極むるを以て氣障りに付其場退散せんとせし處同人押て差止めしにて尙又席に就きし處契誠義了然に對し高聲發し何乎議論ヶ間敷義を喧々申居候に付彌以て癇に障り矢庭に立掛り拳を以て契誠の面部其外毆打せし儘立去り飯宅致候處追々醉醒致し候に就ては前顯短氣の所業先非を悔ひ然るに右事件已に發覺し下京警察署に於て契誠御取調に相成居るとは不存明治十一年一月十四日京都府へ自首仕候に付追々御取糾を受け何分前顯熟醉中の義に付詳細記臆不仕旨陳述仕候へとも猶熟考候處前書申上候通りに聊相違無之且契誠痛所不日平癒致候趣承知仕候事

右犯罪御吟味中明治十一年一月二十一日依願免職に相成候事

右之通相違不申上候以上

明治十一年五月二十四日　　同人

七月二十五日　　懲役三十日

（同年七月三十一日『郵便報知新聞』第千六百五十四號）

## ●大久保利通暗殺共犯者

石川縣加賀國石川郡金澤小立野士取場城端町六十八番地藏精一方同居

石川縣士族　島田一郎

其方儀自己ノ意見ヲ挾ミ要路ノ大臣ヲ除ンコトヲ企テ長連豪杉本乙菊淺井壽篤等ヲ誑惑シ同類ニ引入レ脇田巧一杉村文一ト通謀シ明治十一年五月十四日府下紀尾井町ニ於テ連豪外四人ト共ニ大久保參議ヲ殺害セシ科ニ依リ除族ノ上斬罪申付ル

石川縣能登國鹿島郡田鶴濱村新立十二番地亡此木連潔長男

石川縣士族　長連豪

其方儀自己ノ意見ヲ挾ミ要路ノ大臣ヲ除ンコトヲ企テ島田一郎脇田巧一杉村文一杉本乙菊淺井壽篤ト通謀シ明治十一年五月十四日一郎外四人ト共ニ府下紀尾井町ニ於テ大久保參議ヲ殺害セシ科ニ依リ除族ノ上斬罪申付ル

石川縣加賀國石川郡金澤野田寺町二丁目二十三番邸士族江口銀三方同居士族祐順弟

平民　脇田巧一



其方儀自己ノ意見ヲ挾ミ要路ノ大臣ヲ除ンコトヲ企テ島田一郎長連豪杉村文一杉本乙菊淺井壽篤ト通謀シ明治十一年五月十四日一郎外四人ト共ニ府下紀尾井町ニ於テ大久保參議及御者中村太郎ヲ殺害セシ科ニ依リ斬罪申付候事

石川縣加賀國石川郡金澤池田町立町十七番地

石川縣士族　杉本乙菊

其方儀自己ノ意見ヲ挾ミ要路ノ大臣ヲ除ンコトヲ企テ島田一郎長連豪脇田巧一杉村文一淺井壽篤ト通謀シ明治十一年五月十四日島田一郎外四人ト共ニ府下紀尾井町ニ於テ大久保參議ヲ殺害セシ科ニ依リ除族ノ上斬罪申付ル

石川縣能登國鹿島郡七尾龜山町四番地

士族杉村寬正弟

杉村文一

其方儀自己ノ意見ヲ挾ミ要路ノ大臣ヲ除ンコトヲ企テ島田一郎長連豪脇田巧一杉本乙菊淺井壽篤ト通謀シ明治十一年五月十四日島田一郎外四人ト共ニ府下紀尾井町ニ於テ大久保參議ヲ殺害セシ科ニ依リ除族ノ上斬罪申付ル

島根縣因幡國邑美郡鳥取東品治村二百三十七番地士族淺井隼太二男

淺井壽篤

其方儀自己ノ意見ヲ挾ミ要路ノ大臣ヲ除ンコトヲ企テ島田一郎長連豪脇田巧一杉村文一杉本乙菊淺井壽篤ト通謀シ明治十一年五月十四日一郎外四人ト共ニ府下紀尾井町ニ於テ大久保參議ヲ殺害セシ科ニ依リ斬罪申付候事

石川縣加賀國石川郡金澤芳齋町士族眞岡正吉郎方同居

石川縣士族　松田克之

其方儀方今ノ政體ヲ一變センガ爲メ大久保參議ヲ殺害センヲ脇田巧一等ト謀リ上京シ尙同志ヲ募ラント一旦飯縣セシガ其殺害ノ事ヲ果サンガ爲メ再ビ出京ノ途中遲滯ノ折柄巧一等既ニ殺害ノ事ヲ遂ケシ故其場ニ莅マズト雖トモ猶其逆意ハ不止大科ニ依リ除族ノ上禁獄終身申付候事

石川縣加賀國石川郡金澤大工町六番邸同居

石川縣士族橋爪芳尾養子

橋爪武

其方儀長連豪ノ依賴ニ依リ連豪ガ島田一郎ト共ニ要路ノ大臣ヲ殺害スルノ同謀者ナル杉本ヘ早々出京スヘシト通知シテ同人ヲシテ連豪等ト共ニ要路ノ大臣即チ大久保參議ヲ殺害スルノ期ニ及フコトヲ得セシメ並ニ淺井ガ連豪ト共ニ官員ヲ殺害スル爲メ出京スルノ路金ヲ與ヘ加之連豪等ノ志ヲ

繼キ歸縣シテ後擧ヲ謀ルコトヲ承諾シ歸縣ノ後ニ壽篤等ニ勸メ後擧ノ人數ニ加ヘントセシ所爲ニ及ヒシハ連豪乙菊壽篤等ノ逆謀ヲ助力セシノミナラス後擧ノ企ニ着手セシ科ニ依リ除族ノ上禁獄終身申付候事

石川縣加賀國石川郡金澤町杉浦町十六番地
石川縣士族　陸義　猶

其方儀島田一郎等ガ大久保參議ヲ殺害スルノ企ニ同意シテ斬奸狀ト唱フルモノヲ作爲シ其逆謀ヲ賛成スル科ニ依リ除族ノ上禁獄終身申付候事

石川縣加賀國石川郡金澤二十人町三番地
石川縣士族　水野主清

其方儀島田一郎等カ大久保參議ヲ殺害スルノ企ニ同意シテ上京ノ旅費金ヲ與ヘ其逆謀ヲ助力セシ科ニ依リ除族ノ上禁獄終身申付ル

石川縣加賀國石川郡金澤裏千日町十九番地
石川縣士族　宮崎延義

其方儀島田一郎カ出京スルハ大臣參議ヲ殺害スル企ナルヘシト想像シナカラ一郎カ賴ミニ因リ旅費金扶助方ニ奔走シ且又一己ノ發意ヲ以テ池田嘉世外數名ヨリ金ヲ募リ旅費トシテ一郎ニ渡シ加之一郎カ發途ノ時水島驛迄見送タル右科ニ依リ除族ノ上禁獄十年申付ル

× × × × ×

除族ノ上禁獄十年　島根縣士族　松田秀彦
同　同　石川縣士族　山田貢
同　禁獄七年　同　同　大野成忠
同　同　同　堀江忠太郎
同　同　同　久保嘉吉郎
同　禁獄五年　同　同　木村致英
同　同　同　澤口期一
同　禁獄三年　同　同　寺垣吉之
同　禁獄一年　同　同　伊藤了
同　禁獄百日　同　同　入江鎌次郎
同　同　同　高田久英
其罪ヲ免ス　同　同　薄井達太郎
無罪　同　同　吉田嘉忠
同　同　同　林ゆか
同　同　同　龜田臣
同　同木村致英妻　木村よし

明治十一年七月二十八日　大審院

（同年七月二十九日『郵便報知新聞』第千六百五十二號）

## ●高知の明治政府顚覆黨

高知縣士佐國幡多郡宿毛驛百三十三番地
岩村英俊方同居
高知縣士族　林有造

其方儀明治十年鹿兒島賊徒暴擧ノ時ニ際シ兵ヲ擧ゲ政府ヲ顚覆セント企テ明治十年二月中岡本健三郎ニ依託シ外國商ニ談シ小銃八百挺並ニ附屬彈藥ヲ何時モ取入ル樣差押置カシメ又同年四月中中村貫一ニ依託シ外國商ニ談シ小銃三千挺並ニ彈藥ヲ前同樣差押置カシメ其手附トシテ貫一ヲシテ不少ル金額ヲ外國商に渡サシメ加之同年岩神昂、川村矯一郎等ガ重臣暗殺ノ企ニ與セシ科ニ依リ除族ノ上禁獄終身ニ處スベキ處輕減スベキ事情アルヲ以テ除族ノ上禁獄十年申付候事

高知縣士佐國幡多郡宿毛驛六十三番地
當時東京高輪町三十五番地寄留弘長男
高知縣士族　大江卓

其方儀明治十年鹿兒島賊徒暴擧ノ時ニ際シ林有造、岩神昂等ト共ニ政府ヲ顚覆セン事ヲ企テ陸奥宗光ヘ牒示シ又川村矯一郎ニ重臣暗殺ノ事ヲ敎唆シ加之林有造ガ外國商ヨリ銃器彈藥ヲ何時モ取入樣差押ユル事ニ立入リ不少ノ金額ヲ同商ヘ渡シタル科ニ依リ除族ノ上禁獄終身ニ處スヘキ處輕減スベキ事情アルヲ以テ除族ノ上禁獄十年申付候事

高知縣士佐國高岡郡左川村
當時東京府駿河臺鈴木町
高知縣士族　岩神昂

其方儀明治十年鹿兒島賊徒暴擧ノ時ニ際シ大江卓、川村矯一郎、林有造等ト謀リ兵ヲ擧ゲ政府ヲ顚覆シ重臣ヲ暗殺センコトヲ企ル科ニ依リ除族ノ上禁獄十年申付候事

高知縣士佐郡鐵砲町十六番地爲濤弟
高知縣士族　藤好静

其方儀明治十年鹿兒島賊徒暴擧ノ時ニ際シ兵ヲ擧ゲ政府ヲ顚覆セント企テ明治十年五月中賊徒ノ據有セシ日向ニ赴キ賊將桐野利秋ト密議シ暴擧ノ事ヲ牒シ合ハセ歸縣後同志ヲ嘯集スル事ニ着手セシ科ニ依リ除族ノ上禁獄終身ニ處スヘキ所輕減スベキ事情アルヲ以テ除族ノ上禁獄十年申付候事

高知縣士佐郡北與力町二十三番地居住
高知縣士族　池田應助

其方儀藤好静、村松政克カ日向ノ賊地ニ赴ク事ヲ承知シナカラ道案内書ヲ寫シ與ヘ其後好静、政克カ賊地ヨリ歸縣ノ

後豫テ借受アリシ山内家ノ所有ナル開成館ニ密會ノ時ニ於テ賊將桐野利秋ト兵ヲ擧ル事ヲ約シ來リシ事ヲ承知シ故ラニ之ヲ隱蔽シ加之林有造カ逆意ヲ挾ミ銃器彈藥ノ事ニ付外國商ト密約ヲ爲スニ協力セシ科ニ依リ除族ノ上禁獄十年ニ處スヘキ處輕減スヘキ事情アルヲ以テ除族ノ上禁獄五年申付候事

高知縣士佐國土佐郡十島町二十六番地居住
當時東京府下高輪町四番地寄留
高知縣士族　中村寛一

其方儀明治十年四月中鹿兒島賊徒暴擧ノ時ニ際シ林有造ガ暴擧ノ企テアリシニ同人ノ囑託ニ依リ岡本健三郎ト謀リ國禁ヲ犯シ小銃三千挺並ニ彈藥ヲ何時モ取入ル樣差押ユル爲金五千圓ヲ外國商ニ渡シ又明治十年七月中ニ金二千圓ヲ渡シ又大江卓ニ謀リ一萬八千圓ヲ外國商ニ渡ス爲メ大江卓ニ引渡シタリ該銃器ハ政府ノ御爲筋ニ買入レザルヲ推知シナガラ右處樣ニ及ビタル科ニヨリ除族ノ上禁獄三年申付候事

高知縣士佐國土佐郡一宮村士族岡山朝城方同居
當時東京府神田松下町五番地寄留
高知縣士族　岡本健三郎

其方儀明治十年鹿兒島賊徒暴擧ノ時ニ際シ林有造ガ依リ竹内綱ト共ニ國禁ヲ犯シ外國商ヘ小銃八百挺並附屬ノ彈藥ヲ何時モ取入候樣差押ユル爲メ手附金五千五百圓ヲ渡シ又明治十年四月中中村寛一ヨリ外國商ヘ談シ小銃三千挺及彈藥ヲ何時モ取入ル樣差押ル手附金ノ内五千圓モ同人ヘ貸與ヘタリ中途ニシテ此銃器ハ林有造等カ暴動ノ用ニ供スル品ト推知シタリ右科ニ仍リ除族ノ上禁獄二年申付候事

和歌山縣紀伊國海上郡小松原通一町目一番地
久野宗照方同居
當時東京飯田町一町目一番地由良守應方寄留
和歌山縣士族　陸奥宗光

其方儀明治十年鹿兒島賊徒暴擧ノ時ニ際シ元老院幹事ノ職ヲ以テ京都府行在所御用出張中大江卓カ林有造ト共ニ兵ヲ擧ケ政府ヲ顚覆セントスルノ企ヲ承知シ又岩神昂ヨリ重臣暗殺ヲ企ル事ヲ聞キ同人等カ暴擧ノ勢焰ヲ假リテ政體ヲ改革セント企テ大江卓ト通謀シ明治十年四月二十一日京都ヨリ暗號ノ電信ヲ以テ卓ニ約シ置タル密謀ノ報知ヲ促シ其翌二十二日卓ガ電信私報ノ禁令ヲ犯シ元老院ノ暗號ヲ用ヒシ詐稱官員ノ電信ヲ以テ擧兵ノ密謀ヲ牒合スル報知ヲ得テ卓ガ下坂ヲ待受ケタリ右科ニ依リ除族ノ上禁獄五年申付候事

高知縣士佐國土佐郡十島町二十六番地居住
高知縣士族　片岡健吉

其方儀明治十年鹿兒島賊徒暴擧ノ時ニ際シ藤好靜、村松政克ヨリ日向ノ賊巢ニ赴カントノ協議ヲ承ケ一旦之ヲ止ルト雖トモ尙兩人ノ望ニ依リ其意ニ任セ且旅費金トシテ金百圓ヲ貸與ヘシヲ以テ好靜、政克遂ニ賊巢ニ到リ賊將桐野利秋ニ面會シ暴擧ノ事ヲ申合セシニ及ヒタリ右科ニ依リ禁獄百日申付候事

高知縣士佐國幡多郡宿毛村居住
當時東京府駿河臺西紅梅町三番地寄留
高知縣士族　竹内綱

其方儀明治十年鹿兒島賊徒暴擧ノ時ニ際シ岡本健三郎カ囑託ニ依リ外國商ヨリ小銃八百挺及ヒ附屬彈藥ヲ何時モ取入ル樣差押ユルノ口入ヲ爲セシ科ニ依リ除族ノ上禁獄一年申付候事

高知縣士佐郡北奉公人町居住
當時東京府駿河臺東紅梅町十七番地寄留
高知縣士族　林直庸

其方儀明治十年鹿兒島賊徒暴擧ノ時ニ際シ大江卓カ敎唆ニ依リ逆意ニ從ヒシ科ニ依リ除族ノ上禁獄三年ニ處スベキ處輕減スヘキ事情アルヲ以テ除族ノ上禁獄一年申付候事

高知縣士佐國幡多郡沖ノ島四番地
士族則優長男　三浦介雄

其方儀明治十年鹿兒島賊徒暴擧ノ時ニ際シ同年三月中大山綱良ノ使トシテ賊魁西鄕隆盛ノ陣屋ニ至リ又田畑常秋ノ密意ヲ受ケ高知縣下ニ赴キ賊勢ヲ稱揚シ遂ニ三浦義處等ヲ煽動シ加之沖ノ島戸長ヲ欺キ病氣療養ノ爲メ出京スト屆ケ再ヒ賊地ニ投歸シ高知縣下ヨリ賊ヲ援クルノ兵三千人ヲ出スト報知シ賊勢ヲ助ケシ科ニヨリ除族ノ上禁獄五年申付候事

大分縣豐前國下毛郡中津新堀町居住
大分縣士族　川村矯一郎

其方儀明治十年鹿兒島賊徒暴擧ノ時ニ際シ大江卓ノ敎唆ニ從ヒ政府ヲ顚覆セント企テ岩神昂ト謀リ石松勝一、村上一策ヲ申勸メ重臣ヲ暗殺スルノ豫備ヲナス科ニ依リ除族ノ上禁獄十年ニ處スヘキ處輕減スヘキ事情アルヲ以テ除族ノ上禁獄二年申付候事

高知縣士佐國土佐郡帶屋町二番地
士族八藏長男　山田平左衛門

其方儀明治十年鹿兒島賊徒暴擧ノ時ニ際シ藤好靜、村松政克ガ日向ノ賊巢ニ赴キ高知縣ニ歸リシ時池田應助、岩崎長明、谷重喜ト申合セ好靜、政克ト豫テ借受アリシ山内家ノ

所有ナル開成館ニ密會シテ右兩人ガ賊將桐野利秋ニ面會シ暴擧ノ事ヲ申合セシコトヲ承知シ故ラニ之ヲ隱蔽シタリ然ルヲ平左衞門ニ於テハ右逆賊ノコトヲ承知セシコトヲ申立スト雖モ藤好靜、村松政克並ニ開成館ニ同席シタル岩崎長明、池田應助ノ申立アルニ依リ逆賊ヲ承知セシ者ナリト認定ス右科ニ依リ除族ノ上禁獄一年申付候事

高知縣士佐國金子橋五番地居住
高知縣士族　岩崎長明

其方儀明治十年鹿兒島賊徒暴擧ノ時ニ際シ藤好靜、村松政克ガ日向ノ賊巢ニ赴キ高知縣ニ歸リシ時池田應助、山田平左衞門、谷重喜ト申合セ好靜、政克ト豫テ借受アリシ山内家ノ所有ナル開成館ニ密會シテ右兩人ガ賊將桐野利秋ニ面會シ暴擧ノ事ヲ申合セシ事ヲ承知シ故ラニ之ヲ隱蔽セシ科ニ依リ除族ノ上禁獄一年申付候事

高知縣士佐國士佐郡中新町二丁目四十八番地
高知縣士族　弘田伸武

其方儀明治十年鹿兒島賊徒暴擧ノ時ニ際シ藤好靜、村松政克カ日向ノ賊巢ニ赴キ高知縣ニ歸リシ時好靜、政克カ賊將桐野利秋ニ面會セシ事ヲ承知シナカラ之ヲ隱蔽セシ科ニ依リ除族ノ上禁獄一年申付候事

高知縣士佐國士佐郡大川淵四番地居住
高知縣士族　谷喜重

其方儀明治十年鹿兒島賊徒暴擧ノ時ニ際シ藤好靜、村松政克カ日向ノ賊巢ニ赴キ高知縣ニ歸リシ時池田應助、岩崎長明、山田平左衞門ト申合セ好靜、政克ト豫テ借受ケアリシ山内家ノ所有ナル開成館ニ密會シ右兩人ノ賊將桐野利秋ト面會シ暴擧ノ事ヲ申合セシ事ヲ承知シ故ラニ之ヲ隱蔽シタリ然ルヲ重喜ニ於テ右逆謀ノ事ヲ承知セシ事ナシト供述スト雖モ藤好靜、村松政克並ニ開成館ニ同席シタル岩崎長明池田應助カ申立アルニ依リ逆謀ヲ承知セシ者ナリト認定ス右科ニ依リ除族ノ上禁獄一年申付候事

大分縣豐前國下毛郡中津町室蓮坊先住
當時大阪府南堀江上通一丁目十三番地寄留
大分縣平民　村上策一

其方儀明治十年鹿兒島賊徒暴擧ノ時ニ際シ川村矯一郎ノ敎唆ニ從ヒ石松勝一ト謀リ重臣ヲ暗殺セント企テシ科ニ依リ禁獄七年ニ處スヘキ處輕減スヘキ事情アルヲ以テ禁獄一年申付候事

高知縣士佐國幡多郡廣瀨村四十五番地
士族義和長男　三浦義處



高知縣士佐國士佐郡鐵炮町二丁目二十九番地
高知縣士族　野崎正明

其方儀明治十年鹿兒島賊徒暴擧ノ時ニ際シ藤好靜、村松政克カ日向ノ賊巢ニ赴キ高知縣ニ歸リシ時好靜、政克カ賊將桐野利秋ニ面會セシ事ヲ承知シナカラ之ヲ隱蔽セシ科ニ依リ除族ノ上禁獄一年申付候事

大分縣豐前國下毛郡中洲金谷村居住
大分縣士族　石松勝一

其方儀明治十年鹿兒島暴擧ノ時ニ際シ川村矯一郎ノ敎唆ニ從ヒ村上一策ト謀リ重臣ヲ暗殺セント企テシ科ニヨリ除族ノ上禁獄七年ニ處スヘキ處輕減スヘキ事情アルヲ以テ除族ノ上禁獄一年申付候事

高知縣士佐國中村三十一番地居住
高知縣士族　佐田家親

其方儀鹿兒島暴徒ノ間諜ナル三浦介雄カ高知縣下ニ來リシ時其間諜ナルヲ知リナカラ其筋ヘ訴出サルノミナラス池田應助ヨリ藤好靜カ賊地ニ行ク事ヲ告ケ曾テ介雄ヨリ開置シ處ノ道筋並ニ介雄カ知人等ヲ筆記シアルノ寫ヲ需メシニヨリ之ヲ寫シ應助ニ與ヘ遂ニ好靜ヲシテ賊巢ニ達スルヲ得ルニ至ラシメシ科ニ依リ除族ノ上禁獄一年申付候事

其方儀鹿兒島縣禁獄人堀内誠之進カ脫走シテ高知縣沖ノ島ニ至リシ事ニ付佐土原賊徒ヨリ三浦則優ヘ宛テ書翰ヲ贈リシ時其返書ヲ認メ遣シ加之鹿兒島賊徒ノ間諜ナル三浦介雄ニ面會シタル節介雄ヨリ高知ニテ兵ヲ組立ルニ付加入スルヤ否ヤノ談判ヲ聞キ之レニ同意セスト雖モ戶長役場世話掛リヲモ勤ナカラ都テ其筋ヘ屆出サヽルニ付右科ニ依リ除族ノ上禁獄六ケ月申付候事

高知縣士佐國幡多郡沖ノ島四番地
高知縣士族　三浦則優

其方儀鹿兒島縣ニ於テ禁獄セラレ居シ堀内誠之進カ脫走シテ高知縣下沖ノ島ニ來リシ事ニ付佐土原賊徒ト書面ノ往復ヲナシ且誠之進カ沖ノ島ニ來リシ時其所持ノ刀劍等ヲ預リ置ナカラ都テ其筋ヘ訴出サル科ニ依リ除族ノ上禁獄一年ニ處スヘキ處輕減スヘキ事情アルヲ以テ除族ノ上禁獄百日申付候事

高知縣士佐國士佐郡山田町三十五番地
高知縣士族　水野虎次郎

其方儀村松政克カ逆意ヲ謀リ兵ヲ擧ントノ企テニ同意セシ旨政克ヨリ申立且ツ川村矯一郎カ重臣暗殺ノ企ヲナシ居ルコトヲ其方ヘ告タル旨有造申立タルニ付糾問ヲ遂ル處申立

明瞭ナルニ付無罪

高知縣土佐國土佐郡山田町三十六番地
池添祥資方同居
平民　池添祥陽

其方儀村松政克カ逆意ヲ挾ミ兵ヲ擧ントノ企テニ同意セシ旨政克申立タルニ付糾問ヲ遂ル處申立テ明瞭ナルニ付無罪

明治十一年八月二日　大審院
（同年九月三十日『官令全報』第二十六號）

## ●伊藤博文を暗殺せんとせし者

十一月四日東京裁判所落着

高知縣土佐國土佐郡水道町
士族　山本寅吉
二十一年十ヶ月

其方儀兇賊島田一郎等ノ大久保參議ヲ謀殺セシ志ヲ繼キ當路ノ重臣ヲ殺サン事ヲ企謀シ兇器買入レノ代金ニ差支ル迚牛島實行ノ時計盜取ル而已ナラス伊藤參議ヲ殺サント該邸内ニ忍入或ハ路傍ニ於テ其通行ヲ狙フ科ニ依リ除族ノ上禁獄七年申付ル

（十一年十一月五日『郵便報知新聞』第千七百三十三號）

## ●毒婦高橋お傳の罪狀

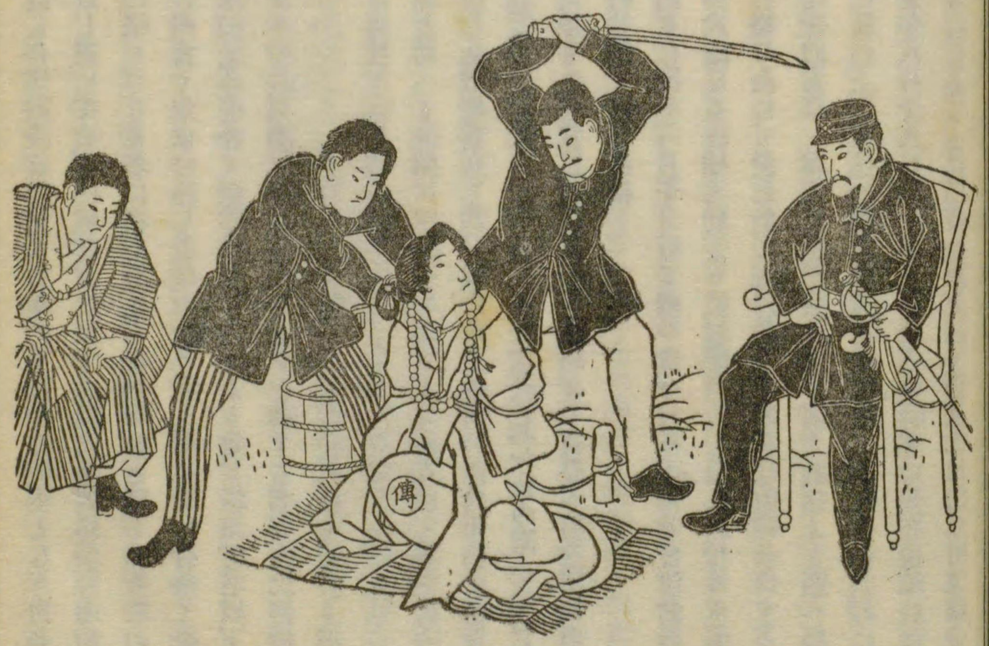
稀代の大毒婦として小説に綴られ演劇に仕組まれた高橋お傳の惡事は、左の一罪狀に過ぎない

明治十二年一月三十一日東京裁判所落着

群馬縣下上野國利根郡下坂村四十四番地
平民九右衞門養女　高橋でん

其方儀後藤吉藏ノ死ハ自死ニシテ己レノ所爲ニ非サル旨申立ルト雖モ第一右吉藏ヲ殺害セシ云々書置及ヒ當初警視分署並ニ明治十年八月十日糺問判事ニ於テノ供狀第二醫員ノ診斷書第三今宮秀太郎ノ申供第四旅店大谷三四郎ノ申供第五宍倉佐七郎ノ申述諸衆證ニ據レバ自殺ニアラサル事明白ナリトシ而シテ廣瀨某ノ落胤或ハ異母ノ姉ノ復讐ナリト云ヒ又ハ姉在世ノ景況及ヒ須藤藤次郎等ヲ證據人ト云フモ果シテ姉ノ生所等一モ認ム可キ徵憑ナシ是レ畢竟名ヲ復讐ニ托シ自ラ賊名ヲ匿サン爲メニ出ル遁辭ナルモノトス此ニ因テ之ヲ見レハ徒ラニ艶情ヲ以テ吉藏ヲ欺キ賊ヲ圖ルモ遂ル能ハサルヨリ豫メ殺意ヲ起シ刺刀ヲ以テ殺害シ財ヲ得ルモノト認定ス因テ右科人命律謀殺第五項ニ照シ斬罪申付ル

（同年二月一日『郵便報知新聞』第千八百一號）




（高橋お傳夜叉物語）

## ●毆打致死の自首者

一月七日東京裁判所落着

東京淺草區新吉原江戸町一丁目十番地
平民　三浦喜太郎

其方共用ノ物干杭ヲ岡村竹次郎自儘ニ取除クトテ互ニ口論ノ末拳ヲ以テ同人ヲ毆打シ終ニ死ニ至ラシムル段自首スト雖モ首免ヲ與フル限リニ非サルヲ以テ右科改定律例第百七十五條ニ依リ懲役終身申付ル

（明治十二年一月八日『郵便報知新聞』第千七百八十一號）

これより前十一年十二月二十四日發行の『有喜世新聞』に左の如く本件の起りを記してある

「新吉原江戸町一丁目十番地引手茶屋岡村竹次郎（四十一年）は一昨日午後二時頃裏の井戸流しで襟卷を洗ひ干さんと仕たが物干杭の建所が日蔭だとて杭を抜て建替やうとする所へ隣の人力車夫三浦喜太郎が來て邪魔だとか水が汲め無いとか言つたのが始りにて大取合と成り喜太郎が突然杭を抜て竹次郎を打擲したが仲人が來て引分け竹次郎を家へ連れて行くと間も無く死んだのでサア大變喜太郎は其儘自首し」云々

## 高橋お傳の口供書

お傳は市ヶ谷の檻獄署に於て處刑の折り暫くと太刀取りを止め

亡き夫のために待得し時なれば　手向に咲きし花とこそ知れ

と一首の辭世を口占み首領を伸したればヤット聲掛け切り下ろす刄の下に何に思ひけん申し上げ度ことありとて首を左右に振りしかば初太刀を仕損じ腮に切り掛け二度振り上る折り南無阿彌陀佛と唱へしゆゑか又も仕損じたれば據なく咽より搔き切りしとぞ今でんが法廷にて申し立たる口供の寫を得たれば左に掲ぐ

自分儀十年前明治二年十二月同村高橋佐助次男波之助を聟養子に致候處四年二月中より同人儀不圖癲病相發し自然親子の間も睦しからず依ては治療の爲め出京致し度旨申に同し兩親へ窃に匿し四年十二月中兩人連立家出致し明治五年一月中出京馬喰町二丁目旅人宿武藏屋治兵衞方に止宿療養自分日々琴平町金刀比羅神社へ參詣致し候折柄何れの婦人に候哉同樣參詣致し候者有之互に懇意に相成彼是咄合候處豈圖らん右は自分異腹の姉かねなる者にして一體自分實母はるは舊沼田藩家老廣瀨半右衞門方へ出入致し候内同人と通し合懷姙後當養父九右衞門弟勘左衞門妻となり自分出生致し正に半右衞門種に有之又半右衞門儀舊忍藩青木新左衞門娘しづなる者に馴染出生し青木かねと稱し即ち右のかねに相當り東京に殘し置候趣兼て承り居候者に付全く金刀比羅神社の引合と歡心仕其節かねより兼て横濱野毛坂下町に住居候處同港には外國人へボンと稱する名醫有之何樣難症の病氣にても全快不致儀は無之候間波之助を連參り療養受け候樣申聞候に付何れ同人へ申聞可罷越旨相答立別れ其段波之助へも咄聞け明治五年四月上旬兩人にて右かね方へ尋越し止宿療養致し罷在候内東京住所の由内山仙之助なる者（則後藤吉藏）同家へ參り姉世話致し（かねの園ひ主の如し）自分も追々懇意に相成右仙之助より自分へ再三不義申掛候得共强て斷り置候

然るに同年八月十日頃と覺ゆ當今行衛不知元會津藩の由加藤武雄なる者仙之助より被賴候由にて壜に入たる水藥持參名藥の由にて波之助に服用致させ候得は暫時全快する旨申聞候間實事と存速に相用候處忽ち同人胸部より顏へ掛け大に腫れ上り紫色に相成苦痛甚敷夫是手當致候得共終に明治五年八月十八日死去致し候間其節隣家に罷在候須藤藤次郎（其頃年三十三位）の世話を以て横濱太田清水町東福寺に埋葬法名良善信士と稱し候自分も夫より氣疲れにて發病捗々敷快氣にも不至併し長々姉の厄介に相成候も氣の毒に存罷在候折柄曾て國元にて見知居上野國富岡町絹商人小澤伊兵衞に出會候處東京に於て療養致候樣申勸めに從ひ五年十月三十日出京神田仲町二丁目秋元幸吉方へ伊兵衞俱々止宿自分は夫婦と唱へ同人世話を受け療養罷在候内明治六年二月中右伊兵衞儀一旦歸國致し自分一人罷在候處前書仙之助尋參り世話致し可遣旨申聞候得共姉かねも世話に相成自分は伊兵衞世話を受け罷在候事故相斷其後病氣も全快に至り近邊へ入湯に罷越途中同町往還にて前書加藤武雄に出會候に付幸ひの事と存し前顯夫へ服用させし藥の原因相尋候處答も不致駈出し候に付果して子細可有之と追駈け遂に駿河臺元昌平橋土手際に於て同人の羽織を掴み候處直に帶し居る刀を拔き自分右脇へ切付け（今に痕跡あり）其儘逃去候に付詮方なく幸吉方へ歸宅同人へも申聞候得共疵所は聊の儀に付膏藥相整相用別段醫師へは相掛り不申平癒致し候其頃月日失念横濱表前須藤藤次郎より書狀到來披見候處姉かねを内山なる者刺殺たる旨云々申來候に付驚入直に樣子承り度且小澤伊兵衞も歸國の儘音信無之是又尋度候得共宿主幸吉より他行差止られ心底に不任因て窃かに書面を殘し置き幸吉へは無斷に立出横濱表へ立越候處果して姉宅は取片付有之に付則隣家藤次郎に至り相尋候處前書々狀の如く白地には不申聞候得共四月頃何れへか相越し家財等は年齡三十七八位の男參り取片付候旨相答候間是仙之助に相當必定同人の所爲と存し前文夫相果候節の景況と申遺憾ながら立歸り夫より伊兵衞國許へ尋參り歸路波之助實父佐助方へ立寄波之助病死の趣を相噺自分養家へは立寄らす直に出京兼て懇意の麴町十二丁目住居小川市太郎方に止宿罷在り候處故郷慕敷存し明治七年六七月頃歸國養家へ立戻り候處自分夫妻逃亡御屆相成居候由にて自訴致候處前文の如く御處分受候上猶又商法の爲め出京麴町八丁目瀧口專之助方に寄宿前書市太郎と夫婦同樣に相成同人儀上野國大麻生村鈴木濱次郎と商業に從事罷在明治九年八月中旬頃大傳馬町一丁目山崎龍之助方に止宿中金策の儀安房國館山出生の由石井甚三郎なる者に相賴置候處同人俄に歸國致すに付ては甚三郎知人槇町後藤吉藏へ相賴み遣し候由にて添書相渡し呉候に付則明治九年八月二十三日自分一人にて同人方へ尋參り候處圖らすも兼て相尋候處の内山仙之助に付右手紙の趣旨は搦き先つ互に久々にての面會の挨拶及候折柄該店戸棚の内に曾て亡父半右衞門より姉かねへ遣したる短刀の小柄有之を見

認め候より旁々先年の嘶を起し加藤武雄の居所且姉かねの行衛並同人所持の諸道具等如何相成候哉と相尋ね候處心得不申旨返答に付此の小柄有之上は必らす承知可有之と强て相尋候處先きにかねへ三圓の貸金有之夫れか爲め諸道具不殘請取候得共夫れには子細も有之短刀は淺草邊の者へ賣渡候趣にて此處にては話兼殊に最早日沒にも相成候間明二十四日吳服町稻田屋事稻垣九右衞門方に於て詳細可相話間同人方へ出向吳候樣申聞候に付然らは短刀は早々買戻し吳れ候樣申聞其儘相分れ岩崎龍之助方へ立歸り候翌明治九年八月二十四日午前十一時頃前書稻垣九右衞門方へ罷越し暫時待居候得共吉藏參り不申候間九右衞門方より呼寄せ貰候處漸く午后一時頃吉藏參り當日は差支有之に付明日に致し吳れとの事ゆゑ其儘立歸り該日は兼て懇意の新富町一丁目行川やす方に止宿し猶翌明治九年八月二十五日午後二時過前約の如く九右衞門方へ罷越候處是又吉藏參り不申候間九右衞門方より迎ひを賴み吉藏を呼寄候へとも同日も先方差支候由にて猶明日に致し吳候樣同日は同人方より案内可致趣故然らは行川やす方へ報知致し吳候樣申聞立別候事

明治九年八月二十六日后四時頃近邊へ用向有之立出候處へ右吉藏尋參り立歸り候上は前書稻垣九右衞門方へ出向吳候樣申置候趣歸宿の上やすより承り候に付直に出立候途中南八丁堀邊名前不存蕎麥渡世の者方に吉藏待居呼込候に付立寄候處兼て尋候品は淺草邊に有之候間同人方まで同道致し候樣且加藤武雄の居所も相分り可申趣に付同車にて淺草藏前迄罷越候名前不存水茶屋にて暫時相待居候樣申し吉藏は立出無間も立戻り先方へ同道可致の處少々差合有之此處に待居も不都合に付先方知人の由にて淺草藏前片町大谷三四郎方に候哉其節は名前不存丸竹と稱する旅人宿へ立入最早黃昏に至り不審に存候得共吉藏は直に二階へ上り候間自分も續て上り候處暫くして同家雇女より酒肴差出すへくやと問合候得共自分に於ては心得不申旨相答へ便所へ參り立戻候處酒肴差出有之吉藏より度々勸められ候得共氣分惡しき故一切相用不申然るに梨子を差出し候に付少々喫し吉藏は獨酌にて飲終り夕飯差出すに付是又相斷候得共吉藏より度々勸め候に付一椀を食し夫より一時間程も相立候得共先方より何の音信も無之に付吉藏へ斷り近傍まで納凉の爲め外出し十二時頃と覺立戻り候處吉藏は其場に寢臥居候に付先方は如何の譯に候哉餘程時間も遲しと相尋候處先方へ同人參りたる處必らす參る筈に付今暫く相待居候樣申に任せ相待居候處不計氣分惡しく吐瀉を催し候間便所へ參りたる所



增々劇しく二階へ立戻りたるに蚊帳を釣り中に床も二ヶ所敷双へ有之吉藏より自分へ如何せし哉と相尋候に付右の趣相答候處同人も氣の毒のよしにて蚊帳の中へ入り候樣屢々申聞殊に蚊も多く候間旁々蚊帳の中へ這入暫時氣を休め居る内已に明治九年八月二十七日午前一時にも相成候間誑かしたるやも難計存遲くも自分歸宅不致候ては不相成旨申聞候處是非とも先方の者參り候筈今少々待居吳れ候樣申聞追々深更に至り無餘義歸宅は相止め右蚊帳内に打臥候處吉藏義彼是艶言申掛け戯れ候得共大醉の體ゆゑ程能く斷り置く内吉藏は睡眠し彼是致す内朝飯も喫し不申追々時刻も移り午前十一時頃に相成候ても吉藏目覺不申候に付自分而已晝飯を喫し勘考するに是迄氣永に堪忍致すも際限無之如何にも同人に誑されたるは遺憾と存し强て呼起し是迄數度詐言而已申聞居今日は有體に申し明すへくか先方へ同道致し候哉其次第柄明瞭に申聞吳れ候樣相迫り候處同人儀更に取敢不申右樣の義は斷念し自分存意に從ひ候樣申しなから自分を抱き候得共心中には是迄の始末も不申明而已ならす同人所有品をも申紛し知何にも殘念に不堪彼是苦慮中吉藏は種々戯れ掛られ終に自分を組臥せ口へ手拭を當るや否九寸計りの短刀を拔放し自分へ打掛る勢ひに付驚愕し其手を打拂ひ候際同人の頸筋へ及先當り自分は其儘次の間へ逃退き候處同人儀最早是切と言ひなから自ら咽喉を切りたる故大に驚き同人側に立寄り候處其儘相果候に付如何せんと一時苦心及ひ候得共必らず驚く場合に非すと精心を靜め此上は前條姉の敵なる證據取揃へ且國許兩親へも一應面會致したる上其段可訴出と存し吉藏の持居る短刀をモギ取り血を拭ひ鞘に入れ並に兼て見覺への小柄も傍らに有之候に付右二タ品を懷中し吉藏死體へは夜具を掛け寢臥せる體にし同人は姉の敵に付打果し候趣一書を認め傍に差置該宿へは用事有之近邊へ立出候趣に申成し尤も連の者は相臥居候に付其儘に致し置吳候樣申聞午後三時頃と覺同所立出夫より行川やす方に止宿罷在候處九年八月二十九日被召捕自分心得にては前書短刀並小柄共右やす方二階に差置候儀と相覺候　了

## ●婦女の失火延燒罪

明治十三年一月二十三日東京裁判所落着

日本橋區箔屋町十六番地平民福地岩次郎妻　やま

其方儀火ヲ失シテ自己ノ宅舍ヲ燒燬スルノミナラス人ノ家屋及官廨ヲ延燒スル科失火條ニ依リ人ヲ燒死ニ致スヲ以テ一等ヲ加ヘ懲役八十日ノ處婦女ナルニ付收贖金二圓申付

## ●日報社探訪員の窃盗罪

先に本社の探訪見習中内務省にて不都合を働き即日退社申附けたる關根良弼は昨日東京裁判所にて左の通り申渡さる

東京淺草區馬道町七丁目二十二番地寄留
靜岡縣士族　關根良弼

其方儀日報社々用ニ因リ内務省ヘ出頭シ退出ノ際同會計局入口ニアリシ小田吉次所有ノ蝙蝠傘一柄ヲ竊取スト雖モ即時捕ニ就キ該品取還セラル、ヲ以テ竊盗條ニ依リ未得財ヲ以テ論シ除族ノ上懲役四十日申付ル

（明治十三年九月二十八日『東京日々新聞』第二六四一號）

## ●他人の妻を挑みし男

裁判申渡書

土佐國土佐郡潮江村平民
前田松太郎
二十二年四ヶ月

其方儀明治十三年九月十九日ノ夜途中ニ於テ同村平民岡本守次妻テルニ對シ强テ姦通ヲ相促セシ罪雜犯律不應爲條不應爲重ニ問ヒ懲役七十日ニ處ス可キノ所役場狹隘ナルニ付杖ニ換ヘ杖七十ノ刑ニ處ス

明治十三年十月十八日　高知裁判所

（同年十月二十三日『高知新聞』第二十三號）

懲役場狹隘なるに付獄中に收容せずタ、キバナシの刑に換へるとの言渡は法文にもない異例の奇裁判である

## ●愚人を眩惑せし科

裁判申渡書

土佐國高岡郡上ノ加江村寄留
平民　長山樹
三十一年

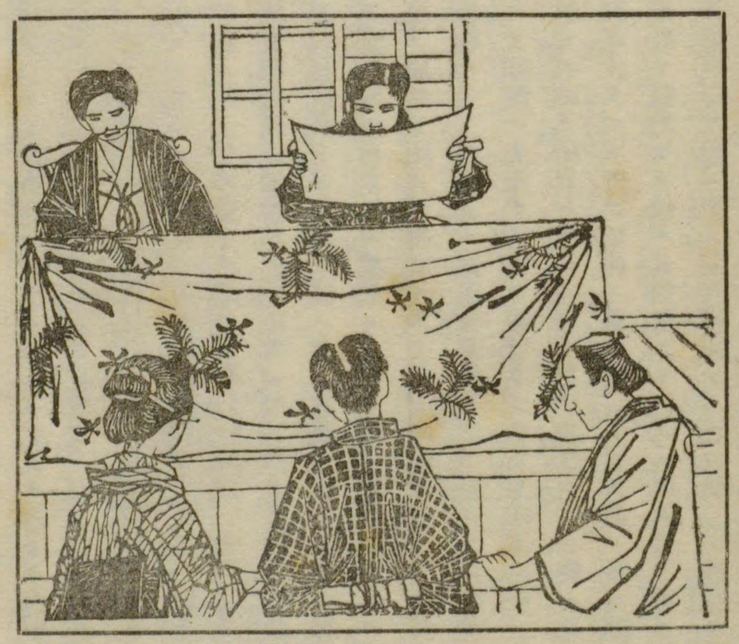
其方儀豫テ同郡久禮村東林寺住職僧戸田寛順ナル者ニ就キ佛道ニ從事罷在折柄明治十三年三月中卜筮ヲ以テ無根ノ說ヲ唱ヘ諸人ヲ眩惑セシメシノミナラス謂レナキ夷字等ノ影像ヲ印刷シ之レヲ守札トシテ配賦シ猥リニ米錢ヲ受タル罪明治七年二月十九日敎部省甲第貳號布達ニ違犯セルヲ以テ雜犯律違令條違令輕ニ問ヒ懲役三十日ニ處スヘキ處役場狹隘ナルニ付笞ニ換ヘ笞三十ノ刑ニ處ス

明治十三年十一月廿九日　高知裁判所

（同年十二月六日『高知新聞』第四十四號）



裁判圖會（二）



（有喜世新聞）

# ●父の仇を討ちし謀殺奇談

明治六年復讐禁止の令あるに其例を犯して、東京上等裁判所の判事を父の讐として殺した一件である

福岡縣筑前國夜須郡野島村四百七十八番地

士族臼井慕長男

臼井六郎

當廿二年十ケ月

一自分實父亘理ハ舊秋月藩用人勤仕ノ處今ヲ距ル十四ケ年前慶應四年(後明治ト改元)正月伏見戰爭ノ後舊藩主黑田長德朝命ヲ奉ジ西京ヘ兵ヲ出スニ付亡父亘理ハ其先鋒ヲ命ゼラレ明治元年二月上旬出發上京ノ處明治元年四月舊主長德上京亡父亘理ハ歸藩命ゼラレ明治元年五月廿三日歸藩致シタルニ付親戚故舊來集酒宴ヲ開キ夜闌ニシテ一同退散家內ノ者皆寢ニ就キタル處翌日即明治元年五月廿四日曉舊七ツ時比家內ニ涕泣ノ聲アリ騷々敷ニ目ヲ覺シ起出見レバ父母ハ殺害セラレ當時三歲ノ妹つゆハ傷ヲ負セラレタルトノ事ナルモ夢ノ如キコトニテ更ニ誠ト思ハレズ且父母ノ寢所ヘ入ルコトヲ禁ゼラレテ茫然タル折柄椽側ニ長キ髮ノ毛ト血ニ染タル骨ノアルヲ見付ケ果シテ父母ノ殺サレタルヲ知リ愁歎ニ堪ヘズ其骨ト毛トヲ取集メ紙ニ包ミ置私ニ父母ノ寢所ニ到リ見レバ其慘狀言語ニ盡シ難ク父母ハ何故ニ此ノ如キコトニナリシヤヲ親族ニ問フニ養父(當時叔父助太夫事)慕ガ曰ク爾ガ父ハ罪ナシ況ヤ母ヲヤ此殺害ヲ爲シタル者ハ干城隊長ナリ彼等窃ニ父母ノ寢所ヘ忍入大醉シテ熟眠セシヲ殺害セリト此一言幼年ナガラモ骨髓ニ徹シ切齒憤怨ニ堪ヘズ必ズ復讎スベキノ念慮ヲ發シ仇ノ氏名ヲ知リ度思ヘトモ知ルニ由ナク悲歎ニ月日ヲ送ル內明治元年九月頃舊藩立ノ學館ニ於テ干城隊士山本克己事一瀨直久ノ弟一瀨道之助ガ學友相田銕之丞伊藤豐三郎等ニ對シ臼井亘理ヲ斬殺セシハ我ガ兄直久ナリ其時家傳ノ名刀及齒ヲ缺キタリト誇言スルヲ聞タルニ付常ニハ學館ヨリ他ノ稽古場ヘ到ル事ナリシガ仇ノ氏名ヲ聞クヲ得タルヨリ直ニ歸宅シ具サニ養父ニ語リ復讐セント申立タル處養父慕堅ク之ヲ戒メラ曰復讐ハ往古ヨリ國家ノ大禁ナリ爾チ復讐ヲ爲サント欲セバ先ヅ文武ヲ學ビ其理ヲ研究シ然ル後之ヲ自ラ決定スヘシ輕々疎暴ノ擧動相成ラズト因テ切齒ニ堪ヘ難シト雖モ其ノ敎ニ隨ヒ文武兩道ヲ勉勵セリ或ル日投書アリ其文ニ曰ク父ヲ殺ス者ハ一瀨直久母ヲ殺ス者ハ萩谷靜夫ナリ且ツ世上ノ風說モ亦同一ナルヲ以テ復讐ノ念慮切迫シ再三養父及ビ親族ニ謀ルモ



皆之ヲ許サズ學問シテ心志ヲ堅ウシ然ル後自ラ之ヲ決定スベキ旨ヲ以テ敎諭セラル、ニ付專ラ儒學ニ志シ經書ヲ讀ムニ忠孝ノ事ヲ言ハザルナシ就中父ノ讎ハ俱ニ天ヲ戴カズト復讎ハ爲サヾル可ラザル事明ナリ又父誅ヲ受クルニアラザレバ子復讎シテ可ナリト因テ思フ一瀨直久等深夜窃ニ忍入眠人ヲ殺スノミナラズ婦女ヲ殺傷スル者正義ヲ唱ヘ奸ヲ斬ル者ノ所爲ニ非ズ若シ奸ヲ斬ル者ナレバ此ノ如キ無道ノ事ヲ爲スベキ筈ナシ是レ全ク己ガ奸ヲ逞セント欲シ死後罪アリト誣ユルモノナリ如何ニシテ聖賢ノ金言ヲ守リ父母ノ怨恨ヲ慰セント文武ヲ勵ミ私カニ心を苦シムル處廢藩置縣ト世移リ明治五年頃ト覺エ一瀨直久東京ヘ移住セシニ付大ニ望ヲ失シ空シク東天ヲ怨望スルノミナリシガ漸ク一策ヲ案シ東京ニ遊學セントノ名ヲ以テ養父ニ乞ヒタル處幸ヒ同藩士木付篤ト申者出京致シ道連レモ之アルコト故養父始メ親族ニ於テ許可致シ吳タルニ付明治九年八月廿三日亡父ガ平常帶セシ所ノ短刀一口ヲ携ヘ古鄕ヲ出立セリ

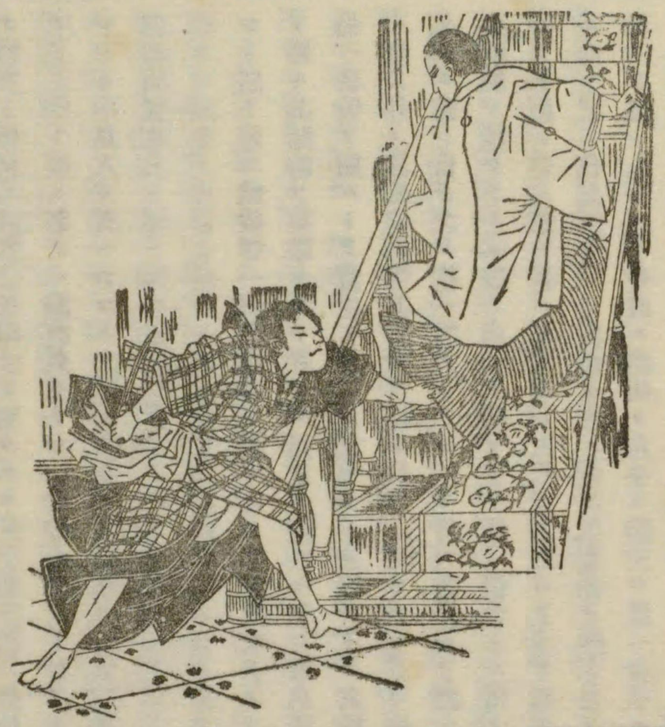
歲甫メテ十九(陰曆十月)東京ニ着スルノ日木付篤ト相別レ直ニ西久保明船町叔父上野月下ガ寓居ニ到リ寄食致居私カニ直久ノ所在ヲ探グルニ同人ハ名古屋裁判所ニ在職ストノ事ニテ其志ヲ果ス能ハズ且ツ赤貧ナルニ付山岡鐵太郎方ヘ賴ミ入寄食武道ヲ習ヒ居父母ノ禍害ヲ受ケシ原因ヲ詳カニセント存ジ養父及ビ叔父上野月下ニ固ク懇請セシ處明治十年十月中叔父月下ハ之ニ對フルニ書面ヲ以テス因茲初メテ亡父ノ禍ハ舊藩兵制改革ノ際亡父參政ノ列ニ在リ吉田主祝ト共ニ擔當ヲ命ゼラレタル處一藩西洋風ヲ惡ムノ甚シキヨリ衆論囂々タリ亡父主命ヲ奉シ職務ヲ以百方之ヲ說諭セリ其事總テ決ヲ執政ニ採リテ施行シ一事モ獨決ニ出ルナシト雖モ衆人ハ目シテ主祝亘理兩名ノ意ニ出ルト做セリ奸徒等其機ニ乘ジ西洋流ヲ採用スルハ全ク亘理ノ意ニ出是レ幕府ニ諂ヒ勤王ノ大義ヲ忘却スルモノト流言スルニ濫觴シ暗殺ニ罹ルノ後我ガ親族中ヘハ左ノ言渡アリ其文ニ曰亘理義己ノ才力ニ慢シ我意ヲ募リ他ノ存意ヲ防ギ衆人ノ憎ヲ受人望ニ相戾且此度於京都表御差下ノ義モ被仰付候ニ付テハ速ニ可罷下ノ處罪ヲ遁ンカ爲メ奸智ヲ廻ラシ國情ヲ他ニ洩奉懸御配慮候段身ヲ思フニ厚ク國ヲ思フニ薄キ譯ニ相當終ニ此節非命ノ死ヲ遂ケ候段自ラ招クノ禍ニテ無是非事ニ思召候依テ家名斷絕ヲモ可申付處舊家ニテ御用達モ致ス家筋ニ付格別寬大ノ思召ヲ以テ跡式無異議被仰付候七月(當時減祿ノ上叔父助太夫事慕ヘ跡式被仰付候事ハ曾テ承知仕居候)

右ノ如ク達セラレ彼等兇徒ハ却テ罪ナク呵ニテ相濟タリト

抑亡父ハ平素尊王ヲ志シ幕府ノ失體ヲ痛歎シ同志ト謀リ曾テ其筋ヘ建議セシコトモ有之タリト且亡父ガ職務上ニ罪科ナク平素ノ行狀ニ愧ル所ナキコトヲ了知シ以奸徒カ了然罰スベキ罪科ナキニヨリ暗殺ヲ爲シタルコト豫テノ想像ニ差ハザルヲ確信セリ且亦舊藩ニ於テ此事ヲ痛歎スル者少ナカラズ走テ宗藩福岡ニ訴フルモ採用セラレズ却テ其者共迄罪セラルヽニ至リシト寔ニ亡父ハ何等ノ不幸ナル當時ヲ想フ毎ニ悲憤滿胸片時モ措ク能ハズ倍ス復讎ノ志ヲ固ウセリ然ルニ叔父月下ハ深ク復讎ノ非擧タルヲ戒メ今日子弟ノ職トスル所ハ舊藩主ノ保證ヲ得テ以亡父ノ寃枉ヲ雪ギ彼等兇徒ニ相當ノ處刑アランコトヲ出願スルニ在リト再三再四懇諭シテ止マザルヲ以陽ニハ同意ヲ表スルモ叔父ノ言遠意ニ過ギ何分遵守致難ク復讎ヲ爲セバ其原因ヲ詳細御取調相成ルハ必然ノ事叔父ノ言ノ如クナセバ成否知ル可ラザル者ナリ夫レ兇徒ハ夜中人家ヘ忍入大醉熟眠ヲ伺ヒ父ヲ殺スノミナラズ妻タル道ヲ盡ス母マデ斬殺シ加フルニ嬰兒ヲ傷ス其不義殘酷極レリト謂フベシ然ルニ兇徒ハ却テ罰ナク亡父ハ死後罪アリト誣ヒラレシニアラズヤ子タル者之ヲ雪グニアラザレバ誰カ父母ノ怨魂ヲ慰セン不俱戴天ノ敎ヲ奉ズルノ外ナシト決心シ陰ニ直久ガ擧動ニ注意致シ居ル處直久靜岡裁判所ニ轉ジ甲府支廳ニ在リト聞キタルニ付直チニ立越サント欲スレトモ發途スル言辭ナシ偶擊劍ヲ學ブ爲メ少シク胸部ヲ痛メシニ付神奈川縣武州小河内村ノ溫泉ニ浴セント申立テ暇ヲ乞ヒ明治十一年四月ト覺エ私カニ甲府ニ到リ旅店ニ宿シ伺フモ直久ニ會セズ或ル日湯屋ニ於テ裁判所隊長ハ明日東京ヘ行クト聞タルニ付是レ直久ナルベシト推察シ先ヅ裁判所ノ門外ニイミ退出ヲ伺フニ直久ヲ見ズ因テ出京スルナラントハ存ジタレトモ明日出勤セザレバ果シテ出京ニ相違ナシト又候翌朝裁判所ノ門前ヲ徘徊シテ伺フニ出勤時刻ヲ過グレトモ出仕セザルニ付出立セシニ相違ナシト信ジ直チニ途ニ就キ行人ニ問ヘトモ手掛ヲ得ズ明治十一年五月十日終ニ東京迄尋ネ來リ探索スルニ全ク直久ガ出京スルト思ヒシハ誤リナリシヲ知リ殘念ニ堪ヘズ

明治十一年六月中又候甲府ニ至リ直久ヲ伺ヘドモ機會ヲ得ズ且旅費モ乏シク遺憾ナガラ立歸リ復讎ノ時未ダ到ラズト存ジ生計旁明治十一年十月中旬熊ケ谷裁判所ノ雇員ト爲リ明治十二年七月暑中休暇ニ付直久ガ出京スルコトモ可有之ト考ヘ雇ヲ辭シ出京シ之ヲ待ツ處終ニ出京セズ無念ニ月日ヲ送ル内明治十三年十一月中旬舊同藩士手塚祐ト談話ノ節直久ガ東京上等裁判所ニ轉ゼシコトヲ聞キ復讎ノ時到リシ





復讎を公許して褒美をも與へた舊幕時代には屢々行はれた事であるが、刑罰權は國家が行使すべきものとして復讎を禁止した明治の代に行はれた珍事であつたので、當時都鄙に喧傳され、小説的の單行本も二三種出來たが、此繪は十三年十二月の『有喜世新聞』に續載せし顚末記に挿入してあつたものである

ヲ悅ビ心構ヲ爲スニ付若シ討チ誤リ却テ討タルヽ事アラバ事情ヲ悉ス能ハザルノミナラズ如何惡名ヲ蒙ルモ知ルベカラズ之ヲ筆記シ携フルニ如カズト存ジ復讎スル理由ヲ記シ（該書ハ心事ヲ悉ス念慮ナリシガ倉卒ノ起草ニ付充分ナラザル所アリト存候）此書面ヲ肌ニシ直久ハ本芝三丁目ニ居住スト承リタルニ付同所ヨリ出勤スルナラント推察シ朝夕出勤退出ノ通路ト思フ所ヲ徘徊スレドモ一度モ直久ヲ見ズ因テ他ニ居住シ他ノ道ヨリ通行スルナラン何レニシテモ東京上等裁判所門前ナレバ出會セザルコト之レアルマシト亦朝夕上等裁判所門外ニイミ要擊セントヨトシテ同所ニ到ラザルコトナキモ尙直久ヲ見ズ

明治十三年十二月十三日銀座鍋町通行ノ際突然直久ヲ見掛ケタレドモ手ヲ下ダス間ナク直久ハ尾崎某ト表札ノ有ル家ニ立入タルニ付キ其歸途ヲ要シ尾崎某ノ宅前ヲ徘徊シ居タル内見失ヒシト見エ終ニ出會セズ夫レヨリ直久ノ東京ニ在ルヲ確カト認メタルユエ一層注意シテ上等裁判所門前ニ到タリ待テドモ亦面會セズ明治十三年十二月十七日午前出勤時間ニ上等裁判所門外ニイミ相待タレドモ十時ニ至ルモ出勤セザルニ付空敷新橋マデ立歸リ直久ハ舊藩主華族黑田長德方ヘ碁ヲ圍ミニ參ルト聞キシ事アリ黑田家ニ至ラバ何カ

手掛ヲ得ルコトモ之レアルベクト風ト思ヒ付キ直ニ引返シ京橋區三十間堀三丁目十番地黒田長德邸ニ到リ先ヅ家扶鵜沼不見人ヲ訪ヒタル處不見人ハ不在同人男某ハ病氣ノ由ニテ學友ト相見エ藤野房次郎參リ居タルニ付三名談話ノ折柄不見人歸リ間モ無ク一瀨直久來リシニ付能キ機會ト存ジタレドモ不見人ガ支ヘンコトヲ恐レ猶豫ノ處舊同藩士白石眞忠原田雅忠入リ來リ倍々障礙相加リタルニ付若シ今日事ヲ誤ラバ積年ノ辛苦モ徒勞ニ屬シ亡父ノ怨魂何レノ日カ慰セント思ヲ焦ス處彼等一同舊藩主ヘ謁ヲ請ヒ度由ヲ談合スルヲ聞キ其歸路ヲ要擊セント私カニ用意ノ際恰モ好シ直久義他ヘ書翰ヲ贈ルトテ舊主ノ使丁ニ託セント立出ントス其時不見人始メ眞忠雅忠等其書翰ヲ持テ行ント云ヒタレドモ直久固ク辭シ自ラ之ヲ携ヘ階ヲ下リタルニ付天我微衷ヲ憐ミ此好機ヲ授ケリト其後ニ尾シテ階ヲ下リ豫メ懷中スル所ノ短刀ヲ出シ帶ニ差シ替ヘ身支度シ直久ガ入口ヨリ上リ來ルニ向ヒ父ノ仇覺悟セヨト聲掛ケタル處直久面色ヲ變ジ表ヲ指シテ逃ントスルニ付直ニ追掛ケ左手ニ襟元ヲ捉ヘ右手ニテ短刀ヲ拔キ咽喉ヲ目掛ケ之ヲ突キタル處襟卷ニ觸レ突キ損ジ手早ク取直シ胸部ヲ刺シタリ此時直久ナアーニコシヤクナト聲掛ケ組付來ルヲ父ノ仇思ヒ知レト再ビ胸部ヲ刺ス彼レ又亂暴人ト呼ビ自分ハ奸賊思ヒ知レト言ヒ力ヲ極メテ之レト鬪ヒ遂ニ組伏セ其レニ跨リ喉部ヲ突キタレドモ尙ホ充分ナラズト係念ナリシニ依リ又動脈及ビ氣胃兩管ヲ切斷シ刀ヲ納メ二階ヘ上リ不見人ヘ對シ家内ニテ如此事ヲ爲シタルノヲ謝セント思ヒタレドモ階子突立アリ上ル能ハザルニ付血ニ染ミタル羽織ヲ脫ギ棄テ短刀ヲ所持致シ該家ヲ立出シ處不見人屋上ニ在リテ六郎何ヲ爲セシヤト聲掛ケタルニ付父ノ仇ヲ討シト申答警視分署ニ行ク途中他人ノ自分ヲ見テ恐ル、形狀アルヲ見認メ餘人ヲ騷ガシテハ不相成ト存ジ車ヲ雇ヒ當時第二方面第一分署即チ幸橋外警察分署ヘ自首致候處管轄違ヒナリトテ第一方面第三分署即チ京橋警察署ヘ御送致ノ上御審問ニ付曾テ筆記シ携ル所ノ書面ヲ捧ゲ復讐ノ顚末ヲ首出仕候事

一當裁判所ニ於テ御裁判相成リ候ハ自分復讐ノ事ノミナラズ亡父ハ寃罪ナルヤ否ノ廉ハ檢事ノ求刑ニ係ラザルヲ以テ御裁判不相成隨テ母ヲ殺ス者ハ御裁判不相成旨承知仕候然ラバ此件ハ檢事ヘ上請可仕候事

一明治六年二月七日復讐ヲ禁ゼラル、ノ公布ハ何年頃承知シタルヤ御訊問ノ處該公布ハ毫モ存ゼズ自分ガ國典ヲ犯シ奉恐入ト申スハ養父ガ復讐ハ往古ヨリ禁制ナリト申聞ケタルニ付承知仕候得共前文切迫ノ至情ヨリ國典ヲ犯スニ至リタル段ハ深ク奉恐入候事

明治十四年七月七日　　臼井六郎

宣告

其方儀明治元年五月廿三日夜父母ノ寢所ヘ忍入父亘理及ビ母ヲモ殺害シ嬰孩ノ妹マデ傷ヲ負ハセ立去者アリ其場ニ至リ視ルニ其慘情見ルニ忍ビズ此暗殺ヲ爲シタル者ハ干城隊士數名ニシテ父母ニハ其罪ナシト聞キ幼年ナガラモ痛忿ニ堪ヘズ必ズ復讐セザルベカラズト思ヒ後チ父亘理ヲ殺害シタル者ハ右隊長一瀨直久ニシテ又右暗殺ヲ爲シタル者ニハ罪ナク却テ父亘理ハ死後寃枉ニ陷トシイレラレシト聞キ之レヲ事實ト認ムルヨリ益々痛忿激切父讐ヲ手及スルヨリ外ナシト決シ明治十三年十二月十七日鵜沼不見人宅ニ於テ一瀨直久ニ出遇ヒ父ノ仇覺悟セヨト聲掛ケ豫テ携フル短刀ヲ以テ鬪ヒ遂ニ殺害ニ及ビ直ニ警察署ニ詣リ自訴ス右科改定律例二百三十二條ニ依リ謀殺ヲ以テ論ジ士族ナルニ付改正閏刑律ニ照シ自首スルト雖モ首免ヲ與フルノ限アラザルニ依リ禁獄終身申付ル

明治十四年九月二十二日　　東京裁判所

（同月下旬東京二三新聞紙上連載）

明治三年制定の新律綱領に增訂を加へし改定律例は十四年十二月限りに廢止し、十五年一月よりは新制定の刑法治罪法を實施され、又裁判所の構成、法をも變革したので、言渡書の形式も亦從來の形式とは大いに異るものとなつた

## ●板垣退助謀殺未遂犯人

裁判言渡書

愛知縣尾張國愛知郡田代村士族
相原仙友長男　相原尙毅

被告相原尙毅ニ對スル謀殺未遂事件豫審ノ言渡ニ因リ檢事ノ公訴ヲ受理シ檢事奧宮正治被告人及ヒ辯護人寺島辨次郎出廷ノ上審理ヲ遂ル處被告人ハ近年世上民權自由ノ說ヲ唱ヒ暴慢過激ノ徒アリテ遂ニ王室ヲ蔑視スルニ至ラント明治十三年ノ比ヨリ深ク之ヲ憂慮シ居タルニ明治十四年十一月十二日ノ聖詔ニヨリ國是已ニ全ク定マリタルモ尙ホ自由急進ノ風潮日ニ甚シク夫ノ自由黨ノ如キ動モスレバ政府ニ激昂スルノ言論ニ涉リ自由ヲ濫用シテ王室ノ尊崇ヲ忘ル、カ

如キ情勢ニ傾向セントス夫レ如斯主義ヲシテ汎ク民心ニ感染セシメ遂ニハ社會ノ秩序ヲ紊亂シ我邦國固有ノ國體ヲ損壞シ不測ノ害禍ヲ釀生スルニ至ラント非常ノ感想ヲ起シ獨リ窃カニ之ヲ痛嘆スルノ餘其黨魁唱主ト目指スル板垣退助ヲ斃サハ黨衆自カラ潰散シ將來ノ禍害ヲ未萌ニ防クノ良策ナラント固執シ遂ニ同人ヲ刺殺スヘクト決意シ名古屋尾頭町山田伊藏方ニ於テ買得タル短刀ヲ懷ニシ故ラニ明治十五年四月六日岐阜縣美濃國厚見郡富茂登村神道中教院ニ開キタル自由黨懇親會ニ臨席シ無意ノ體ニテ板垣退助等ノ演說ヲ聞キ時機ヲ瞰ヒ居タルニ幸黄昏前退席スルニ際シ敬送ノ體ヲ示シ玄關ヲ降ルヤ否携フ所ノ短刀ヲ以テ退助ノ胸部其他數ケ所ニ創傷ヲ負ハセ尚ホ兇行ヲ遂ケントスル際内藤魯一後藤秀一等ノ阻碍救護スル所トナリ殺害ヲ果サヾリシ事ハ被告人任意ノ白狀其父母弟妹ニ與フル訣別ノ遺書現場ニテ取上ケタル短刀被害者ノ着セシ血痕ノアル「シャツ」胸當警部補山崎正ノ造リタル檢證調書醫員ノ診斷鑑定書檢證人陳述書等證憑明白ニシテ其所爲即チ謀殺未遂罪ナリ之ヲ法律ニ照スニ刑法第二百九十二條豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪トナシ死刑ニ處ス同第百十三條罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ依リ未タ遂ケサル時ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス同第百十三條重罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ストアルニ因リ死刑ヨリ一等ヲ減シ無期徒刑ニ處ス但犯罪ノ用ニ供シタル短刀ハ沒收ス

明治十五年六月二十八日岐阜重罪裁判所ニ於テ檢事奥宮正治立會ノ上言渡スモノ也

判事　高鹽又四郎
判事　藤崎成吉
判事　一宮榮忠
書記　小川秀清

## ●放尿の科料金五錢

裁判申渡書

高知縣土佐郡尾立村八番屋敷
平民　上田鹿三
六十年

其方ニ對シ檢察官トシテ當警察本署詰警部補町市郎左衛門ヨリ公訴スル公ノ場所ニ於テ放尿スル事件審理ヲ遂ル處其方ニ於テ明治十五年六月二十日午前第七時過ギ土佐郡石井村字中須賀ニ於テ路傍ェ放尿シタルコトハ自白スルノミナラズ原告官ノ陳述及巡査ノ告發書ニ依リ犯跡明確ナリトシ因之其方ガ所爲ハ本縣違警罪第五條第七項ノ罪ヲ犯シタル者ニツキ同條左ノ諸件ヲ犯シタルモノハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ストアルヲ以テ科料金五錢ニ處スルモノ也

明治十五年七月一日

高知警察本署（違警罪裁判所）
裁判官警部補　居石義門
書記　巡査　吉岡久壽

（同月二日『彌生新聞』第一號）

## ●紙幣偽造行使者

裁判言渡書

神奈川縣相摸國愛甲郡中津村十七番地
熊坂長庵
三十八年十ケ月

其方儀明治十年二月頃ヨリ内國通用二圓紙幣ヲ偽造セント發意シ繼テ之ヲ偽造シ爾來遊蕩ニ漫遊ニ其他處々行使シテ本年ニ至リタル事實ハ司法警察官ノ調書檢察官ノ調書豫審掛リノ調書高座郡田名村平民鈴木熊五郎カ始末書及ヒ其方ノ自宅ニ現在セシ偽造紙幣並ニ偽造ノ用ニ供シ又ハ其用ニ供スヘキモノト認メタル器具用紙等ノ充分ナル證憑ニ因リ認定セラレタリ依テ刑法第百八十二條初項ニ照シ無期徒刑ニ處ス

但シ犯罪ノ用ニ供シタル器具ハ刑法第四十三條ニ據リ二圓偽造紙幣八百十五枚ハ同第四十三條第四十四條ニ據リ沒收シ洋紙其他十六品ハ還付ス尚ホ豫テ差押置キタル家屋地券物品等ハ悉ク解放ス公訴裁判費用ハ渾テ負擔ス可シ

明治十五年十二月八日神奈川重罪裁判所ニ於テ

裁判長判事　西潟訥
陪席判事　別役元昌
同判事補　松浦久彦
書記　高地安三郎
干預檢事補　清水純孝

（同月九日『東京横濱毎日新聞』第三千五百九十二號）

宣告（不服上告に對する判決）

神奈川縣相摸國愛甲郡中津村十七番地
平民畫工　熊坂長庵
明治十五年十二月
三十八年十ケ月

内國通用ノ紙幣ヲ偽造行使シタル被告事件ニ付明治十五年

十二月八日神奈川重罪裁判所カ刑法第百八十二條初項ニ依リ無期徒刑ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ紙幣僞造ノ嫌疑ヲ受ケ就縛ノ際押收セラレタル二圓紙幣ハ明治十一年二月十六日東京四谷荒木横町石田幸平ナル者貳圓紙幣ヲ携ヘ來リ下總國小野昱ノ進メニ因リ所持ノ古金五百兩ヲ以テ賣買シ其紙幣ヲ以テ遊蕩ニ費消セシモノニテ所々漫遊シ自家ニ在ルノ日太少ナク且銅版鏤刻ヲ學ヒタル僅ニ二十日間ニテ印刷ノ術色肉製法等他ニ學ヒタルコトアルニアラサレハ紙幣僞造スヘキ暇ナキノミナラス學ヒ得スシテ爲シ得ヘキ事ニアラサルニ原裁判所ハ精神錯亂中爲シタル妄説ヲ信シ紙幣僞造者ナリトシ無期徒刑ヲ言渡サレタルハ不法ナリト思考ス因テ破毀ヲ願フト云フニアリ

對手人檢事渥美友成ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辯駁シ原裁判毫モ不法ニアラスト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事鳥居斷三ノ報告ニ依リ上告代言人森大次郎ノ陳述臨席檢事池上三郎ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由スル處明治十一年以來ハ所々漫遊シ自家ニアルノ日太少ク且僅ニ銅版鏤刻ハ二十日間學ヒタルノミナレハ其暇ナキノミナラス學ヒ得スシテ爲シ能ハサルコトナリト云フニアリト雖トモ原裁判所カ各個ノ證憑ニ依リ認メタル事實ニ對シ徒ニ其當否ヲ論難スルニ過キサレハ上告シテ破毀ヲ求ムルノ原因ト爲スヲ得ス何ントナレバ治罪法第百四十六條ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ事實裁判所ニ任從セシモノナレハナリ其他司法警察官及ヒ豫審判官ニ對シ爲シタル供述ハ精神錯亂中ノ妄説ナリト云フモ果シテ其妄説ニ係ルヤ否ヤ是亦前ニ辨明スル如ク原裁判所カ證憑ニ依リ認ムル處ニ任從スル部内ナレハ破毀ヲ求ムル原因ト爲スニ足ラス因テ上告ノ趣意總テ相立タス右ノ如ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

大審院ニ於テ檢事池上三郎立會宣告ス

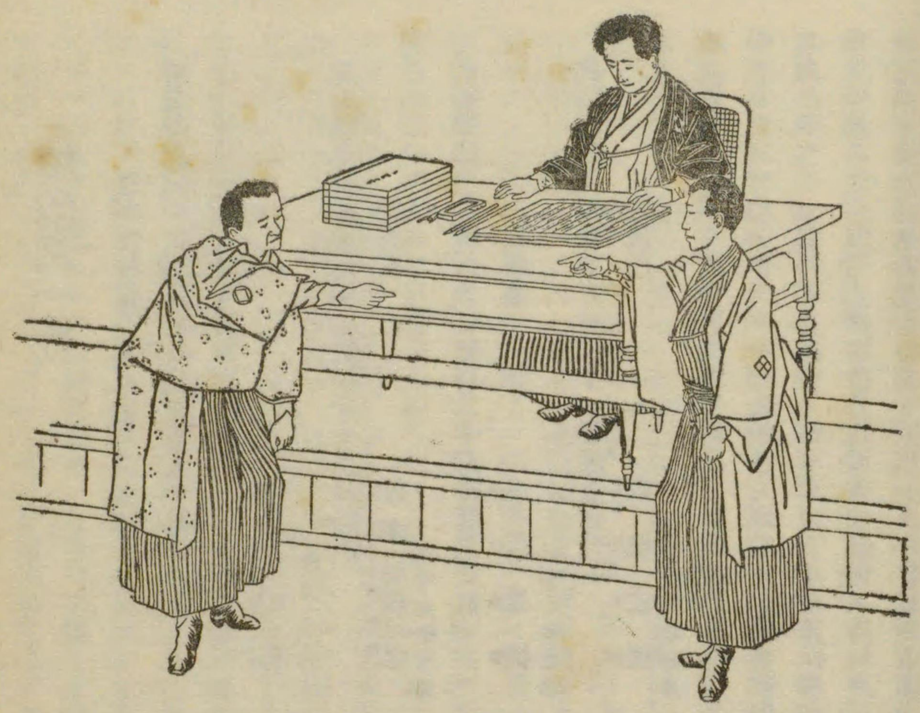
明治十六年十月二十四日

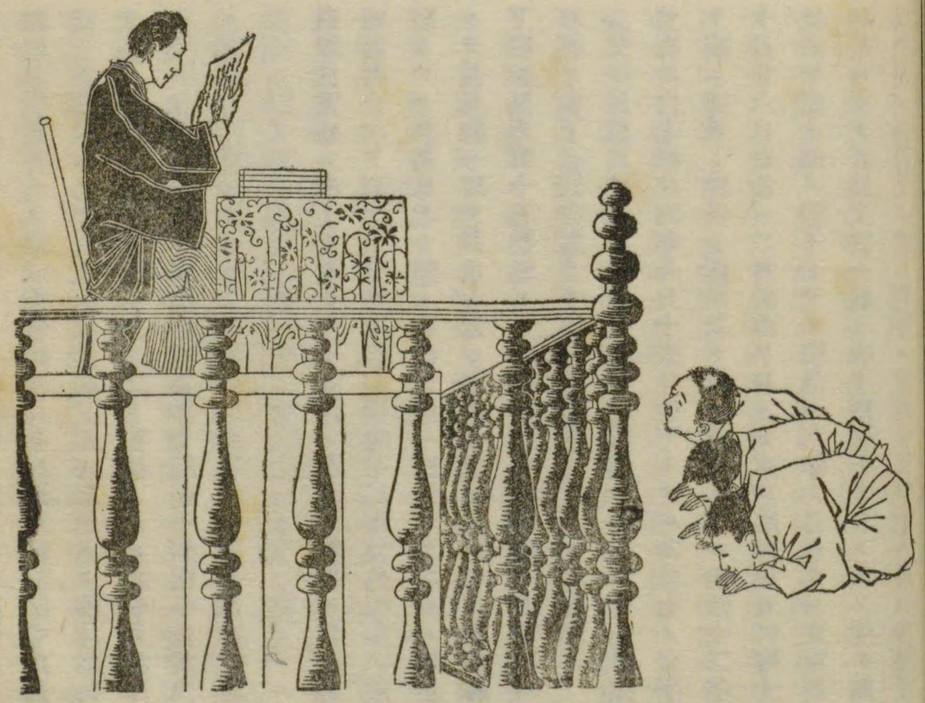
裁判長判事　伴正臣
專任判事　鳥居斷三
判事　高木勤
判事　薄井龍之
判事　小村壽太郎
書記　香田能與

（大審院刑事判決錄）









（冠松眞士夜暴動）

# ●明治天一坊

裁判言渡書

東京府武藏國北豐島郡金杉村百九十六番地
士族館眞尾方同居士族雜業慶承事
松平良七　滿三十六年

愛知縣尾張國愛知郡平針村三十八番屋敷
平民農　村瀨美根三郎　三十九年三月

同縣同國名古屋區矢場町百二十八番屋敷借住
平民雜業　寺川長德　三十一年二月

同縣同國愛知郡平針村二十一番屋敷借住
平民僧　渡邊玄樵　三十九年四月

右之者共ニ對スル被告事件豫審終決ノ言渡ニ依リ公訴ヲ受理シ求刑官吏ノ作リタル被告並證人參考人ノ調書被告之內松平良七ガ前科ノ言渡書ノ謄本東京石川島監獄署並東京府知事芳川顯正ノ回答書及附屬書類被告ノ內村瀨美根三郎ガ愛知縣名古屋警察署ヘ差出シタル自首書並同署詰警部補神田道堅ガ作リタル陳述書公廷ニ於テ命シタル鑑定人ノ鑑定書ヲ朗讀セシメ檢察官ノ意見民事原告人ノ證明事實參考人ノ陳述彼告松平良七村瀨美根三郎寺川長德ノ答辯及ヒ松平良七村瀨美根三郎ガ辯護人ノ陳述辯論ヲ聽キ證據物件ヲ檢閱シ以テ之ヲ審按スルニ被告人松平良七ハ元新潟縣越後國蒲原郡紫雲寺組金子新田平民甚內長男良七事鹿島甚太郎ト稱シ明治八年十一月八日東京裁判所ニ於テ詐欺取財ノ科ニ依リ懲役十年ノ刑ニ處セラレ役限內重病ニ罹リ明治九年十月四日收贖ノ處分ヲ受ケ當時無籍ナルヲ以テ東京府下谷花園町平民小田竹次郎ノ附籍トナリ鹿島良七ト稱シ其後各所ヘ轉籍シ且其身ハ隱居シテ長男淸一郎ヲ戶主ト爲シ明治十二年九月十日東京府下谷西黑門町十五番地ヨリ同府淺草小島町四十四番地ヘ移轉ノ節下谷區役所ヨリ淺草區役所ヘ宛タル送籍證ニ（父平民鹿島良七長男鹿島淸一郎明治十年十月十七日生父鹿島良七弘化四年八月十五日生）トアル其良七ノ文字ヲ擅ニ義承ト變造シ爾來自ラ鹿島義承ト稱シ明治十二年十月廿六日妻並ニ二男義澄ヲ召連レ東京府神田五軒町士族松平乾次郎ノ養子トナリ明治十三年六月廿九日東京裁判所ニ於テ詐爲文書ノ科ニ依リ禁獄七十日ノ刑ヲ受ケ滿期放免ノ後養父ト別戶別籍シ明治十三年十一月一日同府



下谷御徒町三丁目八十二番地ヘ移轉之節明治十二年七月九日出生ノ二男松平義澄ヲ父松平義澄文化五年七月九日生ト僞造シタル入籍願書ヲ下谷區役所ヘ差出シ同人ヲ父ノ如ク戶籍ニ編入シ明治十四年一月二十四日當時ノ住所ニ同居シタル後明治十四年五月十七日被告ノ內村瀨美根三郎外一名ト謀リ愛知縣尾張國名古屋區玉屋町宿屋業村瀨彥十郎方ニ投宿シ良七ハ松平慶承ト僞名シ村瀨美根三郎ハ執事或ハ家令ト詐稱シ同人等ヲシテ慶承ハ華族ナレハ大切ニ取扱フヘク又ハ慶承ハ名古屋舊藩主德川慶勝ノ親族ナレ共內密ニテ遊步シ來リシ抔村瀨彥十郎ニ申聞止宿人名帳ニハ（東京府北豐島郡金杉村百九十六番地松平慶承執事渡邊善四郎同村瀨美根三郎）ト記載セシメ故ラニ身分職業ヲ登記セス日數凡十七八日間滯在シ村瀨彥十郎ヲシテ御前ト稱シテ尊敬セシメ又ハ茶ノ湯師ヲ招聘シテ茶事ヲ學ヒ或ハ歌ヲ詠シ詩ヲ賦シ專ラ有福ナル華族ノ容躰ヲ粧ヒ出立ノ節和歌一首ノ末ニ（前大將軍德川親族松平慶承書之）ト記載シタル扇子ヲ村瀨彥十郎ニ與ヘ置又ハ歸京ノ上松平家執事渡邊善四郎村瀨美根三郎ト連署シタル禮狀ヲ郵送セシメ其後尙被告ノ內寺川長德ト共謀シ明治十四年十二月三十一日松平良七村瀨美根三郎ノ兩名再ヒ村瀨彥十郎方ニ投宿シ土產トシテ三ツ葵ノ金紋アル菓子器等ヲ與ヘ松平良七ニ於テ己ハ德川慶喜ノ弟ニシテ當時龜之助ノ後見致居ナリト稱シ又ハ村瀨美根三郎ヨリ慶承ハ忍ノ旅行ナレハ德川家ニ知レサル樣取扱フ可キ旨申聞美根三郎ハ名古屋區七間町田原ト稱スル旅店ニ止宿シ日々村瀨彥十郎方ニ通勤シ又滯在中松平良七ヨリ桐國入三ツ葵ノ金紋アル薄茶茶碗ヲ村瀨彥十郎ニ與ヘ其國ニ（德川氏親族松平慶承ヨリ村瀨彥十郎ニ自ラ遣シケル）ト筆記シ前回ノ如ク良七ハ華族ニシテ美根三郎等ハ家令或ハ家扶ノ躰ヲ粧ヒ又被告人渡邊玄樵ハ松平良七等カ村瀨彥十郎ヲ欺罔スル情ヲ知テ明治十五年一月二日村瀨彥十郎方ニ至リ同人ニ對シ東京金杉村松平慶承ノ邸ニテ家從ヲ勤メ茶ノ給仕等ヲ爲シ居タリト詐リ朝夕松平良七ニ奉從シ又松平良七ハ明治十五年一月四日頃淸水嘉內ナル者村瀨彥十郎方ニ來リ面會シタル節良七於テ村瀨彥十郎ノ問ニ對シテ淸水嘉內ハ親族水野勝知ノ家來ナル旨申聞（東京府華族從五位水野勝知內使淸水嘉內）ト記載シタル名刺ヲ渡シ又ハ大坂ノ豪商住友吉右衞門一等支配人木村平次郎ニ五萬圓ノ預ケ金アリ迚虛僞ノ證劵ヲ村瀨彥十郎ニ示シ同人ヲシテ有福ナル華族ト信用セシメ且該金ノ返

濟期限ヲ經過シタレハ之ヲ取寄銀行ヲ設立スヘキ旨村瀨美根三郎等ト商議ノ末明治十五年一月八日良七ニ於テ大坂難波新地五番町四十七番地住友内木村平次郎ヘ宛（東京ヨリ金入ル銀行ヘ爲換組ダ直ク渡セ云々）ト事理曖昧タル電報ヲ筆記シ村瀨美根三郎ニ於テ村瀨彦十郎ト共ニ名古屋電信局ニ至リ之ヲ確信シ寺川長德ハ右木村平次郎方ニ在テ之ヲ受ケ之ニ對シテ一月二十五日三萬圓二月二十五日三萬圓相渡ストノ返報ヲ發シ又明治十五年一月九日村瀨美根三郎ヨリ木村平次郎方ニテ寺川長德ヘ宛（金二拾圓三井銀行ヘ出シタ受取レ用事濟タラ直ク歸レ）トノ電報ヲ發シ其後明治十五年一月十七八日頃寺川長德ハ村瀨彦十郎方ニ至リ大坂藤田組倉光倉三ナリト詐稱シ松平慶承ヘ出入願ノ爲メ來リタル旨ヲ以テ村瀨彦十郎ニ取次ヲ依賴シ松平良七ニ面會シ良七ニ於テハ出入ヲ許スニ付其約束等ハ村瀨彦十郎ニ申聞置クヲ以テ同人ニ承リ合スヘシト申聞其後明治十五年一月二十七日寺川長德ニ於テ名古屋長島町河喜ト稱フル料理店ヨリ倉光倉三ト僞名シタル書面ヲ以テ村瀨彦十郎ヲ呼寄セ松平慶承ヘ出入ノ叶ヒタルコトヲ主人藤田傳三郎ニ報知シタルニ同人ニ於テ大ニ悅ヒタリ附テハ右ノ參禮且內約取結ノ爲メ明日慶承ヲ初メ酒樓ニ招待スヘキ旨申合且其翌朝明治十五年一月二十八日松平良七村瀨美根三郎村瀨彦十郎同道名古屋區鹽町料理店大吉樓ニ於テ寺川長德ト出會シ酒宴ノ上同人ハ藤田組倉光倉三ノ僞名ヲ以テ松平良七即チ僞名慶承ヘ藤田組ヨリ金二拾萬圓無利息十ケ年賦或ハ二十ケ年賦調達ノ筈契約書ヲ取爲換村瀨彦十郎ヲシテ倍々信用ヲ厚カラシメ其後明治十五年一月三十一日村瀨美根三郎ヨリ松平良七ニ對シ舊旗下ノ者共駿州清水港開築ニ付德川慶喜ヨリ大金受ケ渡相成タルニヨリ慶承ヨリモ若干ノ金圓借用致シ度旨ヲ以テ其總代ノ者六名慶喜ヨリノ添簡持參慶承ヘ面謁ノ爲メ美根三郎ノ止宿迄相越タル旨申述就テハ此際慶承手許ヨリ一時金五千圓モ差出シ後來彼是申出間敷トノ證書ヲ取置キ差戻ス方可然抔商議シ故ラニ村瀨彦十郎ヲシテ傍ラニ在テ之ヲ聽カシメ而シテ松平良七於テ金五千圓ノ借用證書並ニ藤田組倉光倉三用達申付タルニヨリ該事務取扱方彦十郎ニ依托ニ及フトノ書付ヲ認メ村瀨美根三郎ヲ以テ村瀨彦十郎ニ談セシメ返金ハ倉光倉三ヲシテ調達セシムル旨申出始終ニ松平良七ハ德川ノ親戚ナリト僞リ華族ノ體ヲ裝ヒ欺罔手段ヲ以該金五千圓ヲ騙取シタルヤ其證據充分ナリト認定ス因テ右所爲ヲ法律



ニ照スニ松平良七カ第一區役所ノ送籍書ヲ變造シ第二入籍願書ヲ僞造シタル罪ハ所犯新法實施以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ基キ新舊ノ法ヲ比照スルニ舊法ニ於テ第一ノ罪ハ詐書律作爲官文書條凡官ノ文書ヲ作爲シ及增減スル者ハ皆徒三年云々餘ノ文書ハ五等ヲ減ストアルニ依リ徒三年懲役三年ヲ五等ヲ減スレハ懲役百日士族ナルヲ以テ閏刑ニ換ヘ禁獄百日ニ該リ然ルニ一罪前ニ發シ已ニ禁獄七十日ノ處斷ヲ經タルヲ以テ名例律二罪俱發論條ニ照シ前發ノ刑ニ通算シ剩ル禁獄卅日ニ該ルモ事犯三年ヲ經テ發覺シタルヲ以テ舊惡減例圖ニ照シ免罪スヘキモノトス又第二ノ罪ハ舊法ニ於テ改定律例第二百四十六條凡私ノ文書ヲ詐爲スル者ハ情ヲ量リ不應爲ニ問ヒ輕重ヲ分ツトアルニ依リ不應爲ノ重キニ問ヒ懲役七十日ノ閏刑禁獄七十日ニ該リ新法ニ於テハ刑法第二十條賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ僞造シ云々其第二項其餘ノ私書ヲ僞造又ハ增減變換シテ行使シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス同第二百十二條此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ストアリ明治十四年第八十一號公布第二條第一項ニ照シ新法ニ從ヒ一月以上二月十日以下ノ重禁錮ニ該リ又第三金圓ヲ騙取シタル罪ハ刑法第三百九十條人ヲ欺罔シ又タ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐僞取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス同第三百九十四條前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ストアルニ該レリ又タ村瀨美根三郎寺川長德ノ罪ハ刑法第百四條二人以上現ニ罪ヲ犯シタルモノハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ストアルニ基キ右第三百九十條及第三百九十四條ニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加シ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキモノトス又渡邊玄樵ノ罪ハ刑法第百九條重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幇助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ストアルニ依リ右第三百九十條ノ刑ニ一等則チ刑期四分ノ一ヲ減シ一月十五日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加シ又同三百九十四條ニ依リ六月以上二年以下ノ監視ニ付スキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ被告ノ內松平良七村瀨美根三郎寺川長

德ハ各對審ノ上松平良七カ第一ノ罪ハ免罪シ第二ノ罪ハ重禁錮二月十日ニ處シ第三ノ罪ハ重禁錮四年ニ處シ罰金三十圓ヲ附加シ監視二年ニ付ス右二罪俱發スルヲ以テ刑法第百條第三項ニ照シ初犯情狀最重キ第三ノ罪ニ從ヒ重禁錮四年罰金三十圓監視二年ノ刑而已ヲ受ク可シ又村瀨美根三郎カ罪ハ重禁錮三年ニ處シ罰金三十圓ヲ附加シ監視一年ニ付ス又寺川長德カ罪ハ重禁錮三年ニ處シ罰金十圓ヲ附加シ監視一年ニ付ス又渡邊玄樵ハ呼出ヲ受ケ其日時ニ出庭セザルヲ以テ治罪法第三百五十五條ニ依リ欠席ノ儘重禁錮六月ニ處シ罰金五圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス仍ホ民事原告人村瀨彦十郎ノ要求スル損害金ノ内明治十五年一月ヨリ明治十六年七月迄ノ利息金九百五十圓ハ正ニ得ヘキノ利益ヲ失フタルモノニシテ其金額ハ年一割二分ヲ以テ算出シタルモノナレハ不當ノ求メニアラザルニヨリ詐取セラレタル金額五千圓ト併セテ被告四名連帶ヲ以テ之ヲ賠償スヘキ者ナリ

但シ裁判費用トシテ鑑定人水谷彰相澤甲之助飯沼守一ニ給與スヘキ日當金一圓五十錢並私訴ニ付テノ費用モ被告四名連帶ヲ以テ償却スヘシ且證據物トシテ押收シタル品ノ内五千圓ノ借用證劵ハ刑法第四十三條及第四十四條ニ照シ官ニ沒收シ其他ハ總テ治罪法第三百八條ニ依リ右所有主ニ還付ス

檢事補青木素公庭ニ出席ス

明治十六年七月十四日

名古屋輕罪裁判所

判事　太田屋身

書記　前田常宥

（同月發行『類聚官報』第一號）

## ●一回代金四錢の賣淫

近頃猥褻とは存じ候へども公判の寫なれば是非もないが以來はチト御注意ありたきことにこそ

愛媛縣讃岐國豐田郡和田濱平民

姓不知　鶴　二十三年

汝が明治十六年十月十日夜土佐郡種崎町堀川に碇泊せし船舶に於て一會の代金四錢又は十錢を以て賣淫したる事は汝が自白する而已ならず巡査の告發に依り犯狀明白なり因て賣淫罰則第一條に照し再犯なるを以て懲戒十五日申付る

明治十六年十月十一日　高知警察署印

（同月十三日『土陽新聞』第三百三十八號）



## ●福島國事犯事件

裁判言渡書

福島縣磐城國田村郡三春町平民

被告人　河野廣中　三十四年三月

同縣同國同郡同町平民

被告人　田母野秀顯　三十四年八月

同縣同國標葉郡高瀨村士族

被告人　愛澤寧堅　三十四年三月

同縣岩代國安達郡二本松町士族

被告人　平島松尾　二十八年十一月

東東府深川區深川伊勢崎町士族花香恭法次男

被告人　花香恭次郎　二十七年二月

福島縣岩代國安達郡二本松町士族

被告人　澤田清之輔　二十一年一月

右被告人等ハ政府ヲ顚覆センヿヲ相謀リシトノ公訴ニ因リ檢察官ノ意見被告人等ノ答辯辯護人等ノ辯論ヲ聽キ被告人等ノ白狀及ヒ證憑書類ニ基キ高等法院裁判長陪席裁判官評議ノ上判決スルヿ左ノ如シ

判決

右被告人等ハ明治十五年七八月中福島縣福島町無名館ニ於テ政府ヲ顚覆スルヿヲ目的トシ内亂ノ隱謀ヲ爲シタル者ト判定ス其證憑ハ左ニ之ヲ明示ス

廣野廣中ハ明治十六年一月二十七日若松輕罪裁判所豫審廷ニ於テ明治十五年八月一日福島無名館ニ於テ花香愛澤田母野澤田平島ト誓約セシ事ヲ陳述シ又タ右誓約文記臆ノ問ニ對シ廣中ハ自ラ筆ヲ執リ認メシ所左ノ如シ

誓約

第一　吾黨ハ自由ノ公敵タル擅制政府ヲ轉覆シテ公議政體ヲ建立スルヲ以テ任トナス　第二　吾黨ハ吾黨ノ目的ヲ達スルカ爲メ生命財產ヲ抛チ恩愛ノ繫繩ヲ斷チ事ニ臨テ一切顧慮スル所ナカルヘシ　第三　吾黨ハ吾黨ノ會議ニ於テ議決セル憲法ヲ遵守シ俱ニ同心一躰ノ働ヲナスヘシ　第四　吾黨ハ吾黨ノ志望ヲ達セサル間ハ如何ナル艱難ニ遭遇シ又幾年月ヲ經過スルモ必ス解

散セサルヘシ　第五　吾黨員ニシテ吾黨ノ密事ヲ漏シ及誓詞ニ背戻アル時ハ直チニ自刃セシムヘシ右五條ノ誓約ハ吾黨ノ死ヲ以テ決行スヘキモノ也

明治十六年一月二十七日

若松輕罪裁判所ニ於テ認ム

河野廣中拇印

又タ明治十六年四月四日本院豫審廷ニ於テ盟約書中政府ヲ顚覆シ云々トアルハ汎ク萬國ヲ指シタル者ナリ故ニ日本政府ヲモ包含シタレモ單ニ日本政府ノミト御認メ相成テハ盟約書ノ成リタル素志ニ違フ儀ニ候ヘハ此段モ申立置キ候ト陳述セリ平島松尾ハ明治十六年一月十七日福島警察署ニ於テ汝等六名ニテ爲シタル盟約書第一條我黨ハ我日本ニ在リテ壓制政府ヲ顚覆スルトアリ抑壓制政府トハ現今我日本政府ヲ指シタルナルヘシトノ問ニ對シ現今日本政府ハ壓制ノ傾キアリ而テ盟約第一條ノ壓制トハ廣ク指シタル事ナリト答ヘ又ハ廣ク指シタルトハ漠トシテ解シ難シ其傾キアリトハ蓋シ壓制ナリト云ノ意カトノ問ニ對シ然リ即チ現時ノ壓制ニ迫リ盟約シタルナリト答ヘ又タ然ラハ壓制政府トハ現今日本政府ヲ指シタルニ相違ナキ乎トノ問ニ對シ然リ現今日本政府ヲ指シタルニ相違ナシト答ヘタリ又タ明治十六年一月二十五日若松輕罪裁判所ニ於テ檢事カ汝カ被告事件ニ付明治十六年一月二日一月三日一月十七日一月二十四日ニアツテ福島警察署及ヒ若松警察署ニ於テノ訊問ニ對シ陳述ハ相違之レナキカトノ問ニ對シ福島警察署ニ於テノ調書中兇徒聚衆事件ニ付テノ答ハ相違ノ廉モアレ共盟約書其他之ニ關スル事ハ都テ毫モ相違無之候ト答ヘ右盟約書ヲ閲スルニ同盟ノ者汝ノ外五名ニ過キス如何ノ方法ヲ以テ同志ヲ募ル見込ナリシヤトノ問ニ對シ我自由黨員中ニモ右盟約書ニ連書ノ外ハ漸次各自ノ親友中ヲ遊說シ加盟セシムル見込ニ有之且加盟者ニハ誓詞血判セシムルノ申合ナリト答ヘタリ又タ明治十六年一月二十五日若松輕罪裁判所豫審廷ニ於テ汝犯罪事件ニ付明治十六年一月二日同月三日同月十七日福島警察署ニ於テノ陳述並ニ十六年一月二十四日若松警察署ニ於テ陳述シタル通リ相違之レナキヤトノ問ニ對シ福島警察署ニ於テノ陳述調書中兇徒聚衆ノ事ニ付河野等ト協議シタリト申立タルノ一事ハ全ク無實ノ申立ヲ致候盟約其他之事ハ都テ少シモ相違無之候ト答ヘタリ



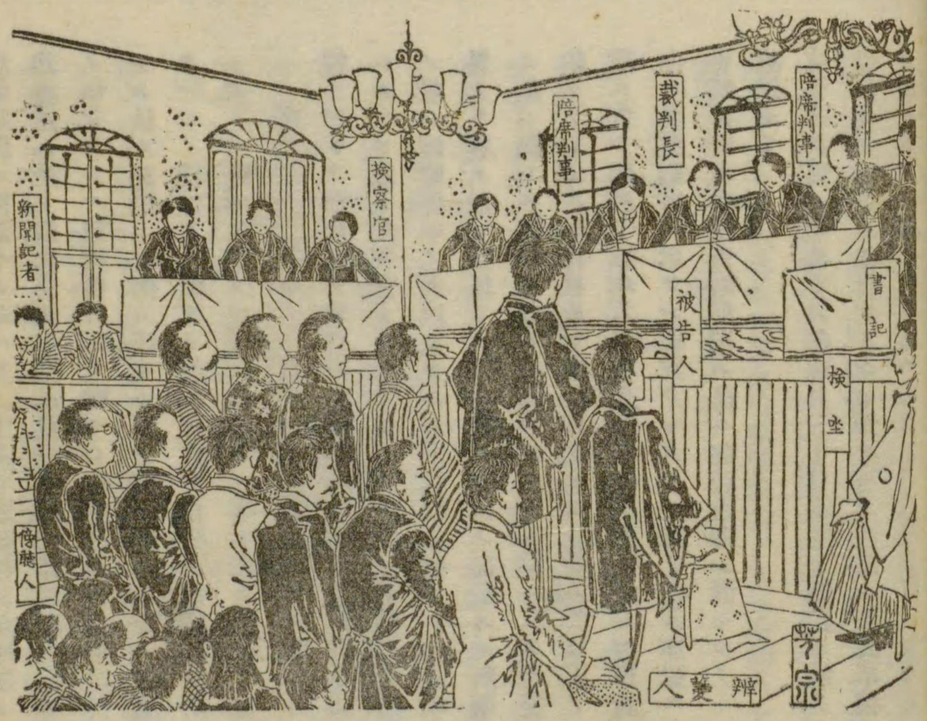
花香恭次郎ハ明治十六年一月十七日福島警察署ニ於テ盟約書ノ事ニ付本書ニハ專制政府ト記載シアルヤニ聞ク如何トノ問ニ對シ熟考スルニ壓ハ專ノ誤リナリ且第二條中目的ヲ達センカ爲ノ下ニ恩愛ノ繫繩ヲ斷チ生命財產ヲ擲ツヘシト正誤アランヿヲ請フト答ヘ專制政府トハ明治政府ヲ指シタルヿニ相違ナカルヘシトノ問ニ對シ尤モ然リト答ヘタリ而シテ恭次郎カ筆記セシ明治十六年一月十四日付ノ書面左ノ如シ

盟約

第一條　我黨ハ我日本國ニ在リ壓制政府ヲ顚覆シ眞正ナル自由政體ヲ確立スルヿヲ懋ム　第二條　我黨ハ前條ノ目的ヲ達センカ爲メ性命ヲ賭シ財產ヲ擲ツヘシ　第三條　我黨ハ我黨ノ會議ニ於テ決定シタル事件ヲ決行ス　第四條　我黨員ニシテ我黨ノ密事ヲ漏スモノハ直ニ斬ニ處スヘシ　第五條　我黨ハ以上ノ目的ヲ遂ケサレハ幾年月ヲ經ルモ渝ラサルヘシ

右ノ盟約ハ我黨ノ主義精神ニシテ則チ之ヲ神明ニ誓ヒ死ヲ以テ之ヲ守ルモノナリ未タ記臆ヲ寫シ得ス然レモ大凡前書ノ如ク覺ヘ候

明治十六年一月十四日




（繪入自由新聞）

花香恭次郎拇印

又タ明治十六年二月三日福島輕罪裁判所若松支廳豫審廷ニ於テ明治十六年一月十七日福島警察署ニ於テ申立テタル訊問調書ノ通リニ相違之レナキヤトノ問ニ對シ相違有之候ト答ヘ相違ノ箇條一々申立ヨトノ問ニ對シ盟約書ノ第一條ニ我日本國ニアリトハ自由ノ抗敵タルノ誤寫第四條直ニ斬ニ處ス可シトハ直ニ自刃セシム可シノ誤寫ニ之レアリ又タ調書中明治政府ヲ指スカノ答ニ尤モ然リト之アルハ地球上總テノ專制政府ヲ指シタルモノニテ即チ日本政府モ其内ニ之レアリ候ト答ヘ右ノ外ニ相違無之カトノ問ニ對シ相違無之候ト答ヘ盟約書第一條ニ政府ヲ轉覆ストハ如何トノ問ニ對シ政府ヲヒツクリ返ヘス事ナリト答ヘ政府ヲヒツクリ返ヘストハ謀反スルノ謂カトノ問ニ對シ然リ如何樣ニモ御名ケアリテ然ル可シト答タリ

河野廣中ハ明治十六年五月二日本院ノ下調廷ニ於テ八月一日夜中相談セシ人名カ四人ナラハ他ノ兩人ノ結盟シタルハ何日ナルヤトノ問ニ對シ八月一日ヨリ後ルヽ事二三日愛澤又一兩日後ニ平島カ結盟シタルナリト答ヘタリ

愛澤寧堅ハ明治十六年一月二十八日若松輕罪裁判所ノ豫審廷ニ於テ裁判官カ平島松尾花香恭次郎河野廣中等ノ申立テタル盟約書ヲ讀ミ聞セシ後此三人ノ申立中何レカ汝カ記臆スル所ニ近キカトノ問ニ對シ河野ノ申立タルモノ稍近キニ似タリ然レ𪜈尚ホ自分ノ記臆スル所ト異ルヲ免レス先ツ河野ノ申立タル者ニ就キ自分ノ記スル所ヲ筆記シ擎クヘシ然レ𪜈尚ホ確タル者ニ非スト答ヘ而シテ被告即チ寧堅ハ其記臆スル所ヲ自筆シ差出シタルヲ以テ裁判官カ此今差出シタル汝ノ記臆スル所ノ者ハ河野廣中ノ差出シタル者ト符節ヲ合スル如ク小異ナキ者ノ如シ如何トノ問ニ對シ自分ノ記臆スル所斯ノ如シ然レ𪜈確タル者ニハ非サルナリト答ヘ又タ右誓約ヲナシタル年月日及ヒ場所其共ニセシ者ハ誰カトノ問ニ對シ明治十五年八月初旬福島無名館ニ於テ河野廣中ニ其盟約書ヲ示サレ相計ラレタルニ因リ之ニ加盟ス當時河野花香田母野澤田ハ已ニ加盟血印シ置キタリト陳述セリ

花香恭次郎ハ明治十六年四月三十日本院下調廷ニ於テ平島八月一日ハ他行ナリシモ知ル可ラス然レ𪜈其草稿ヲ起シタルハ六七日前即チ七月二十二三日頃ニ無論其席ニ列ナリシヲ以テ八月一日ハ他行中ナルモ結盟ヲナスノ事情ヲ熟知スルモノナリ否ラサレハ盟約ノ調印成立ツヘキニアラサルナリト陳述シ又タ八月一日ヨリ以前ニ集會シテ平島モ其席ニアリシト云フカトノ問ニ對シ其席ニ在リシト答ヘ又タ盟約書起草ノ日ハ七月何日頃ト考フヤトノ問ニ對シ結盟一週間前ト覺ユ故ニ七月二十二三日ナリト答ヘ又タ一週間前ニ談判シタル人員ハ幾名ト考フルヤトノ問ニ對シ河野田母野澤田余及ヒ平島ナリト答ヘタリ

田母野秀顯ハ明治十六年一月二十五日若松警察署ニ於テ其方ハ河野平島花香等ト非常ノ盟約ヲ爲シタル事アルヘシトノ問ニ對シ明治十五年七月頃盟約シタル事アルニ相違ナシト答ヘ又タ何處ニテ爲シタルヤ誰々ナリシヤトノ問ニ對シ河野廣中澤田清之輔花香恭次郎自分合セテ四名ナリシカ其後聞ク處ニヨレハ平島松尾モ加盟シタリト云ト答ヘ又タ此盟約タル死ヲ以テシタルヤ如何トノ問ニ對シ死ヲ以テ盟約シタルニ相違ナシト答ヘ又其條項汝カ記臆スル處一々申立ヨトノ問ニ對シ克ク記臆セサルヲ以テ答フル能ハズト答ヘ又タ汝ハ記臆セサルヲ以テ其盟約ヲ免レントスル者ノ如シ請求ニヨリテ平島松尾カ供出並ニ筆記シタル盟約書ヲ示ス其朗讀ヲ聞キ答辯ヲ爲セトノ申聞ケニ對シ諾ト答ヘタリ茲ニ於テ若松警察署ニ於テハ平島松尾カ福島警察署ニテ筆記シタル盟約書即チ若松警察署調書ノ末ニ附綴セシ謄本ヲ示シタリ其謄本左ノ如シ

盟約書

第一條　吾黨ハ吾カ日本國ニ在ツテ壓制政府ヲ顚覆シ自由ノ制度ヲ確立スルヿヲ務ムヘシ　第二條　吾黨ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メニハ生死ヲ顧念セス　第三條　吾黨ハ妻子眷屬ノ係累ヲ絕チ且ツ財產ヲ盡却スルヲ顧ミス　第四條　吾黨ノ衆議ヲ以テ決スルモノハ斷行スヘシ　第五條　吾黨中ノ秘事ヲ漏スモノハ斬ニ處スヘシ

右ノ條々死ヲ以テ誓フ者也

明治十六年一月十四日夜八時

平島松尾拇印

茲ニ於テ汝ハ前キニ記臆セサル旨申立テシニヨリ朗讀シテ示シタリ如斯同盟者カ自白スルヲ以テ見レハ汝モ相違ナキヲ覺知シタルヘシトノ問ニ對シ自分ハ記臆セサレトモ今朗讀ヲ受ケテ其盟約書ナリト答フト陳述シ

又タ盟約書第一條ニ壓制政府ヲ顚覆スルトアルカ日本政府ヲ指シタル者ナルヤトノ問ニ對シ單ニ日本政府ノミナラス社會ノ壓制政府タルハ悉皆含蓄シタルナリト答ヘタリ

又タ明治十六年六月十八日本院下調廷ニ於テ其盟約ヲ爲シタル時ハ何レノ頃ナルヤトノ問ニ對シ十五年七月下旬ナリ六名ノ者カ無名館ニ揃フタル時何ノ話シヨリ起リシカ遂ニ社會ノ安寧ヲ企圖スルノ談話ニ入リ此ニ盟約ノ草稿ヲ試ミ而シテ八月一日ニ至テ亦六名カ集リ即チ盟約血判セリ其發議ハ上陳ノ如ク五六日前ノコナリシト答ヘ又タ然ラハ七月下旬ニ相會セシ人名ハ誰々ナルヤトノ問ニ對シ盟約シタル六名ナリ然レモ此ノ爲メニトテ集會セシニアラス偶然此六名カ集合シタリシナリト答ヘ又タ其六名トハ花香恭次郎平島松尾河野廣中愛澤寧堅澤田清之輔並ニ田母野秀顯ナルカトノ問ニ對シ然リト答ヘタリ

又タ此盟約書ヲ澤田清之輔カ淨書スル際ニ文詞中之ハ箇樣ニスルカ宜シトカ何トカ其文字ニ付テ同盟者ノ意見ハナカリシヤトノ問ニ對シ大ニ意見ノ合ハサル所アリテ專ラ第一二條ニ付テ議論セリ即第一條ニ自由ノ公敵タル壓制政府ヲ顚覆スルトアル其顚覆ノ文字ハ干戈ヲ執リテ政府ヲ倒スノ義ニテ今自由主義上ニテハ言論又ハ文章ヲ以テ政治ノ改革ヲ圖ルヘキモノナレハ顚覆ノ文義隱ナラスト云ヒ或ハ自由ノ公敵タル壓制政府ヲト書キ來レハ顚覆ト文字ヲ置カサレハ文勢甚拙ナシ何ソ干戈ヲ執ルノミニ止マランヤト云フ者アリ彼是論シタルモ終ニ之ヲ淸書スルニ際シ改革ト記セシヤニ思考スレモ確ト覺ヘス其淸書前ニハ政府ヲ顚覆トノ文字ハアリタリト答ヘタリ

花香恭次郎ハ明治十六年三月二日本院豫審廷ニ於テノ答ニ政府ヲ顚覆スルノ二字ナリ之ヲ起草スルヰハ其意味ナリシモ各調印スル時ニ右顚覆ノ二字ヲ改良ニ改ムルヲ良シトストノ說之アリ其說ハ顚覆トハ唯ヒツクリカヘスト云而已ノ意味ニテ面白カラス顚覆シ尙之ヲ改良スルト云フ意味ニスル方好シトノ謂ニシテ右ヲ改良ト致シタリト今日ニ至テ考ヘ付キタリト陳述シ又タ改良トハ顚覆シタル後之ヲ改良スルノ意ナルカトノ問ニ對シ左樣其通ニ相違無之候ト答ヘタリ

平島松尾ハ明治十六年四月四日本院豫審廷ニ於テ自分於テ平生ノ志ス所壓制政府ヲ改良スルニ在ルヲ以テ彼



第一條モ壓制政府ヲ改良云々トアリシト記臆致候得共實ハ自分於テ彼誓約書ノ成立ツ時ニハ其協議ニ加ハラス他行不在中ニシテ爾後廿日計モ後ニ在テ河野廣中ヨリ示サレ同盟シタル儀ニシテ誓約書記載スル處ノ字句等ハ自分其協議ニ加ハラサルヲ以テ猶更今日ニ於テ遺忘致シタル儀ニシテ素ヨリ改良ト書スルモ轉覆ト書スルモ同意味ニシテ到底改良ヲ要スルニハ轉覆セハ改良セサルヘカラスト陳述セリ

澤田淸之輔ハ明治十六年五月三十日本院下調廷ニ於テ明治十五年ノ七八月中無名館ニ於テ河野等ト血判盟約シタル事アリヤトノ問ニ對シ八月三十日ニ於テ約束シタル事アリト答ヘ又タ其場所ハ如何トノ問ニ對シ福島町字南裏通二ノ十五番地ニシテ福島自由新聞ノ設ケアル所ナリト答ヘ又タ今ノ番地ハ無名館ト稱スル所カトノ問ニ對シ然リ舊名六軒町ニテ今ハ字南通二ト申所ナリト答ヘ又タ同席シタル人名ハトノ問ニ對シ余ハ其ノ時新聞社ノ事ニテ起居忽劇ノ際ナリシヲ以テ誰々ナリトハ判然記臆セス田母野花香河野ノ三氏ハ居タリト覺ユト答ヘタリ

右ニ列擧セシ證憑中死ヲ以テ誓フ自及セシム斬ニ處ス死ヲ以テ決行ス等ノ記臆ノ書取リ及ヒ連署ノ外ハ漸次遊說シ加盟血判セシムル申合ナリトノ供述改良ヲ要スルニハ轉覆セサルヘカラス轉覆セハ改良セサルヘカラストノ供述顚覆シ尙之ヲ改良スルト云フ意味ニスル方好シトノ謂ニシテ右ヲ改良ト致シタリトノ供述改良トハ顚覆シタル後之ヲ改良スル意カトノ問ニ對シ左樣ト答ヘ政府ヲヒツクリ返ストハ謀反スルノ謂カトノ問ニ對シ然リト答ヘシ等ノ模樣ヲ以テ之ヲ證憑ノ全部ニ照スニ被告事件ハ前文ニ揭ケシ如ク判定ス可キノ證憑充分ナリトス

而シテ被告人等ハ結盟セシ血判ノ誓約書ハ既ニ取消シタリト申立ツレモ相立タス何ントナレハ其取消タルノ證憑ナキヲ以テナリ又誓約書記臆ノ書取リニハ政府ヲ顚覆スルトノ文字アリシモ誓約書ノ原書ニハ添紙ヲ以改良ノ文字ニ改正シ置キタリト申立レモ相立タス何トナレハ後ノ添紙ヲ以テ既ニ血判セシ誓約書ヲ改正セシトノ申立ハ相立タサルヲ以テナリ又誓約書記臆ノ書取リニ政府ヲ顚覆スルノ文字アルハ言論文章ヲ以テスルノ顚覆ニシテ暴行ヲ以テスルノ顚覆ニ非スト申立レモ相立タス何トナレハ本件即チ被告事件ノ顚覆スルト云ヘル事實ハ上文ニ揭ケシ證憑ニ據リ暴行ヲ以テスルノ顚覆ナリト判定スルニ充

分ナルヲ以テナリ又顚覆トハ內亂ヲ爲スノ目的ニ止リ內亂即チ暴行ヲ爲ス事ヲ陰謀セシ事ナシト申立レモ相立タス何トナレハ誓約書記臆ノ書取リニ政府ヲ顚覆シト記載シ又ハ死ヲ以テ決行スト記載シ又政府ヲヒツクリ返ストハ謀反スルノ謂カトノ問ニ對シ然リト答ヘタル等ニ據レハ內亂即チ暴行ヲ爲ス事ヲ陰謀セシ事ナシトハ不當陳述ナルヲ以テナリ又誓約書記臆ノ書取リニ政府ヲ顚覆スルノ文字アルハ外國政府ヲ指シタル者ニシテ我政府ヲ指シタルモノニ非スト申立レモ相立タス何トナレハ本件即チ被告事件ニ云フ所ノ政府ハ上文ニ揭ケシ證憑ニ據リ我カ政府ヲ指シタル事明瞭ナルヲ以テナリ

因テ之ヲ法律ニ照スニ

刑法第百二十一條ニ曰ク　政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルヿヲ目的ト爲シ內亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一　首魁及ヒ敎唆者ハ死刑ニ處ス

二　群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス

三　兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス

四　敎唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

刑法第百二十五條ニ曰ク　兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他內亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

內亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

刑法第百四條ニ曰ク　二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

刑法第六十八條ニ曰ク　國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一　死刑

二　無期流刑

三　有期流刑

四　重禁獄

五　輕禁獄

右ノ理由ナルニ因リ高等法院ニ於テ被告人河野廣中田母野秀顯愛澤寧堅平島松尾花香恭次郎澤田清之輔ニ對シ刑法第百二十五條第二項ニ據リ刑法第百二十一條第一項ノ例ニ照シ二等ヲ減シ各有期流刑ニ處ス可キ處原諒ス可キ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條第一項ニ重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルヿヲ得刑法第九十條ニ酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ストアルニ依リ各有期流刑ニ二等ヲ減シ刑法第二十三條輕禁獄六年以上八年以下ノ範圍內ニ於テ河野廣中ハ輕禁獄七年田母野秀顯愛澤寧堅平島松尾花香恭次郎澤田清之輔ハ各輕禁獄六年ニ處スル者也

明治十六年九月一日東京高等法院ニ於テ檢事渡邊驥檢事竹內維積檢事堀田正忠檢事澄川拙三立會宣告ス

高等法院裁判長　判事　玉乃世履

高等法院陪席裁判官　元老院議官　長岡護美

高等法院陪席裁判官　元老院議官　河田景與

高等法院陪席裁判官　元老院議官　林　友幸

高等法院陪席裁判官　判事　岡內重俊

高等法院陪席裁判官　判事　關　義臣

高等法院陪席裁判官　判事　武久昌孚

高等法院書記　大審院書記　竹端道忠

高等法院書記　大審院書記　荒木龍兆

（福島事件高等法院公判傍聽筆記）

## ●同事件の隱密探偵

（此「政府の犬」の事は『明治密偵史』にあり）

裁判言渡書

福島縣磐城國田村郡長外路村字下ノ久保

九番地平民鎌田宗吾長男直造事

被告人　鎌田猶三　二十年四月

同縣岩代國信夫郡大笹生村平民卯三郎事

被告人　佐々木宇三郎　三十四年一月

右被告人等ハ河野廣中花香恭次郎平島松尾愛澤寧堅田母野秀顯澤田清之輔等カ政府ヲ顚覆スルノ目的ヲ以テ內亂ノ陰謀ヲ爲シ共ニ血盟シタル盟約書ヲ發見シ之ヲ取隱シタリトノ公訴ニ因リ檢察官ノ意見被告人等ノ答辯辯護人等ノ辯論ヲ聽キ被告人等ノ白狀及ヒ證憑書類ニ基キ高等法院裁判長陪席裁判官評議ノ上判決スル事左ノ如シ

判決

右被告人等ハ明治十五年十二月中被告人佐々木宇三郎宅ニ於テ河野廣中花香恭次郎平島松尾愛澤寧堅田母野秀顯澤田清之輔等カ內亂ニ關スルノ罪ヲ免カレシメン事ヲ圖

リ其罪證ト爲ルヘキ血判セシ盟約書ヲ隱蔽シタル者ト判定ス其證憑ハ左ニ之ヲ明示ス

鎌田猶三ハ明治十六年一月十九日福島警察署ニ於テ其盟約書ハ如何ナル事ヲ記載セシヤトノ問ニ對シ

第一條　我黨ハ專制政府ヲ顚覆シ完全ナル立憲政體ヲ立ルヲ目的トス　第二條　我黨ハ如何ナル難義ニ際シ幾年月ヲ經ルト雖モ目的ヲ達セサル中ハ決シテ解散セサル事　第三條　我黨員ハ時宜ト場合ニ依リテハ一死ヲ顧慮スル事ナカルヘシ　第四條　前三條ノ結約ヲ違背シタル者ハ斬ニ處スヘシ　第五條ハ記臆セス

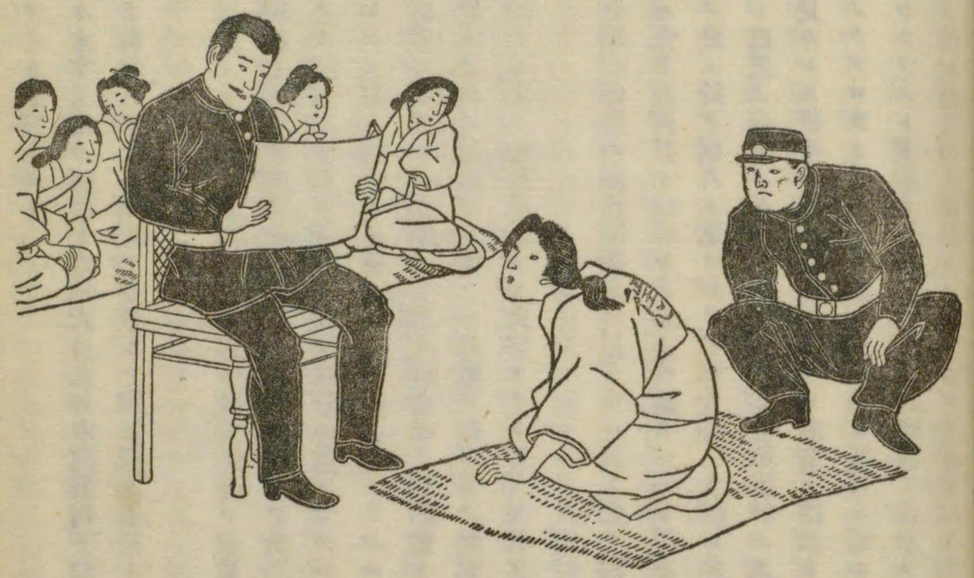
右五ケ條ハ神明ニ盟ヒ生死ヲ不辭相守ルヘキ事

尤氏名ノ下ニ各血判ヲナセリト答ヘタリ

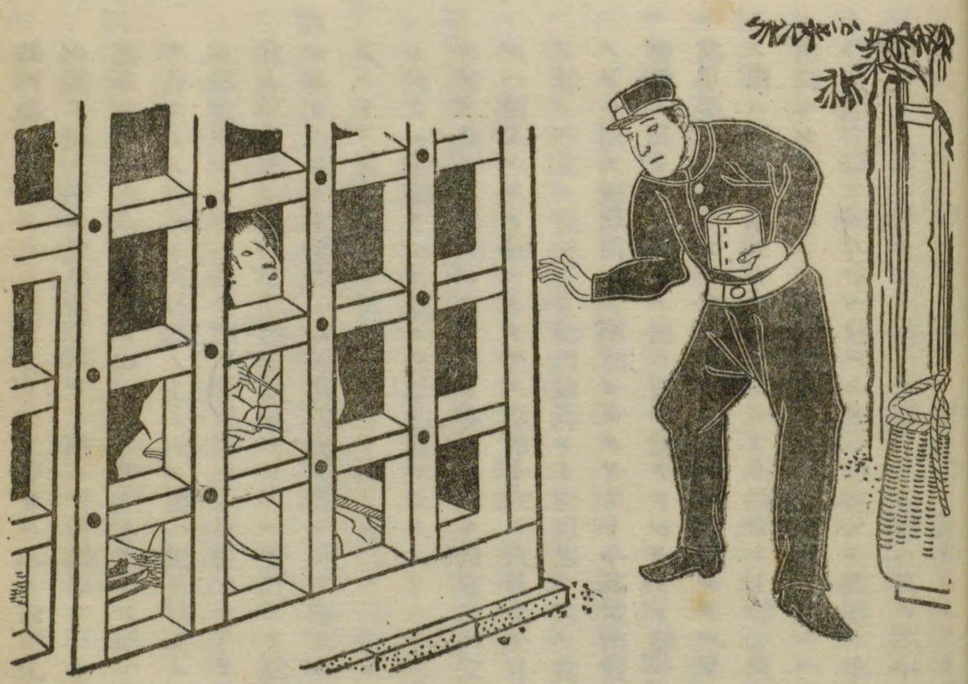
又明治十六年二月三日福島輕罪裁判所若松支廳豫審廷ニ於テ福島無名館ニテ河野廣中外五名之血判盟約ヲ見出シタリト信ナルヤトノ問ニ對シ十五年十二月六日午後三時比無名館之床間ニアル簞笥ノ小引出シ三ツノ內中ノ引出シニ見當リ取置候而シテ同月九日午前十一時佐々木卯三郎エ相渡候ト答ヘ又タ匿シ置シハ如何ナル譯カトノ問ニ對シ專制政府ト記載有之斯ノ如書ヲ見顯ハサレ候節ハ國事犯罪トモ可相成ト存隱蔽ノ含ニテ匿シ置候ト答ヘタリ又タ明治十六年二月四日汝カ無名館ニ於テ如何ナル手續ニテ河野廣中等ノ誓約書即チ血印セシモノヲ發見シタルヤトノ問ニ對シ自分カ其日同館ニ投スルヤ廣中ノ勾引セラレタル後ニテ當日已ニ家宅搜查ノ跡ナレハ書類等ハ皆已ニ差押ヘラレタリ其五日自分所持ノ書類迄差押ヘラレタルヤト思慮シ各處探索スルニ際シ簞笥ノ引出中其誓約書ナルモノアリ是レ十數枚ノ紙ヲ綴リ表題ヲモ附セス且ツ初メニ少ク字ヲ書シタルカ爲メ先キニ白紙ヲ綴リタルモノト誤認シ警官ノ差押ユル所トナラスシテ此ニ取遺シタルモノト思料シタリ然ルモ之ヲ閱スルニ政府ヲ顚覆スル云々ノ誓ナレハ若シ發覺セハ即チ法律ノ罪人ヲ免レス即チ之ヲ秘スヘキモノト思料シ館中ノ疊ノ下ニ藏シ置タリ然レモ之ヲ訴ヘ出ルニ如カサルヘキカト思料シ種々之カ處置方ニ苦ミ一己ノ心ニテ決スル能ハス即チ九日ニ在テ佐々木卯三郎方ニ到リ其處置方ヲ計リタリ然ルニ卯三郎ハ悉皆其處置ヲ擔當スルヲ以テ授ケ去ルヘキ旨申スヲ以テ皆同人ノ爲ス所ニ委ネ直チニ之カ關係ヲ絕チタリ畢竟スルニ之ヲ包藏セス過日警察署ノ訊問中敢テ此事ノ訊問ナカリシカ自分ハ之ニ關係セシ始末ヲ自白シタル



## 裁判圖會（四）



（今常盤布施譚）



モノナリト答ヘタリ

佐々木宇三郎ハ明治十六年六月九日本院公判下調廷ニ於テ被告人宇三郎勘考セシ歟トノ問ニ對シ勘考セリ明治十五年十二月九日鎌田直造來リシ時ヨリノ手續ヲ更ニ申立テン明治十五年十二月九日鎌田直造ノ使也トテ菅野和七ナル者來リ直造カ何カ談スルヿ有テ大事ナルヿナリ故ニ來リ貰ヒタシト云フ自分ハ何ノヿカハ知ラザレ𪜈大事ノ談ナレハ他人ノ居ル處ハ宜シカルマシ故ニ直造ニ來タレト申聞タリ其夜直造來リ盟約書ヲ持參シ見セタルニ相違ナシ然ルニ内亂ヲ起ストノ明文ハナケレ𪜈政府ヲ顚覆スルトノ文字アリト答ヘ又其文字アリヤトノ問ニ對シ有リ故ニ他見ハ宜シカラス河野廣中花香恭次郎等ハ知己故他人ニ見セサルヿト之ヲ預リ然ルニ夫ヲ如何致シ保存シテ本人ヘ返スヘキト種々考ヘ餘ノ處ニ於テ他人ニ見ラレテハ本人等ノ本懷ニ非スト存シ直造ノ申立ノ如ク新聞紙ニ包ミ會津德利ニ入レテハ見タレ𪜈夜中ナリシ故夫ヨリ譬ヒ直造ノ持來リタルモノテアロウトモ土中ニ埋メ又直造カ他人ニ嘶シテハ宜シカラスト直造カ便所ニ行キタル時杉ノ古木ノ下ヘ埋メ然ル後直造カ便所ヨリ歸リタルヰ余モ歸リタリ此時直造カ埋メタリト思ヒシナラン暫クスルト前申上クル通リ雇人等カ萱ヲ片付居タル處ニ戶長役場ヲ尋ネシ巡査アリテ直造カ尋ネラルヽヤノ摸樣モアリシ故ヘ出テ行カシメ自分モ同村瀨ノ上ト云フ所ヘ出テ行キタルニ相違ナシト答ヘ又タ福島警察署以來事實ナキヿヲ申立シハ自分一己ノ罪ヲ遁ン爲メナラス一度預リテ隱蔽シタルハ友人ノ情誼ニ於テ河野廣中等ノ罪ヲ遁カレシメントノ爲メナリ今更證人トナリ右ノ書類ヲ持參スルニ於テハ遺憾ナルカ故ニ是迄陳述致シタルヿハ彼レ等カ罪ヲ免カレシメンヿヲ慮リ心ニモナキ僞言ヲ申立タルハ恐入タリト答ヘタリ又タ明治十六年六月十一日先日汝ノ申立ニ盟約書ヲ鎌田直造ヨリ受取之ヲ杉ノ古木ノ下ニ埋メ後取出シテ消滅セシメタリト今其盟約書ハ皆無ニ屬セシヤ否トノ問ニ對シ無ナリシナリト答ヘ又其引裂キタルトカ反古トナセシモノハ如何シタルヤトノ問ニ對シ消滅セシメ之ヲ出スヿ不能ナリト答ヘ又タ消滅セシメタルヿヲ詳細申立ヨトノ言ニ對シ僅カ一枚計リ故引裂キ堀ノ中ヘ投シタリト申立又タ其堀ニ水アリヤトノ問ニ對シ水ノ流ルヽ堀ナリト答ヘ又タ水中ニ容解シ搜索シ能ハサル歟トノ問ニ對シ僅カハカリノ物



故搜索シ能ハスト答ヘ又タ盟約書ノ文言概略ヲ覺ヘサルヤトノ問ニ對シ委シクハ記臆セスト答ヘ又タ大略ニテ宜シトノ言ニ對シ數百日ヲ經過シ能ク覺ヘサレ𪜈壓制政府ヲ顚覆シ善良ナル政府ト爲スト歟作リ出ストカアリシト覺ユト申立又壓制政府ヲ顚覆云々トハ書キ起シニアリシヤ否トノ問ニ對シ然リト思フト答ヘ又タ其姓名ヲ乘セタルハ花香恭次郎河野廣中平島松尾愛澤寧堅田母野秀顯澤田淸之輔ノ六名ナリト云フ汝ハ如何記臆スルヤトノ問ニ對シ五名カ六名ト覺ヘタリ其外ニナシ花香ト平島ハ能ク覺ヘ居タリシナリト答ヘタリ又タ明治十六年六月十二日昨日申立中唯今朗讀アルヲ拜聽シ何分數百日ヲ經過セシ事故其申立ニ前後セシ所アリトノ申立ニ依リ其前後スル處充分申立ヨトノ言ニ對シ即チ盟約書ノ文面ニ前後アリ初メ政府ノ壓制ヲ顚覆シ善良ナル政體ヲ建ツル事ヲ務ム其後ニ數歲月ヲ經ルモ艱難スルモ撓マス盡力ストアリシヤニ覺ヘタリト申立又タ夫ニ止マル歟トノ問ニ對シ然リト答ヘタリ

右ニ列擧セシ證憑中無名館之床間ニアル簞笥ノ小引出シ三ツノ内中ノ引出シニ見當リ取置候而シテ同月九日午前十一時佐々木卯三郎ヘ相渡候トノ供述又タ國事犯罪トモ可相成ト存シ隱蔽ノ含ニテ匿シ置候トノ供述又タ政府ヲ顚覆スル云々ノ誓ナレハ若シ發覺セハ則チ法律ノ罪人ヲ免レス則チ之ヲ秘スヘキモノト思料シ館中ノ疊ノ下ニ藏シ置タリトノ供述又タ卯三郎ハ悉皆其處置ヲ擔當スルヲ以テ授ケ去ルヘキ旨申スヲ以テ皆同人ノ爲ス所ニ委ネ云々トノ供述又タ直造來リ盟約書ヲ持參シ見セタルニ相違ナシ然ルニ内亂ヲ起ストノ明文ハナケレトモ政府ヲ顚覆スルトノ文字アリトノ供述又タ僅カ一枚計リ故引裂キ堀ノ中ヘ投シタリトノ供述又タ僅カハカリノ物故搜索シ能ハスト供述セシ等ノ摸樣ヲ以テ之ヲ證憑ノ全部ニ照スニ被告事件ハ前文ニ揭ケシ如ク判決スヘキノ證憑充分ナリトス

因テ之ヲ法律ニ照スニ

刑法第百五十二條ニ曰ク　他人ノ罪ヲ免カレシメン事ヲ圖リ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

刑法第百四條ニ曰ク　二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

刑法第八十一條ニ曰ク　罪ヲ犯ス時滿十六歲以上二十歲

ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

刑法第七十條ニ曰ク　禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ云々

刑法第二十八條ニ曰ク　拘留ハ云々刑期ハ一日以上十日以下ト爲シ云々

刑法第七十一條ニ曰ク　禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スル事ヲ得

右ノ理由ナルニ因リ高等法院ニ於テ被告人鎌田猶三佐々木宇三郎ニ對シ刑法第百五十二條ニ依リ十一日以上六月以下ノ輕禁錮貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ノ範圍内ニ於テ處斷ス可キ所鎌田猶三ハ罪ヲ犯ス時二十歳ニ滿サルヲ以テ刑法第八十一條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ刑法第七十條ニ照シ八日以上四月十五日以下ノ刑期ノ範圍内ニ於テ處斷スヘキ者ナルモ尚ホ原諒ス可キ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條第一項ニ重罪輕罪違輕罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スル事ヲ得刑法第九十條ニ酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ストアルニ依リ更ニ一等ヲ減シ刑法第七十條ニ照シ刑法第二十八條刑法第七十一條ニ依リ一等ヲ減シ刑法第七十條ニ照シ刑法第二十八條刑法第七十一條ニ依リ八日以上四月十五日以下ノ範圍内ニ於テ拘留八日ニ處ス

明治十六年十月二日東京高等法院ニ於テ

檢事渡邊驥檢事竹内維積檢事堀田正忠檢事澄川拙三立會

宣告ス

高等法院裁判長　判事　玉乃世履
高等法院陪席裁判官　元老院議官　河田景與
高等法院陪席裁判官　元老院議官　林　友幸
高等法院陪席裁判官　元老院議官　渡邊　清
高等法院陪席裁判官　判事　岡内重俊
高等法院陪席裁判官　判事　關　義臣
高等法院陪席裁判官　判事　武久昌孚
高等法院書記　大審院書記　荒木龍兆
高等法院書記　大審院書記　土居侃夫



## ●天誅黨の主謀者

裁判言渡書

新潟縣越後國中頸城郡高田木築町士族

被告人　赤井景韶

二十四年四月

右被告人ハ政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ諸省ノ卿以上ヲ謀殺セント決意シ之カ豫備ヲ爲シタリトノ公訴ニ因リ檢察官ノ意見被告人ノ答辯辯護人ノ辯論ヲ聽キ被告人ノ白狀及證憑書類ニ基キ高等法院裁判長陪席裁判官評議ノ上判決スル事左ノ如シ

判決

右裁告人ハ現今ノ施政自己ノ意ニ適セサルハ要路ノ顯官カ　天皇陛下ノ思召ヲ擁蔽スルニ由ルト思ヒ込ミ是非諸省ノ卿以上ヲ斬殺セント決心シ明治十五年十一月中新潟縣下越後國高田町町田屋ニ於テ井上平三郎風間安太郎ト相會セシ時右兩人ヘ對シ自分決心ノ深奥ハ之ヲ明サス唯要路ノ顯官ニハ必ス　天皇陛下ノ思召ヲ擁蔽スル者アルヘキニ付出京ノ上之ヲ探索シ之ヲ除カント申聞ケ出京旅費ノ爲替ヲ取組ミ明治十五年十一月八日ヨリ右兩人ヲ誘導シ高田ヲ發シ迂路ヲ取リ新潟縣下新潟マテ到リタル處他人ノ爲メニ遏メラレシハ政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ要路ノ顯官ヲ謀殺セント決意シ之カ豫備ヲ爲シタル者ト判定ス其證憑ハ左ニ之ヲ明示ス

被告人赤井景韶ハ明治十六年四月十五日新潟輕罪裁判所高田支廳ニ於テ檢察官カ法ニハ法ノ推測アリ掛官ニハ掛官ノ推測アリ今汝ノ如ク唯々知ラス然ラスト云ヘハ何レモ認定推測ヲ用サルヲ得ス却テ汝ノ不利益ナラスヤトノ問ニ對シ唯今迄我答ヘタル處ハ全ク事實ニ違ヒタル僞ニテ其僞ヲ申立テシハ我一身ヲ惜ムノ爲メニアラス先ニモ申タル如ク今般捕縛セラレタル我黨員二十餘名ノ安危ニモ關スル處ナリト思ヒ我精神ニ愧ルヲモ顧ミス申タレ共今ヨリ更ニ事實ヲ申立ツヘシ初ヨリ訊問相成度シト答ヘ然ラハ更ニ初メヨリ訊問ニ及フノ間町田屋ニ於テ議シタル事ヨリ申立ツヘシトノ言ニ對シ町田屋ニ於テ議シタル事ハ其精神ハ天誅黨旨意書ニアリ然レ共今ハ之ヲ放棄シタリト答ヘ放棄シタルハ如何ナル事ソトノ問ニ對シ一旦旨意書ノ意ニ由テ相決シ之ヲ擧ケント謀リ新潟ニ迄出タルニテ其道ヲ新潟ニ取リシハ三國ヲ越ヘ人ヲシテ跡ヲ知ラシメサル意ナリ然

ルニ船中山際七司ニ逢ヒ共ニ社會平權論ノ意ヲ講シ新潟ニ着シタルニ自分等着スルヤ否直チニ鈴木昌司來レリ之ハ先キニ我輩郷里ヲ出ルノ際ピストル等ヲ携タルト當時熱血ヲ以テセサレハ自由ヲ得ル能ハス寧ロ不自由ニシテ生存センヨリモ死シテ犧牲トナルニ如カスト唱ヘ且ツ自由黨ヲ脫スルト云ヒタル等ヨリ繁社等ニ於テ自分等ノ擧動ヲ察シタルモノト見ヘ電報ヲ以鈴木昌司ヘ通知アリタル由ナリ昌司ハ其事ハ語ラス七司ヨリ自分等ノ新潟ニ出タルヲ聞キタル趣ニテ來リ次テ小柳卯三郎加藤勝彌其他常置委員等出來リ自分等ノ擧ヲ謀ルニ暇アラシメス由テ翌日住吉屋ニ轉宿シタルモ尙又尋ネ來應答日ヲ送ルノ内今村致和相羽嘉尙迎ヒトシテ來リ終ニ昌司致和加藤勝彌等自分等ヲ偕樂館二階ニ伴ヒ說諭セシヲ以テ尙我志ハ我爲ス處ニアリト申居リタレ共其内覺ル所モアリ終ニ先キノ志ヲ放棄シ歸郷致シタルナリト答ヘ先キニ一旦天誅黨ノ主意ヲ行ハント決シタル時大臣參議ノ内誰々ヲ暗殺スヘクト目的ヲ定メタルナリシカトノ問ニ對シ目的ハ不殘斬ルノ意ナリシナリ天誅黨主意書等ハ平三郎等ニモ示サヽレハ彼等ハ知ラサルナリ唯其主意ヲ協議セシニテ書面ハ自分寢處ノ内ニテ認メ試ミタル迄ナリト答ヘ新潟ニ出ル時ニ當テハ一旦東京ニ出決行スルノ意ハ決シタルカトノ問ニ對シ然リ決シタル也併シ未タ手段ハ議セサリシナリ尙其事ヲ行ハント決心シタルハ自分私ニ怨等アルニアラス全ク國家ノ爲メナリト存シ込ミシヨリ出タル事ニテ他人ノ敎唆等ニ出タルニモ非サルナリト答ヘタリ又タ明治十六年四月十八日新潟輕罪裁判所高田支廳ノ豫審廷ニ於テ其方ハ昨年十一月九日後新潟表ヘ立チ越シタル事アルカトノ問ニ對シ參リタル事之レアリ候ト答ヘ右ハ何日出發セシヤトノ問ニ對シ十一月九日ニ當地ヲ出發シ同夜黑井宿ニ泊シ翌十日ニ靑海川宿片岡ト申旅店ニ泊シ其翌十一日ニハ長岡ニ泊シ同十二日蒸汽船ニテ新潟ニ着同所二番町秋田屋トカ云フ處ニ一泊シ翌日住吉屋ニ移轉シ二日滯留シ同十六日新潟ヲ發足シ同夜ハ新潟ヨリ一里半計ノ處ニ泊シ其翌日ハ寺泊ニ宿シ夫ヨリ柏崎ニ泊シ同十九日當高田表ニ着シタリト答ヘ其方一人ニテ行キタルヤトノ問ニ對シ三人ニテ行キタリト答ヘ夫レハ誰々ナルヤトノ問ニ對シ井上平三郎風間安太郎自分ノ三人ナリト答ヘ三人ニテ新潟ニ行キタルハ何等ノ主義ニテ行キタルヤトノ問ニ對シ政治ノ改良



ヲ圖ル爲メ參リタリ尤モ單ニ新潟ニ行キタルニ非ラス東京ニ行ク積リニテ新潟ニ立チ寄リタル譯ナリト答ヘ三人ニテ偶然行キタルカ又ハ何ニカ議決シ行キタルカトノ問ニ對シ別ニ議決シタル事ナシ然レ共高田町ノ町田屋ト云フ旅籠屋ニテ三人ニテ酒ヲ酌ミシ事アリ其時日ハ明治十五年十一月四日頃ト覺ヘタリ而テ偶々政治ノ談ニ亘リ供ニ慷慨シ政治ノ改良セサル可カラサル事ヲ思ヒ付キ來ル廿日頃ヲ期シ東京ニ出テ供ニ事ヲ圖ルト約シ其場ハ別レタリト答ヘ改良トハ如何トノ問ニ對シ自分ハ其當時アリテ時勢上ニ感慨ヲ起シタル事アリ其感慨タルヤ抑モ吾カ　天皇陛下カ明治ノ初年ヨリ立憲政體ヲ立ルノ　詔アリ然ルニ立憲政體カ立タス人民カ益々苦痛ノ域ニ陷ユルト想像シテ之ヲ平三郎安太郎等ニ發言セシ處右兩人モ素ヨリ同感ナリト云フテ供ニ當時ノ政治ヲ改良セン事ヲ思ヒ付キ前キノ如ク東京ニ出ル事ニ約シタリト答ヘ東京ニ出ルニ殊更ニ新潟ニ行キタルハ如何トノ問ニ對シ三國街道ヲ經テ行カント存シ新潟ニ出テタリ其主義ハ風間安太郎ヲ同人ノ宅ヨリ迎ヒニ參リ居ル場合ナレハ信州路ハ本道ニ付キ安太郎ノ追手ノ來ラン事ヲ恐レ且ツ政治ノ改良ヲ圖ル爲メニ出京スル事ナレハ其事ノ成ラサル以前ニアリテ發覺スル事ヲ恐レテ間道ヲ撰ミタリ又東京ヘノ爲換高滿數シタルヲ以テ東京ヘハ爲換ヲ組ム事相成ラサルニ付新潟ヘ爲換致シ吳ルヽトノ事ニ付新潟ヘ出テタリ右ハ誰レノ發言ト云フ譯ニ非スシテ三人同感ニ依テ決セシモノナリ此時日ハ十一月九日即チ發足ノ當日ナリト答ヘタリ是ニ於テ此ノ二枚ノ草案ハ誰レノ起草ニアルヤト問ヒ天誅黨旨意書及ヒ天誅黨盟約規則ト記シタル草案ヲ示シタリ其文左ノ如シ

天誅黨旨意書

世運衰頽シ人情輕薄ニ流レ國勢日ニ危殆ニ赴キ義理地ヲ拂フ實ニ痛哭流涕ノ至リ矣奸人佞物要路ニ塞リ其慾ヲ逞フシ私利ヲ之レ營ミ吾人ノ國ハ將ニ賣ラレントス吾人ハ將ニ臣妾タラントスル應ニ近キニアル可シ也故ニ吾人ハ天誅黨ヲ組織シ天ニ交代リ奸人佞人ヲ拂ヒ世運ヲ回シ人情ヲ敦厚ニシ國勢ヲ挽回シ義理ヲ重ンシ吾國家ヲ永遠ニ維持セン事ヲ謀ル幸ニ同志ノ志ハ來リ與セヨ焉

吾黨ハ前陳ノ旨意ニ因リ玆ニ牛耳ヲ執リ盤血ヲ啜リ左條項ヲ誓フ

## 天誅黨盟約規則

### 盟約第一章

苟モ吾國家ニ不爲メモノアル時ハ吾人ハ踵ヲ回サス天ニ代交リ之ヲ誅罰スル事トス

### 同第二章

吾黨ハ義理ヲ重ス故ニ義理ノ爲メニハ身ヲ致ス事ヲ誓フ吾黨ノ人ハ吾黨全體ノ議決ニ依リテハ何等事故アリトモ之レカ實行ヲ辭セサル事

#### 第一條

吾黨ハ何人タリ共前書盟約ヲ守ル事ヲ得ルモノハ黨員三名以上ノ紹介ヲ以テ黨長ニ申込可シ黨長ハ惣黨員ノ是トスルヲ待テ入黨ヲ許ス事アルヘシ

#### 第二條

吾黨ハ定期會ヲ置カス事アル時ハ臨時會同ヲ爲ス故月幾度ナルヲモ顧ミサルモノトス

#### 第三條

吾黨ハ前條ノ如キ場合ヲ保ツ故ニ多額ノ入費ヲ要セス依テ月々五拾錢ヲ黨ニ納ムルモノトス

#### 第四條

吾黨ニ黨長三名ヲ置キ黨事一切之レヲ理セシムル者也

此二枚ハ自分カ起草セシモノニテ右ハ昨年十月末十一月初メニ當リテ時勢感慨ノ餘リ此ノ案ヲ起シタリト答ヘ然レハ新潟ニ行キ夫ヨリ東京ニ赴カントスル決意モ此ノ草案ニ因緣シタル者歟トノ問ニ對シ此ノ旨意書ノ通リ感慨ノ餘政治ノ改良ヲ爲サン事ヲ思ヒ起シタル譯ナリ尤モ盟約規則ト題スル草案ハ直チニ此レヲ履行スルノ意匠ニハ之ナク候右ハ試ミニ寢床ノ中ニテ認メタリ但シ他人ニ示シタル事ハ更ニ之ナク候ト答ヘタリ

又タ明治十六年四月十九日新潟輕罪裁判所高田支廳ノ豫審廷ニ於テ其方ハ昨日ノ訊問ニ高田町ノ町田屋ニテ平三郎安太郎等ノ三人ニテ酒宴中時勢ヲ慷慨シ政治ノ改良ヲ圖ラサルヲ得スト三人同感ナリシヲ以テ其事ニ決シタリト申立タルカ改良トアレハ不良ノ政治アル譯ナルヤトノ問ニ對シ昨日申立タル通リ　天皇陛下ニ於テハ明治ノ初年ヨリ立憲政治ヲ立ツルノ　詔アリタルモ未タ其立憲政體ヲ立テラレサル者ハ必ス要路ニアル處ノ大臣參議カ之レヲ擁蔽スルヲ以テナラン故ニ之ヲ除ヒテ政治ノ改良ヲ圖ラント欲シタリト答ヘ然ラハ之レヲ除ヒテ政治ノ改良ヲ圖ルト云フ者ハ先キニ檢察官ノ訊問ニ町田屋ニ於テ議シタル其精神ハ天誅黨主意書



ニアリト答ヘアリ然ラハ其要路ニアル大臣參議ヲ誅伐スルニアルカトノ問ニ對シ然リ而シテ之ヲ銃殺或ハ暗殺等爲スノ手續ニ於テハ該時ニアリテ決議セサリシナリト答ヘ其方ハ昨日町田屋ニ於テ三人期セスシテ同意ナリシ故東京ニ出ル事ニ決シタル迄ニシテ別ニ議決シタル事ナシト申立タルカ檢察官訊問ノ節議シタル精神ハ天誅黨主意書ニアリト云ヒ然レハ天誅黨ノ主意ヲ議シタルニハ非ラスヤトノ問ニ對シ天誅黨主意書ノ意ヲ以テ議シタルニ相違ナシ然レ共此ノ主意書ハ自分一己ノ草案ニシテ平三郎安太郎等ヘ一覽爲致タル事ハ決シテ之ナク候但シ天ニ代リ誅スルト云フコトハ自分ニ於テ一言モ發シ申サス唯其意ヲ以テ相議シタル義ニ之レアリ候ト答ヘ其方ハ奸賊ノ要路塞ルトカ申立ツルカ又此ノ天誅黨主意書中ニモ奸人佞物要路ニ塞リ其慾ヲ逞フシ私利ヲ之レ營ミ吾人ノ國ハ將ニ賣ラレントス云々トアルカ其要路ニ塞リ慾ヲ逞フシ私利ヲ營ムト云フ者ハ誰々ナリシヤ又タ此ノ末文ニ牛耳ヲ取リ盤血ヲ啜リ云々トアルカ此語ハ則チ盟主トノ意ナルヤトノ問ニ對シ自分ハ其人々ハ誰レ彼レトナク先ツ各省ノ卿以上ノ要路ニアル處ノ者ハ皆奸人佞物ナリト思フタリ依テ此等ノ者ヲ悉ク除カント決シタル議ニテ當時誰レ彼レト區別ヲナシタル者ニ之レナク故素ヨリ人名ヲ今日ニ到リ理ヲ以テ推問ヲ受クルトモ總テヲ奸物ト想像シタル事ニ付皆之レヲ除クト云フノ外ナシ尚牛耳ヲ取リ盤血ヲ啜ル云々ノ事ハ別ニ盟主トナリ誓フト云フ意ニ非ス シテ唯天地神明ニ誓フト云フ意ニテ認メタル迄ナリト答ヘ此ノ天誅黨主意書ノ末文ニ來二月中旬ヲ期シ云々トアルカ此ノ二月中旬ハ本年ノ一月ヨリ指シタル者ニ非ラスヤトノ問ニ對シ否然ラス本年ニ到リ認メタル者ニハ決シテ之レナク昨日申立タル通リ昨十五年十月末カ十一月初メニ當リ認メタル者ニ相違之レナク候ト答ヘタリ

又タ明治十六年九月十四日高等法院豫審廷ニ於テ其方ハ高田支廳ニ於テ一度二度ナラス町田屋ニ於テハ諸省ノ卿以上ヲ斬殺スル等ノ事ヲ談合タル旨申立タリ右ハ如何ナル意匠ニテ申立タルヤトノ問ニ對シ夫レハ自分一己ノ思想ノミニ有之候ト答ヘタリ

又タ明治十六年十一月五日高等法院豫審廷ニ於テ前申立ニ自分ハ東京ニ出直ニ天誅ヲモナス樣ナ精神ニテアリタリト云シカ模糊トシテ確ト定マラヌ申立ナルカ明

白ニ申立ヨトノ問ニ對シ自分ハ出京ノ上是非各省ノ卿以上ヲ天誅スル精神ナリシナリ右直チニ出京ノ上云々ト申立シ直ニトハ東京ニ出テスク其足ニテ天誅ヲナスト申譯ニハ無之出京ノ上尙其用意ヲナシテ天誅ヲ行フ積ト申立ナリト答ヘタリ

右ニ列擧セシ證憑中明治ノ初年ヨリ立憲政體ヲ立ツルノ詔アリタルモ未タ其立憲政體ヲ立テラレサルモノハ必ス要路ニアル處ノ大臣參議カ之レヲ擁蔽スルヲ以テナラン故ニ之ヲ除ヒテ政治ノ改良ヲ圖ント欲シタリトノ供述自分ハ其人々ハ誰レ彼レトナク先ツ各省ノ卿以上ノ要路ニアル處ノ者ハ皆奸人佞物ナリト思タリ依テ此等ノ者ヲ悉ク除カント決シタル義ニテ當時誰レ彼レト區別ヲナシタル者ニ之レナクトノ供述自分ハ出京ク上是非各省ノ卿以上ヲ天誅スル精神ナリシナリトノ供述並ニ被告人ノ發言ヲ以テ井上平三郎風間安太郎ヲ誘導シ共ニ東京ニ出ルノ積リニテ新潟マテ發足シ及ヒ新潟ヘ爲替金ノ取組ヲ爲セシ等ノ摸樣ヲ以テ之ヲ證憑ノ全部ニ照スニ被告事件ハ前文ニ揭ケシ如ク判定ス可キノ證憑充分ナリトス

因テ之ヲ法律ニ照スニ

刑法第百二十三條ニ曰　政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ擧ルニ至ラスト雖トモ內亂ト同ク論シ其敎唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス

刑法第百二十五條ニ曰　兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他內亂ノ豫備ヲ爲シタル者ハ第百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

內亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス

刑法第百二十一條ニ曰　政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スル事ヲ目的ト爲シ內亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一首魁及ヒ敎唆者ハ死刑ニ處ス

二群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス

三兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス

四敎唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

刑法第六十八條ニ曰　國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

一死刑　二無期流刑　三有期流刑　四重禁獄　五輕禁獄

右ノ理由ナルニ因リ高等法院ニ於テ被告人赤井景韶ニ對シ



刑法第百二十三條及ヒ刑法第百二十五條第一項ニ依リ刑法第百二十一條及ヒ刑法第六十八條ニ照シ一等ヲ減シ無期流刑ニ處ス可キ處原諒ス可キ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條第一項ニ重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スル事ヲ得刑法第九十條ニ酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ストアルニ依リ無期流刑ニ二等ヲ減シ刑法第二十三條重禁獄九年以上十一年以下ノ範圍內ニ於テ重禁獄九年ニ處スル者也

明治十六年十二月十七日東京高等法院ニ於テ檢事渡邊驥

檢事武內維積檢事堀田正忠檢事澄川拙三立會宣告ス

高等法院裁判長　判事　玉乃世履
高等法院陪席裁判官　元老院議官　河田景與
高等法院陪席裁判官　元老院議官　林　友幸
高等法院陪席裁判官　元老院議官　渡邊　清
高等法院陪席裁判官　判事　岡內重俊
高等法院陪席裁判官　判事　關　義臣
高等法院陪席裁判官　判事　武久昌孚
高等法院書記　大審院書記　竹端道忠
高等法院書記　大審院書記　荒木龍兆

（明治十七年一月『官令全報』第八十九號）

## ●破獄逃走殺人犯

前揭の松田克之と赤井景韶が脫獄逃走し、克之は翌日捕縛されたが、景韶の行方が不明なので、在朝の顯官連は暗殺を恐れて戰慄し、嚴重探索せしめた結果、大井川橋上に於て捕縛した一件である、後の東京市電氣局長井上敬次郎は『近事評論』編輯人として二年の重刑に處せられ、尙罰金不納のため五百日間禁錮の換刑處分を受けて居るうち相交際したのである

宣告

石川縣加賀國金澤區芳齋町十一番地
士族吉岡正吉郎方同居平民無職業
被告人　松田克之　三十年五月

新潟縣越後國頸城郡高田木築町十九番地
士族無職業
被告人　赤井景韶　二十五年十ヶ月

東京府京橋區新肴町十番地林正明方止宿
熊本縣肥後國熊本區草葉町士族匡養子無職業

熊本之
ノ車ノ丸
サセ　ガ如
ジト　ニ差
處景　底車
リ先　絶ツ
ニ其　ズ仕
別ノ　用ア
慮ス　ハ充
小塚原
ヲ下ル
テ人家
五郎新

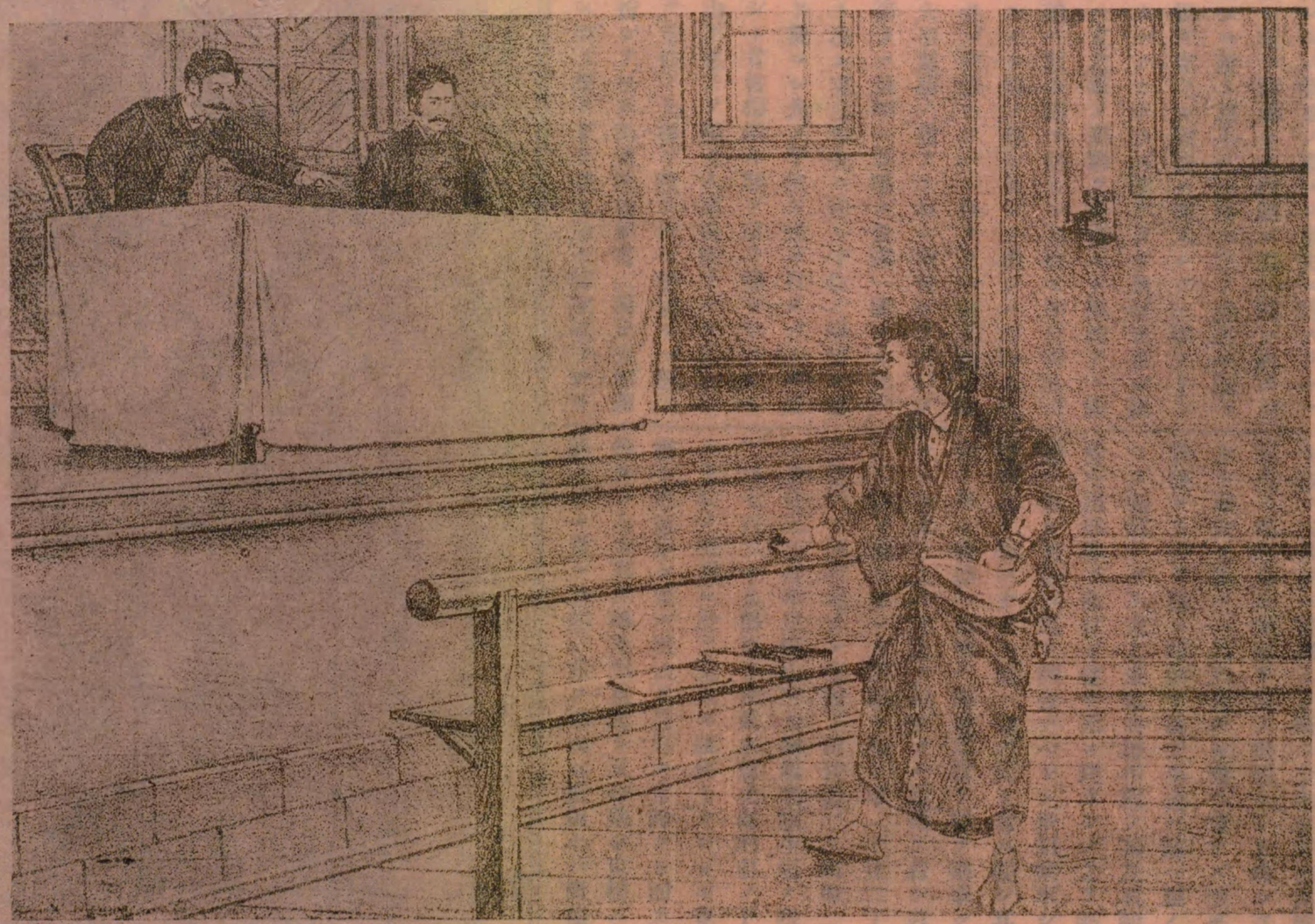
## 被告人　井上敬次郎

二十三年十一ヶ月

右松田克之赤井景韶ガ窃盗脱監逃走謀殺氏名詐稱及井上敬次郎ガ逃走囚徒隱避犯等ノ被告事件ハ檢察官ノ公訴ニ因リ審問ヲ遂グル處被告人松田克之ハ明治十一年七月廿七日大審院ニ於テ故大久保參議殺害事件ニ關スル科ニ因リ除族ノ上禁獄終身赤井景韶ハ明治十六年十二月十七日東京高等法院ニ於テ國事ニ關スル犯罪ニ因リ重禁獄九年ニ處セラレ俱ニ石川島監獄署内ニ在テ服役中克之ハ脱監ノ素志ヲ抱キ景韶ヲ挑發シ終ニ其意氣投合シ明治十七年三月初旬該署鍛冶工場ニ在ル鐵棒丸角二本並ニ物置庫ニアル衣服各一枚宛取出シ監倉ノ床下ニ隱シ置キ而テ同月廿六日午後三時頃景韶ト共ニ室内流シロナル錠ノバネヲモギ斷チ其心ヲ空ニシテ嵌置キ其夜ハ同囚河野廣中等數名克之ノ室ニ談話シ九時ニ至リ一同寢牀ニ就キシヲ視床下ノ鐵棒ヲ取出シ看守ノ透ヲ覗ヒ流シロヲ明ケ脱出シ洗湯場裏ノ牆ヲ踰海岸ニ出テ爰ニテ克之ハ獄衣ノ内襦袢一枚ノミヲ殘シ其他ハ景韶ト俱ニ悉ク之ヲ投ケ棄テ前ニ取出シ置キタル衣服ト着換ヘ豫期ノ暗夜且干潮ニ乘シ徒歩佃島ニ渡リ小舟ヲ捜シ得テ對岸即チ京橋區築地明石町ニ達セシモ元ヨリ一錢ノ所持金アルニアラス因テ景韶ガ同志ノ者越後高田ノ加藤貞明鈴木昌司鳥井和邦等ニ依賴セント其宿所日本橋區本銀町旅人宿越後屋十右衛門方ニ赴ク途中鐵鮑洲通リニ於テ當時氏名不知深川區相川町七番地平民人力車挽宇田川三次郎ガ二人乘ノ空車ヲ挽キ來ルニ會ヒ即チ本銀町迄金拾五錢ト約シ克之景韶ト合ヒ乘シ翌廿七日午前一時頃越後屋ヲ看認メ景韶車ヲ下リ其表戸ヲ叩キ頸城ノ者ナリト稱シ加藤貞明ニ面會ヲ求メシ處折節横濱ニ赴キシ迚不在ヲ答ヘ以テ戸ヲ開カズ依テ景韶カ實弟新村金十郎ヲ其寓所本郷區龍岡町廿二番地旅人宿築地幸右衛門方ニ訪ヒ金調セント同所迄ノ車代合金四十錢ト定メ龍岡町ニ到リ景韶ハ車ヲ下リ又其表戸ヲ叩キ井上平三郎ナリト詐稱シ金十郎ニ面會ヲ求メ而シテ戸内ニ入レリ克之ハ車ニ殘リ車夫ト共ニ外ニ俟ツ景韶ハ金十郎ニ脱監逃走ノ實ヲ告ケ以テ金四十錢ト麻裏草履一足トヲ貰ヒ立出ツ金十郎戸外ニ送リ來ル時ニ景韶回顧シテ云ク今生ノ面會或ハ是レ限リナラン隨分勉强シテ將來立ツ所アレト金十郎モ亦答テ弟不肖且ツ幼年ナリト雖モ他日必ズ國家ニ盡竭スベシ請フ安心アレト言終テ同胞ノ情互ニ悽然訣別セリ左レドモ目的ノ金圓タル僅ニ乘車ノ代ニ過ギザルヨリ殆ンド困却シ於是最前獄裏ニ相識ル京橋區新肴町十番地林正明方ニ止宿スル

工場ニ在ル鐵棒丸角二本並ニ物置庫ニアル衣服各一枚宛取出シ監倉ノ床下ニ隱シ置キ而テ同月廿六日午後三時頃景韶ト共ニ室内流シロナル錠ノバネヲモギ斷チ其心ヲ空ニシテ嵌置キ其夜ハ同囚河野廣中等數名克之ノ室ニ談話シ九時ニ至リ一同寢牀ニ就キシヲ視床下ノ鐵棒ヲ取出シ看守ノ透ヲ覗ヒ流シロヲ明ケ脫出シ洗湯場裏ノ牆ヲ踰海岸ニ出テ爰ニテ克之ハ獄衣ノ内襦袢一枚ノミヲ殘シ其他ハ景韶ト俱ニ悉ク之ヲ投ケ棄テ前ニ取出シ置キタル衣服ト着換ヘ豫期ノ暗夜且干潮ニ乘シ徒歩佃島ニ渡リ小舟ヲ搜シ得テ對岸即チ京橋區築地明石町ニ達セシモ元ヨリ一錢ノ所持金アルニアラ

龍岡町ニ到リ景韶ハ車ヲ下リ又其表戸ヲ叩キ井上平三郎ナリト詐稱シ金十郎ニ面會ヲ求メ而シテ戸内ニ入レリ克之ハ車ニ殘リ車夫ト共ニ外ニ俟ツ景韶ハ金十郎ニ脫監逃走ノ實ヲ告ケ以テ金四十錢ト麻裏草履一足トヲ貰ヒ立出ツ金十郎戸外ニ送リ來ル時ニ景韶回顧シテ云ク今生ノ面會或ハ是レ限リナラン隨分勉强シテ將來立ツ所アレト金十郎モ亦答テ弟不肖且ツ幼年ナリト雖モ他日必ズ國家ニ盡竭スベシ請フ安心アレト言終テ同胞ノ情互ニ悽然訣別セリ左レドモ目的ノ金圓タル僅ニ乘車ノ代ニ過ギザルヨリ殆ンド困却シ於是最前獄裏ニ相識ル京橋區新肴町十番地林正明方ニ止宿スル



裁判圖會（五）　明治二十年出版　末廣重恭著　落葉の掃寄

熊本縣士族井上敬次郎ヲ尋ネ尙ホ調金依賴ニ及バント前後ノ車賃合金七十錢ト極メ復タ合ヒ乘シ車ヲ京橋ノ方ニ向ケサセタリ然ルニ鐵棒ハ初メ乘車ノ際ヨリ車夫ニ認メラレマジト二人均シク注意シ之ヲ懷裏ヨリ股間ニ竪テ隱シ居タル處景韶ガ金十郎ヲ訪フニ當リ車上ニテ窃ニ之ヲ克之ニ返セリ先是車夫ハ筒袖ヲ脫ギ克之ガ股間ニ挿入レタル事アリシニ其手指鐵棒ニ觸レタルノミナラズ面アタリ景韶兄弟ガ訣別ノ情況ヲ目擊シ頗ル克之等ノ擧動ヲ怪訝セシ摸樣アリ顧慮スルニ今又夜中ヲ過キ敬次郎ヲ訪ヒシ迚彼モ亦貞明昌司ガ如ク面會ヲ謝絕スルヤモ測リ難シ果シテ然ラハ即時車代ニ差支ヘ車夫ノ爲メ必ズ密告セラルヽ事アラン由是觀之到底車夫ヲ活シ置テハ大事露顯ノ慮アリ寧ロ殺害シテ其口ヲ絕ツニ如カズト車上窃カニ景韶ニ耳唔ス景韶一儀ニモ及バズ仕方無イヤル可シト決シ克之車夫ニ向ヒ千住ノ緣家ニ要用アリ銀座ノ方ハ之ヲ後ニシ先ヅ千住ニ挽キ行クベシ車賃ハ充分之ヲ取ラス可シト甘言相欺キ則チ道ヲ轉ゼシメシニ小塚原ニ由ラズ却テ山下通リヲ馳セ人家連接ナルヲ以テ手ヲ下スニ由ナク而シテ千住ノ大橋ヲ渡リ行ク事尙ホ一里ニテ人家漸ヤク隔リ右折シテ松戸街道流山最寄（南足立郡彌五郎新田字麴耕地）ニ到リ車ヲ下リ克之云ク緣家近キタリ徒歩シテ行ント車夫モ亦最早天明ヲ俟テ行カント請フ克之等夫モ宜ト答ヘ却テ車夫ノ心ロヲ安カラシメ此際鐵棒ノ丸キ方ヲ復景韶ニ授與セリ時ニ廿七日午前四時頃ナリ景韶ハ車夫ノ提灯及ヒ煙管ヲ借リ喫烟セント爲シ克之ハ且話シ且歩シ車夫ガ僅カ一二歩先チシ機ヲ透サズ懷裏ノ鐵棒ヲ抽テ背後ヨリ力ヲ極メ頭部ヲ擊ツ車夫ハ該一擊ノ下ニ聲ヲモ發セズ絕倒シタリ克之景韶前後相續テ其左右顱頂骨及ビ後頭骨左縫部等ヲ亂打シ遂ニ死ニ到ラシメ之ヲ路傍ノ田中ニ投棄シ再ビ東京ニ返リ調金スベシト景韶乘車シ克之挽ケトモ轉輪意ノ如クナラス故ニ克之代テ客ニ擬シ其單衣ヲ脫シ景韶ノ袷ト着換ヘ景韶ノ麻裏草履ヲ穿テ乘車シ景韶ハ其交換セシ單衣ノ上ニ車夫ノ殘シタル筒袖ヲ着シ以テ車夫ニ裝ヒ二三町ヲ挽キ來レ𪜈天明ニ及ヒ車（千住二丁目平民石川磯右衛門ノ所有地ナル字四丁田住邊）ト鐵棒二個ハ之ヲ（一ハ千住三丁目平民横山宇太郎居宅脇生垣ノ根ニ一ハ千住五丁目七百二十九番地平民荒木惣次郎宅前ノ下水中ニ）打捨テ千住ノ町境ニ於テ憲兵ニ誰何セラレシモ克之ハ水戸ノ貧書生也東京ニ至ル旨云々程好ク言紛ラシ而テ同町端ニテ客待セシ人力車ヲ得景韶克之ト又合乘シ京橋ニ向ヒ大橋ヲ經過スルニ當リ景韶ハ前ノ車夫ガ遺留セシ筒袖ト克之ガ着來

リシ襦袢ノ獄衣ヲ合セテ橋下ニ投棄シ同日午前六時頃京橋區新肴町ニ井上敬次郎ヲ訪ヒ克之ハ詐テ杉村虎一ト稱シ面會シ逃走ノ情ヲ明カシ景韶ハ形容ノ醜キヲ告ゲ現場ニ於テ衣類並下駄ヲ處望シ且調金ヲ依賴シ銀座一丁目九番地鷄肉屋今廣方ニ到リ喫飯セリ姑クシテ敬次郎金三圓ヲ調來リ景韶ニ授與セシニ影韶ハ之ヲ少數也トシ更ニ敬次郎ニ囑シ前ノ越後屋ニ赴キ加藤貞明鈴木昌司等ニ面會調金ノ事ニ及ヒ友人宮部襄小勝俊吉カ住所ノ聞合ヲ依賴シ同日夕神田鷄肉屋今金方ヲ期シテ相別レ克之景韶ハ今廣ヲ出テ南槇町海水浴場所在ノ家ニ轉シテ一席ヲ借リ終日前途ヲ計畫シ克之ハ越後高田ニ景韶ハ加州金澤ニ各自潛匿ノ見込ヲ爲シ景韶ハ克之カ爲メ井上平三郎宛ノ書翰ヲ作リ且金一圓ヲ分配ス既ニシテ日暮ト爲リ互ニ路ヲ異ニシ今金ニ到レハ敬次郎モ亦約ノ如ク來會シ貞明昌司カ無情ナル樣子金談不行屆ノ顚末ヲ告ケ三人俱ニ喫飯シテ同所ヲ立出テ學習院ノ門前ニ於テ克之ハ强テ敬次郎ノ着シタル羽織ヲ所望シ之ヲ着シ相別レ下板橋ニ到リ疲勞甚キヲ以テ石川縣川北郡金岩町十二番地鍛冶職野村時次郎ト詐稱シ同所安泊松村ミネ方ニ投宿ノ所即夜巡査ニ取押ヘラレタリ景韶ハ常盤橋邊ニテ敬次郎ニ別レ同夜內藤新宿ニ到リ長野縣信濃ノ國飯山ノ平民佐藤由藏ト詐稱シ氏名不知安泊ニ一泊シ翌二十八日同所ニ於テ莞莚一枚笠一蓋ヲ購求シ頓ニ形容ヲ變シ徒步シテ廿九日ニ至リ路金既ニ盡キ喫飯スル事能ハス漸ク郡內ニ着シ茶店ニ憩ヒ山梨縣南都留郡寶村ノ內大幡組大幡學校雇敎員ニテ愛知縣士族林信章ナル者ハ交際粗廣ク時トシテ書生體ノ者尋訪スル趣ヲ聞キ乃チ飯山平民佐藤由藏ト稱シ信章ヲ訪ヒ數日間寄食セシモ往々困窮ノ餘リ僧侶ト爲リ一時ヲ凌キ生活セント信章ニ賴リ同村曹洞宗廣敎寺住職鷹島智擧カ法弟ト成リ剃髮シテ名ヲ擧龍ト改メ姑ク該寺ニ在リ其後同村岩村斌等ノ周旋ニテ安田勇吉方ニ寓シ二三ノ生徒ニ敎授シ數週日ヲ經過スル中其形跡ノ發露セン事ヲ慮リ明治十七年八月十四日同所ヲ辭シ更ニ飯山平民山田賢治ト稱シ靜岡縣下ニ到リ其翌九月八日島田驛淸水綱義ヲ訪ヒ滯留二日ニシテ十日ニ至リ遠州濱松ニ赴カント欲シ綱義ニ告別ス綱義モ亦川向ニ所用アル旨ヲ以テ同日午後二時頃同伴シテ大井川橋際ニ係リシ時忽チ警察官ノ爲メニ捕縛セラレタルモノナリ

被告人井上敬次郎ハ明治十三年十一月八日新聞條例違犯ノ科ニ因リ東京裁判所ニ於テ禁獄二年罰金五百圓ニ處セラレ石川島ニ入獄シ同十七年三月廿二日滿期放免ノ身ト成リ京橋區新肴町十番地林正明（舊近事評論共同社長）方ニ歸リ來



ル前一夕松田克之赤井景韶其他數名ノ者ト留送別ノ意ヲ寓スル爲メ監中ニ團欒シ豆若クハ芋類ヲ喫シ互ニ多年鐵窓下ノ情誼ヲ談話シテ相別レタリ然ルニ其廿七日早天尙ホ寢牀ニ在リシニ克之ハ杉村虎一ト僞名ヲ通シ面唔ノ上其脫監逃走ノ情ヲ容レ且ツ景韶カ所望ニ任セ衣類一枚ト下駄一足ヲ與ヘ更ニ克之景韶ヲ寓所脇ノ小路ニ誘致シ速カニ府外ノ地ニ潛伏スヘキ旨慫慂スルノミナラス剩ヘ景韶ヨリ調金ノ依賴ヲ受ケ乃チ後刻銀座一丁目鷄肉屋今廣方ニ會セン事ヲ約シ相別レ而テ直チニ芝區兼房町川松町ニ止宿スル三輪正次ナル者ヲ訪ヒ金三圓ヲ借リ受ケ今廣ニ到リ景韶ニ授與セシ處景韶ハ其額ノ僅少ナルカ爲メ更ニ日本橋區本銀町越後屋十右衛門方ニ止宿スル同縣人加藤貞明、鈴、木、昌司等ニ就キ調金セン事ノ依賴ヲ爲シタルニ之ヲ諾シ同日夕ヲ以テ神田ノ鷄肉屋今金方ニ再會ヲ期シテ相別即日午前越後屋ニ赴キ昌司ニ面唔シタルモ景韶カ事ニ就テノ相談トナラハ貞明モ俱ニ一切謝絕スル旨答フルヨリ詮方ナク空シク歸リ來リ日暮ヲ待チ約ヲ踐ミ今金ニ到リ克之景韶ニ面會シテ昌司等カ接遇ノ薄キ事ヲ告知シ小酌後俱ニ同所ヲ立去リ錦町學習院門前ニ於テ所着ノ木綿羽織ヲ脫シ之ヲ克之ニ與ヘ爰ニテ克之ニ別レ常盤橋邊ニ來リ又景韶ニ相別タル顚末ナリ

實事實ハ當公判廷ニ於テ朗讀シタル川畑典獄通牒書看守和久井銹治ノ手續書新村金十郎カ豫審調書廣敎寺住職鷹島智擧武井深等ノ訊問調書證人三田眞五郎亡宇田川三次郎妻シン醫師猪狩精等ノ證言及ヒ被告人克之景韶敬次郎カ任意ノ自白幷ニ一箇ノ鐵棒草履等ニ徵シ即チ窃盜脫監逃走謀殺氏名詐稱兇徒隱避等重輕罪犯ノ證憑充分ナル者ナリ

法ヲ案スルニ被告人克之景韶カ所爲タル俱ニ刑法第百四十二條第二項第二百九十二條第三百六十六條第三百六十九條第九十二條及ヒ明治十五年警視廳甲第三號違警罪目追加十九ニ該當スルモ數罪俱發ニ係ルヲ以テ同法第百條第百一條ニ照シ一ノ重キ第二百九十二條謀殺ノ罪ニ依リ克之景韶ハ共ニ死刑ニ處ス而シテ被告人井上敬次郎カ所爲ハ刑法第百五十一條ニ當ルヲ以テ同條及ヒ同第六十六條第七十條ニ依リ輕禁錮一年三月ニ處シ罰金二圓五十錢ヲ附加ス

犯罪ノ用ニ供シタル鐵棒二箇ハ監獄署ニ還附ス

明治十八年六月九日東京重罪裁判所公廷ニ於テ檢事東野秀彥立會宣告ス

裁判長判事　北代　正臣
陪席判事　和田　收藏
同　判事　木村喬一郎
書記　眞山　綾人

# ●支那人を殺せし巡査

裁判言渡書

熊本縣肥後國山本郡植木町第四十三番地
平民長崎縣新地警察署詰巡査
被告人　峯●　進●
三十九年九ヶ月

右被告人に對する毆打創傷の事件長崎輕罪裁判所豫審判事豐島篤次が本衙に移すの言渡に依り公訴を受け當法廷に於て檢事河野通倫の陳述を聽き長崎輕罪裁判所審廷に於て爲したる證人稻次正足山中熊次郎宮津吾八江口峯吉小川省次郎村上宗碩黑田林次郎櫻木善吉園田卯七郎長崎病院治療係公文與吉郎其他松尾しめ英國人レンウキック並に事實參考人清國人陳德錐陳德玉陳天贈林利哲黃紅弟魏鵬程の訊問調書家宅臨檢調書家宅搜索調書清國巡捕許熙平の訊問調書並に英國醫師レンウキック及び長崎病院の診斷書等を朗讀せしめ證人山宮謙次郎重松三郎橫瀨富太郎清國人蕭烏墨の陳述被告人の答辯々護人の辯論を聽き證據品なる巡査山宮謙次郎の刀劍等に依り被告事件を審案するに被告人峯進が明治十六年九月十五日午後第七時三十分頃探偵專務の職を以て部內を巡視したる際長崎縣長崎區外國人居留地新地町第二十四番館即ち清國人陳德錐の家宅內に於て清國人二名が阿片煙を吸食するを瞳見し其旨所屬新地警察署に報告したるに同署詰巡査部長警部補稻次正足は直に其吸烟者を引致すべき旨を同人及び巡査江口峯吉外三人に命じたり於是被告は巡査江口峯吉外三名の嚮導をなし共に該家宅に立越し巡査江口峯吉は吸烟器具數品を押收して携帶し去り同山宮謙次郎山中熊次郎宮津吾八は其吸烟者たる清國人陳德玉外一名を差押へ戶外に引出し途中新地町河岸に於て强力相爭の際被告人峯進も是が助勢をなし適ま中秋月祭の夜に當り近隣に清國人民群集したりし者ありて之を聞知し馳來り其引致する所の清國人を劫奪せんとし遂に一場の鬪爭を湧出す被告人峯進は之を制止せんとし爲めに負傷せられたるに因り傍らに在りし巡査山宮謙次郎の佩劍を拔き取り其拔劍を揮ひ清國人魏亦鰲が左胸部前後に二ヶ所の重傷をなし因て死に至らしめ且陳天贈が左の前腕外側部に負傷せしめ爲めに二十日以上の疾病に罹らしめ及び黃紅弟が下顎と面と下顎諸節部に各一ヶ所林利哲が胸側と左小指球部とに負傷せしめ又陳德玉が小指球部に一ヶ所の創傷を負はしめたるも二十日疾病に至らざるものと判定す



尤も被告人及び辯護人に於ては清國人の吸烟者を當場査拏したるは當行の職務なるに清國人は之に抵抗したるのみならず剩へ之を掠奪せんとし相爭の際危急に迫り身體生命を正當に防衛し已むを得ざるに出たるものなりと陳辯せり然るに阿片烟の吸食者を瞳見し當場査拏するの行爲は其當行の職務に屬すと雖ども清國人等之に抵抗し其危急被告人の身命に迫り已むを得ず正當の防衛に出たるとの申立は其證跡判然せず當時追擊清國人が目的とする所は引致せらるゝの清國人を奪取するに外ならず然らば現に引致せざる被告人に對し生命に關するが如き兇行を加ふるの理あらん乎故に被告人が清國人を負傷せしめたるは危急身に迫り已むを得ずして身體を正當に防衛したりとの陳述は當法廷の取らざる所なり唯被告人が受けたる打撲傷を檢したる長崎病院の診斷書及び證人村上宗碩の調書並に引致人を奪取せられたる事實と證憑とに據れば其所爲素より企て創傷をなしたるものに非ずと爲す彼の多人數なる追擊者に比すれば出張の巡査人數僅少にして且其事夜中に湧出するを以て被告人の心中に於ては當時實際の危難よりは甚だ大なる危難なりと臆測し殊に打撲の故を以て一層の怒心を奮起し右の行爲に及びたるものなり因て被告人峯進が所爲に對しては左の法律を適用す可きものなり」刑法第二百九十九條に云く人を毆打傷創し因て死に致したる者は重懲役に處す」同第三百壹條に云く人を毆打創傷し二十日以上の時間疾病に罹り又は職業を營むこと能はざるに至らしめたる者は一年以上三年以下の重禁錮に處す」其疾病休業の時間二十日に至らざる者は一月以上一年以下の重禁錮に處す」疾病休業に至らずと雖ども身體に創傷を成したる者は十一日以上一月以下の重禁錮に處す」同第百條に云く重罪輕罪を犯し未だ判決を經ず二罪以上俱に發したる時は一の重きに從て處斷す同第三百九條に云く自己の身體に暴行を受くるに因り直に怒りを發し暴行人を殺傷したる者は其罪を宥恕す云々」同第三百十三條に云く前數條に記載したる宥恕す可き罪は各本刑に照し二等又は三等を減ず」同第六十七條に云く重罪の刑は左の等級に照らして加減す　一死刑　二無期徒刑　三有期徒刑　四重懲役　五輕懲役」同第六十九條に云く輕懲役に該る者減輕す可き時は二年以上五年以下の重禁錮に處するを以て一等と爲す云々」右の理由なるを以て被告人峯進に對し數罪中一の重き魏亦鰲を創傷し因て死に致したる罪に從ひ右第二百九十九條及び第三百九條に照し其本刑を宥恕し二等を減じ即ち重禁錮二年以上五年以下の範圍內

を以て五年の重禁錮に處することを言渡す者也（但し犯罪の用に供したる佩劍は刑法第四十四條に因り其所有主へ還付す裁判費用は同第四十五條に基き被告人に於て渾て擔當す可し）

明治十七年一月二十四日長崎重罪裁判所に於て檢察官河野通倫立會の上宣告す

裁判長判事　西岡　逾明
陪席判事　竹野　敏行
陪席判事　松下　直美
書記　宮口　鼎
書記　萬木　繁實

（同月三十日『朝日新聞』第千四百八十一號）

## ●代言人試驗問題竊盜事件

裁判言渡書

東京府日本橋區濱町二丁目十二番地寄留
熊本縣肥後國熊本區新堀町二百五十八番地
士族無職業　佐藤丑三
二十五年五月
東京府日本橋區兜町四番地寄留
長野縣信濃國南安曇郡東穗高村四百二十番地
平民著述編輯業　松澤求策
三十年
東京府神田區駿河臺西紅梅町二番地寄留
長野縣下信濃國伊那郡中村二十七番地
平民無職業　岩崎亨一郎
三十五年六月
東京府京橋區南金六町十四番地居住
同府麴町區飯田町五丁目三十二番地
士族無職業　三好貫一郎
四十年三月
同府京橋區南金六町十六番地小林みね方寄留
岡山縣備前國上道郡國富村番地不明
士族無職業　物部照英
二十八年十月

右竊盜及び盜贓寄藏犯事件判決する左の如し

被告佐藤丑三は大藏省印刷局活版課に在て校正掛を勤務中明治十八年二月二十日同僚瀨端多喜智より司法省廻り明治十八年春期代言人試驗問題試刷紙の校正濟九葉を受取たる末秘密書類函に相納むべきを當時何氣なく己が擔當の文庫中に投入し而して同月廿五日より自宅に引籠中曾て松澤求策より岩崎亨一郎が每期代言人を出願するも每に其試驗に落第して今に其志望を果さず宜しく印刷局勤務の人に依らば或は竊に試驗問題を視ることを得られんとて其周旋を託されしが眞にさる事の出來べきや否の尋問受けし事を案出し之を被告松澤求策に報知せし處ろ求策は丑三の手に該問題のあるを僥倖とし竊に之が取出方を委托せしより丑三は初て爰に意を決し同月中旬不詳自己の所有物取下として印刷局へ出頭せし際試刷紙を所有物に混入し竊に之を取來りたるものなり即ち求策は竊盜を敎唆し丑三は其敎唆に依て竊盜の罪を犯したるものと認定す

又被告岩崎亨一郎三好貫一郎物部照英三名は共に相謀り前顯佐藤丑三が印刷局より竊取したる明治十八年春期代言人試驗問題の試刷紙たる情を知り明治十八年三月中之を自宅に差置き或は代言人志願者に之を洩して不義の利益を僥倖せんとなしたるものにして即ち盜贓寄藏の罪あるものと認定せり

以上の事實は司法警察官の作れる檢證並に被告各自の訊問調書大藏省一等技手西田廣規印刷局活版工手關政恒の證言被告丑三が印刷局へ差出したる始末書及び現在の試刷紙は春期代言人試驗問題に相違なきこと野崎城雄の手續書櫻間要三郎外一人より司法卿に宛たる密告書櫻間要三郎增田定吉の訊問調書丸山名政福田芳五部松澤きぬ等の始末書大藏省印刷局より警視廳第二局へ宛たる回答書及び巡査中島義一の探偵手續書等を以て其證憑充分なりとす

因て之を法律に照すに佐藤丑三の所爲は刑法第三百六十六條第三百七十六條に該し松澤求策の所爲は同第百五條に依り第三百六十六條第三百七十六條を適用すべきもの岩崎亨一郎三好貫一郎物部照英の所爲と共に刑法第三百九十九條及び第四百條に該當すべきものとす

右の理由なるを以て犯情を量り被告佐藤丑三松澤求策を各重禁錮一年に處し十月の監視に付す被告岩崎亨一郎三好貫一郎物部照英を各重禁錮一年六月に處し罰金十五圓を附加し一年の監視に附するものなり

但し現在の試驗問題試刷紙九葉は大藏省印刷局へ還付す

明治十八年五月三十日東京輕罪裁判所に於て檢事補千葉小佐平立會宣告す

判事補　葛葉正道
書記　山本昌則

（同年十月十六日『繪入自由新聞』第八百五十五號）

## ●米商會所頭取の賭博犯

去る九日日本橋區蠣殼町の福井亭に於て賭博を爲せし廉により其筋へ拘引されたる米倉一平は一昨十六日左の通り宣告さる其連類なる本郷區湯島三組町の米商石崎政藏（四十一年六月）及び蠣殼町二丁目野波七藏妻こう（三十五年九月）も同樣の刑に處せらる

東京府深川區西元町一番地平民
米商會所頭取　米倉一平
五十一年三月

右ニ對スル賭博罪ノ事件審理ヲ遂クル處其方儀本月九日野波七藏宅ニ於テ花合セヲ爲シタルハ一時ノ戲ムレニシテ金錢ヲ賭シタルニ非サル旨抗辨スルト雖モ第一巡査山上庫之輔外五名現場ニテ捕獲シタル證明書第二共犯人野波コウ石崎政藏カ久松町警察署ノ訊問調書並當廳ニ於テナシタル供狀第三現ニ差押ヘタル碁石花札赤毛布及ヒ政藏コウノ授受セシ金員等ノ各證憑ニ依レハ其方ハ明治十九年三月九日午後四時頃ヨリ東京日本橋區蠣殼町二丁目十五番地料理渡世野波七藏宅西洋室二階ニ於テ野波コウ石崎政藏ト申合セ碁石一個ヲ十錢ト定メ花札ヲ以テ賭錢博奕ヲナシタル事實明白ナリト認定ス依テ之ヲ法律ニ照スニ明治十七年第一號公布賭博犯處分規則第一條ニ賭博ヲ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及ビ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ストアルニ該ル右範圍內ニ於テ懲罰三月科料金五十圓ニ處ス

但差押タル碁石花札赤毛布ハ第二條ニ依リ沒入ス

明治十九年三月十六日　警視廳

（同月十八日『郵便報知新聞』第三千九百二十七號）

## ●藝妓の箱屋殺し

裁判言渡

東京府京橋區日吉町九番地平民
花井ムメ
二十四年

右花井梅ニ對スル謀殺被告事件檢察官ノ公訴ニ依リ審問ヲ遂グル處

被告梅ハ明治二十年五月十四日日本橋區濱町二丁目十三番地ニ於テ實父花井專之助名義ヲ以テ醉月樓ト稱スル待合茶屋ヲ開店セシ爾來其營業上事ニ付專之助ト互ニ意見ノ異多カリシヨリ數回紛紜ヲ生ジタル末專之助ハ一旦同樓ノ家事ヲ被告ニ任セタルニ明治二十年五月二十七日朝專之助ハ再ヒ自分家事ヲ處理セント申聞突然其門戸ヲ鎖且休業ノ札ヲ張出シタルヨリ被告ハ此所爲ニ堪得ズシテ直ニ自家ヲ立出夫レヨリ荏原郡池上ノ溫泉明保野樓京橋區木挽町長谷川ヽ根岸溫泉業久永ヤス日本橋區米澤町福田屋事石崎アサ方等ノ各所ニ宿泊シ其間歸宅ノ念止サリシモ直ニ歸宅ナスニハ右ノ事情アルヨリ川村某ナル者ニ托シ其事ヲ計畫シタルモ其意ヲ達スルノ場合ニ至ラス殆ト窘究身ヲ措處無キ思ヒヲナシ茲ニ於テ倩考フルニ峰吉事八杉峰三郎ハ被告ガ曾テ京橋區日吉町ニ於テ秀吉ト稱シ藝妓タリシ頃ヨリ雇置尙引續醉月樓ニ傭人トナシ置キ從來被告ガ恩義ヲ蒙ラシメシ事尠カラザルニ反テ近頃ニアツテハ兎角被告ヲ疎ジ表面專之助ヲ助クルヲ名トシテ一己ノ利欲ヲ計ルヨリ今日斯ク父子間不和合ノ調和セザル事ト思考シ怨恨ヲ措ク不能明治二十年六月八日ニ至テ被告ハ福田屋方ニアリテ欝悒ノ餘リ寧ロ峰三郎ヲ殺害セントノ念ヲ起シ其翌九日午前ニ在テ歸宅ノ計畫ヲ托セシモノヨリハ仲裁ノ事ヲ謝絕セラレ又福田屋主人石崎アサガ醉月樓ニ至リ被告ガ歸宅ノ事ヲ談ゼントセシニ專之助ハ不在ニシテ峰三郎ガ被告ノ歸宅ヲ拒ム語氣アリシ事ヲアサヨリ聞知リ茲ニ於テ被告ハ淺慮ニモ峰三郎ヲ殺害セント決意シ其日午後二時頃事ニ托シ福田屋ヲ出日本橋區新葭町古銅鐵商巢合緣方ニ於テ出及庖丁ヲ購求シ夫ヨリ京橋區八官町八番地平民小川八重方ニ至リ明十日大坂ヘ出發スルトノ事ニ托シテ暗ニ訣別ノ意ヲ表シ曾テ八重ヨリ借受タル煙草入ヲ返シ紙入金圓等ヲ本阿彌某ヘ送ラン事ヲ依托シ夜ニ入リ同家ヲ立去リ前顯ノ出及庖丁ヲ携ヘ同夜九時過醉月樓ノ近傍ニ至リ辻待ノ車夫ヲシテ峰三郎ヲ呼出サシメ暫クアリテ峰三郎ノ來リシニ出會ヒ同人ヲ濱町二丁目橫丁ヘ誘ヒ行峰三郎ニ對シ被告ノ歸宅ヲ妨グル事ヲ語リ携フル所ノ出及庖丁ヲ以テ峰三郎ノ右脊第十一肋骨下緣ヲ刺シ峰三郎ハ其夜爲メニ死亡シ被告ハ右庖丁ヲ携ヘ日本橋區久松町警察署ヘ自首シタリ

右事實ハ豫審判事ノ檢證調書醫師ノ死體診斷書證人長谷川スヽ河野實成石崎アサ同トク小川八重同重河村傳衞巢合緣岩森伊三郎松田ふじ等ノ證書參考人本阿彌三五郎花井專之助ノ陳述犯罪ノ用ニ供シタル出及庖丁押收シタル物品並被告ガ豫審及當法廷ニ於テノ陳述等ニ徵シ其證憑充分ナリトシ之ヲ法律ニ照スニ被告ノ行爲ハ刑法第二百九十二條豫メ謀ツテ人ヲ殺シタルモノハ謀殺ノ罪トナシ死刑ニ處ストアルニ該當ス依テ死刑ニ處スベキノ處原諒スベキ情狀アルヲ

以テ同法第八十九條第九十條ニ照シ本刑ニ一等ヲ酌減シ被告梅ヲ無期徒刑ニ處スモノナリ

但シ犯罪ノ用ニ供シタル出刄庖丁ハ刑法第四十三條ニ依リ没收シ押收シタル衣類數品ハ治罪法第三百八條ニ依リ各所有主ニ還付ス

明治二十年十一月二十一日於東京重罪裁判所檢察官檢事岩田武儀立會宣告ス

裁判長　控訴院評定官　小杉　直吉
陪席　控訴院評定官　永井岩之丞
陪席　控訴院評定官　古宇田美鼎
裁判所書記　内田　正雄

（同月二十二日『繪入自由新聞』第千四百十八號）

當時花井お梅の箱屋殺しといふ繪草紙は幾版も出來、女が出刄庖丁を振り上げて居る繪を見れば、子供までが「これはお梅だ」と合點するほどであつた、翌二十一年の四月には、河竹默阿彌の作『月梅薫朧夜』といふ題で演劇に仕組まれ、尾上菊五郎中村福助等が中村座での興業は大當りであつた

（明治奇聞）

## ●伊藤博文井上馨を誹議す

朝鮮政府の顧問　（明治舌禍史資料）

裁判言渡書

廣島縣備後國深津郡野上村
第八十七番地居住平民無職
井上角五郎
二十七年八ヶ月

右井上角五郎に對する官吏侮辱被告事件審理を遂る處被告角五郎は朝鮮政府に雇はれ明治十八年四月中伊藤、井上兩參議を侮辱せんがため其職務に關し無實の事を構造し朝鮮國外衙門即ち公廨に於て外衙門督辨金允植同主事鄭秉夏又は其他の造に對し公告するの意旨を以て之を演說したる主趣は

一　昨年五月中日本をして德、法兩國の密約に云々其實は伊藤、井上の兩參議が之を善としたる而已日本政府の知らざる所なり

一　昨年七八月以來法國と支那の戰ひたる時云々日本政府の知らざる所なれば伊藤、井上兩氏大に苦しめり

一　伊藤、井上の兩氏が獨り國政を擅まゝにせん事を圖るも未だ曾て其初志を棄てず是を以て釁を朝鮮に開かんと欲し云々

一　某氏が特に衆人に告げて云々當時朝鮮の識者が皆其擧動を訝る實は井上氏之をして然らしむるに係るなり

一　同十二月十四日變あり朝鮮人某々舊と謀ごとありと雖も安んぞ六大臣を殺すに至らんや而して終に之を殺したるものは云々然らば則ち昨年十二月の變其責に任ずるものは伊藤、井上の兩氏に非ずんば果して誰ぞや

一　伊藤、井上の兩氏法國の報を傳聞し云々進退維谷まり云々然るに兩氏は日本參議中最も智謀あるものなり將さに復た一策あらんとす爲朝鮮者豈に畏れざるべけんや

右の事實は即ち公然の演說を以て官吏の職務に對し侮辱したるものと認定す其證憑は被告人が當公廷に於ての陳述豫審判事警察官が作りたる被告人の調書被告が自作自筆なりと見認めたる筆談書及び參考文書即ち高平公使より外務省へ送りたる伊號、呂號並に甲、乙、丙號に依り充分なりとす

因て之を法律に照すに刑法第百四十一條第二項に該當するを以て其第一項に照し重禁錮一月以上一年以下附加罰金五圓以上五十圓以下の範圍内に於て被告井上角五郎を重禁錮五月に處し罰金三十圓を附加するものなり

明治二十一年八月一日東京輕罪裁判所に於て檢事福原直道立會宣告す

始審裁判所判事　三浦　芳介
裁判所書記　柴　茂三郎

（同月二日『讀賣新聞』第四〇七二號）

先に東京輕罪裁判所に於て官吏侮辱罪の宣告を受けたる同氏は此の裁判に服せずして控訴に及ひしに付き東京控訴院に於ては去る一日より其の公判を開きしが傍聽を禁じたるを以て其の模樣を知るに由なし然るに氏は管轄違ひの申し立てを爲したるものと見へ去る三日左の通り宣告されたり

（擬律の處刑不服控訴も亦同月十九日棄却された）

被告人　井上角五郎

右井上角五郎ノ官吏侮辱被告事件ニ付キ本案ハ朝鮮國即チ外國ニ在リテノ所爲ニ係ルヲ以テ本邦裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ者ニアラストノ理由ヲ以テ被告角五郎ヨリ管轄違ノ申立ヲ爲シタリ因テ審案スルニ本案被告事件ノ趣旨ハ被告角五郎カ朝鮮國在留中本邦官吏ノ職務ニ對シ侮辱ヲ加ヘタリト云フニ在リ然レハ本邦人カ外國ニ在リテ本邦人ニ對スル罪ヲ犯シタリトノ被告事件ナリトス茲ニ本

邦ト朝鮮國ノ條約文ヲ閲スルニ其第十欵ニ於テ朝鮮人ニ交渉スル事件ト雖モ本邦人ノ犯シタル罪ハ本邦ノ法律ニ依リ且本邦裁判所ノ裁判權ニ委スルノ明文アリ況ヤ外人ニ交渉ナキ事件ニ於テヲヤ其裁判權ノ本邦裁判ニ屬スルヤ疑ヲ容ル、處ナキモノトス又我治罪法第四十五條ニ外國ニ在テ犯シタル罪日本國ノ法律ニ依リ處斷スヘキ者ニシテ內地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタルトキハ逮捕ノ地ヲ以テ其管轄ナリトス云々此事件ニ付キ被告角五郎ノ逮捕ヲ受ケタルハ東京輕罪裁判所管內ニアレハ東京輕罪裁判所ヲ以テ適法ノ管轄ナリトス然レハ其控訴ヲ當院ニ於テ管轄スルハ素ヨリ適法ニシテ動カス可ラサルモノトス因テ管轄違ノ申立ヲ棄却スル者也

明治廿一年十月三日東京控訴院公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會言渡ス

東京控訴院刑事第一局

控訴院評定官　鳥居　斷三
陪席評定官　木村喬一郎
同　高野　孟矩
裁判所書記　岩佐松太郎

（同月六日『郵便報知新聞』第四七〇九號）

## ●暗殺者を故殺せし者

森文部大臣の刺客西野文太郎を殺害したる文部屬座田秀重氏が其筋へ拘留せらるゝや其所爲の罪と成ると成ざるとに關しては最も世人の注意を引き論評非常に喧すかりしが東京輕罪裁判所に於ては松岡判事が掛りにて豫審を遂げたる末一昨々日午後五時免訴放免の申渡を爲たり其豫審言渡書は左の如し（西野文太郎の背部に刀創があつたので逃げ去らんとせし者を追ひかけて斬り殺した故殺犯者なりと云ふ世評もあつた）

豫審終結言渡書

東京府麹町區永田町一丁目十九番地居住士族
文部屬　座田秀重　四十四年三月

右座田秀重に對する故殺被告事件に付き被殺人西野文太郎死體の創所殺傷の場所殺傷の用に供したる器物又は衣類醫師の鑑定書を檢し被告人外證人を訊問し審理を遂げたる處被告人座田秀重は文部大臣森有禮の秘書官附にして常に森大臣に隨伴し事に從がふを以て勤めとせりときに明治二十二年二月十一日午前八時森大臣參朝の期に際し神田區今川



小路二丁目七番地寄留山口縣士族西野文太郎なる者麹町區永田町二丁目十九番地森大臣邸に到り本日大臣を途上に於て要擊せんと企つる徒あり其徒の密計を漏聞せしを以て急に之を大臣に告げたき爲めに面謁を乞ふとの事に付き守衛掛りの警官一面は西野に事情を尋問し一面は警戒に奔走し被告人も亦豫て貯ふる所の仕込杖を自宅より取寄せ大臣に隨伴の用意を爲す等西野に接する者漸次に其場を去り森家の家扶岡本清遠獨り西野に對し其來意を謝し併せて大臣の面謁を斷りたり因て西野は應接所を立去らんとする折柄森大臣は參朝のため應接所間近まで莅み來りしとき西野は邂逅せりこの時西野は忽焉大臣に飛付き其右側面より左手にて大臣の腰部を摑み右手にて急に隱し持たる所の出刄庖丁を取て其腹部右側に刺し込みたり岡本清遠は大臣を救はんと自己の體を挺じ西野の右側より組付き三人巴狀の如く揉合つゝありしとき被告人は仕込杖を拔き間隙を窺ひ一刀西野の背部に切付けたれども其創輕うして西野は之に屈せず尙ほ大臣の上衣の腰部を堅握して敢て放さず岡本は甲乙の間に割入り西野を押除けんとするや西野は右の如く背部を切られて一聲相叫び大臣を刺したる出刄庖丁を拔て之を振上げ岡本若くば大臣を切らんとするの場合時機緊要の際に臨み大臣は其危害を避けんと其體の方向を轉じ適ま甲乙の間稍や開くや被告人は西野の前面より一刀其顱頂部へ切付け二の太刀を以て西野の左側面より其頂頭部へ切込や否や西野は大臣を摑みたる手を離し岡本が西野を押除けんとせし餘勢にて西野は忽ち仰向けに其場に斃れたり

其第一刀は現に西野が大臣の腹部を刺し危害切迫の時機に投じ

其第二第三刀は大臣又は岡本の生命に係る目前の危害を救ふに於て共に止を得ざるの時機に在りて他人のために正當に防衛をなしたるものとす因て之を法律に照すに刑法第三百十四條に身體生命を正當に防衛の已むを得ざるに出で暴行人を殺傷したる者は自己の爲にし他人の爲にするを分たず其罪を論ぜずとあるに當る

右の理由に依り治罪法第二百二十四條の規則に從ひ被告人座田秀重に對し免訴放免を言渡すものなり

明治二十二年二月廿三日
東京輕罪裁判所に於て
豫審判事　松岡歸之
書記　太郎館季房

（同月二十六日『讀賣新聞』第四千二百四十一號）

## ●刺客のハダカ屍體

去る十一日森邸にて殺されたる刺客西野文太郎の死體を青山墓地へ假埋葬せし後、二三日經て同人生前の知己有志者が引取り谷中天王寺墓地内に改葬せんと其假埋葬したる所を掘り起せしに二三鍬にして屍體が顯はれ且つ殆ど裸體にて其創口等も露出なるより穴掘でさへ手を引くばかりに打驚きたりと右は二人の人足が屍體の衣服を剝ぎ取りて神田左衛門町の屑屋野崎喜之助へ金四圓にて賣拂ひたる事が分り二人は昨日左の如く申し渡されたり

東京府麴町八丁目八番地住居平民塵芥取職業
被告　丸山浪吉　三十四年四ヶ月
同府牛込市ヶ谷佐内坂町卅五番地士族人力車夫
被告　粟屋精太郎　二十四年六ヶ月

右窃盜被告事件審理を遂る處明治二十二年二月十一日故森文部大臣遭難の際刺客西野文太郎は現場に於て某の殺す所となりしに其死體假埋葬方を麴町區役所より同區上六番町二十三番地植田弦之助に受請はしめ同人より被告兩名を雇ひ其事を托し被告兩名は之を肯んじ文太郎の死屍を森邸より麴町警察署を經て青山墓地へ送り假埋葬を爲すに當り被告兩名は共謀し其死屍に着せありたる黑八丈羽織一枚、博多結城袷一枚、木綿黃八丈胴着一枚、小倉袴一着、襦袢一枚、博多帶一筋、靴一足を窃取し其死屍を裸體の儘にて埋めたるものなり其證憑は被告兩名が當公廷に於ての申供警視廳に於て爲したる被告兩名及植田弦之助野崎喜之助の調書麴町區書記長降慶三郎の手續書現在の博多帶其他關係人等の始末書等に依り充分なりとす因て之を法律に照すに被告兩名が所爲は刑法第三百六十六條第條三百六十九條同第三百七十六條に該當し同第百四條に依り皆正犯となし被告兩名を各重禁錮六月に處し監視六月に附す

證據として差押へたる博多帶一筋は治罪法第三百八條に依り文太郎親族名代兼重健吉へ還付す

明治二十二年二月十九日東京輕罪裁判所に於て檢事恩地轍立會言渡す

始審裁判所判事　三浦芳介
裁判書記　神谷敏行

（同月二十日發行『讀賣新聞』第四千二百三十六號）

× × × × ×



## 古褌を祝物として左院事務總裁に贈呈す

此珍事件の判決は本書二十六頁に掲出すべきものであつた、それを圖らず遺忘して居たのである、さりとて之を棄てるに忍びず、茲に追補として記して置く

明治八年七月十五日發行の『郵便報知新聞』に載つて居たものであるから、東京裁判所の言渡は前日か前々日の事であらう、又事件は臺灣征討問題につき清國と開戰せずして償金を取つたこと、事務總裁とは左院の後藤象二郎であらう

（公判）

高知縣士族　池月眞澄

其方儀清國と葛藤解け終に償金を獲るに際し曾て戰爭一派に凝結せる宿志の貫徹せざる失望快鬱を散す可しと仙頭孤桐申合せ去る七年十一月九日事務總裁の邸宅に赴き陽に平定の賀を演べ陰に耻辱を與へんと自から用ふる汚穢の犢鼻褌を脱ぎ幣物と做して呈する科、雜犯律不應爲重きに問擬し禁獄七十日申付る

仙頭孤桐は池月眞澄の從たるを以て一等を減じ禁獄六十日申付らる今茲に其文を略す

此古褌を呈すといふ事は無意義の惡戲でなく諷諭的の寓意があつたらしい

## 自跋

不成文律に等しき時代の裁判、朝令暮改と呼ばれし時代の裁判、其法文の幼稚、法理の不徹底、判決の非常識には哀むべきあり又笑ふべきもある、それがヤガテ法律の進歩、運用の進歩、社會思想の進歩、政體制度の進歩で、六十年經過の現今、ヤ、民衆的裁判に近づきつゝあるが、其道程の觀察を無用視する者は、現實に即するのみにて、過去の如何を顧みず、隨つて未來の希望をも有せざる盲目的國民である



大正十五年八月下旬印刷
大正十五年九月十五日發行

（文明開化第四篇）定價金貳圓五拾錢

東京市下谷區上野櫻木町十七番地
編纂兼發行者　（宮武）外骨

印刷者　東京市本郷區動坂町三一七番地　明正舍　小國直太郎

發行所　東京市下谷區上野櫻木町二十二番地
半狂堂
電話下谷三七〇一番
振替東京三九四二〇番

不許複製

166
321

改訂增補

# 筆禍史

再版

全一册

發行所　朝香屋書店

166
321

中村堂